

継続的な改善活動のために！

2016

在学生・卒業生・教職員

# KIT総合アンケート調査結果 [報告書 (抜粋)]

学校法人 金沢工業大学

## KIT総合アンケート調査結果について

学長 大澤 敏

平成28年の大学進学率は過去最高の52%に達し、大学教育のユニバーサル化が続いています。このような中で学生の考え方、気質も大きく変化しています。これに予測困難な社会情勢が加わり、社会から必要とされる大学を標榜する本学は、常に教育の質を分析し、必要に応じて不断の改革を行う必要があります。資源小国である我が国にとって人材と言う『財』を然るべく育成し、科学技術立国として世界の中で日本が発展するための理工系総合大学として存続し続けなければなりません。一方で、卒業生の質的保証や当該大学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。新入生から卒業生までを網羅したKIT総合アンケート結果は本学の教育の方向性に対して多くの示唆を与えるものです。

金沢工業大学の教育目標は、「自ら考え行動する技術者の育成」です。学生は本学の教育システムの中で学び、基礎知識と技能を確実に身につけ、それを基に、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に行動する人材として社会で活躍することになります。最も大切なことは、1日150科目以上開講される授業の質と課外活動、教職員のモチベーションであり、これが学生の成長にどのようにつながっているのかについて、学生・卒業生・教員・職員の立場から分析し、如何なる改善をなすべきかを知り、それを基にした教育改革を進める必要があります。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者である(有)アイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまで全てを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の工学教育・技術者教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生の質的保証や在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます。

# 目次

※本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動しておりません。

<1>	本調査の全体像	1
<2>	在学生、卒業・修了生の基本属性	7
<3>	在学中の目的・目標意識	11
<4>	大学に対する満足度	17
<5>	授業・学習支援の評価	43
<6>	課外活動に関して	81
<7>	大学院進学に関して	93
<8>	教職員と大学の改善取り組み状況の評価	105
<9>	KIT-IDEALSに関して	113
<10>	卒業時の能力	123
<11>	卒業・修了生アンケートの分析結果	131
<12>	新入生アンケートの分析結果	143
<13>	教職員アンケートの分析結果	161
<14>	全体のまとめ	175
<15>	調査票見本	201

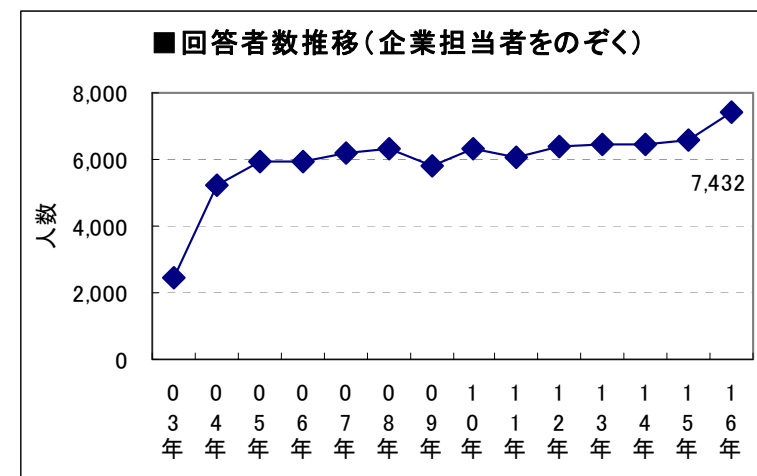
# <1-1> 調査の目的と概略

## ■ 調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在學生(新入生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価や満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- 上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が14回目となる。同一内容で比較できる設問に関しては時系列変化で分析している。

## ■ 調査方法

調査時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2016年2月～4月に実施。</li> <li>・ 在學生への調査期間は、2005年の調査より、年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。</li> </ul>
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「在學生」は学内で配布して、「教職員」はメールで配信し、回収ボックスで回収した。「卒業・修了生」は郵送によって配布、回収した。</li> <li>・ 全て『無記名式』とした。</li> </ul>
回収数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回の全回収数は7,432サンプルであった。</li> <li>・ 属性別の回収数は下記の通り。</li> </ul>
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計分析	(有)アイ・ポイント



## ■ 年度別回収数

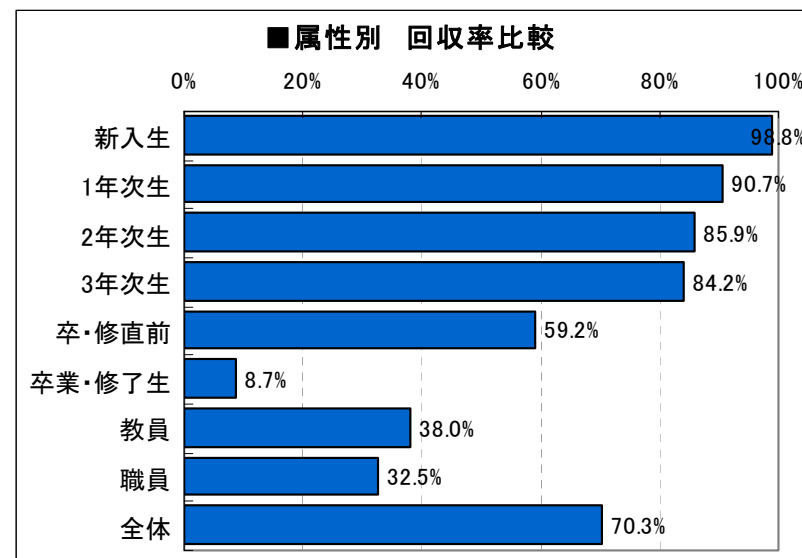
対象者	調査時点での属性	03年 回収数	04年 回収数	05年 回収数	06年 回収数	07年 回収数	08年 回収数	09年 回収数	10年 回収数	11年 回収数	12年 回収数	13年 回収数	14年 回収数	15年 回収数	16年 回収数
新入生	入学直後	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	1,568	1,723	1,607	1,745	1,886	1,614	1,664	1,604
1年次生	1年次終了時点	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	1,369	1,293	1,411	1,299	1,562	1,587	1,447	1,519
2年次生	2年次終了時点	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	1,146	1,185	1,022	1,321	1,059	1,337	1,545	1,439
3年次生	3年次終了時点	106	449	441	599	768	793	643	760	781	756	741	769	744	1,520
卒業・修了直前	卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	711	960	808	873	829	790	865	970
卒業・修了生	卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	110	137	149	146	144	104	125	124
教員	在職中の教員	143	133	151	157	136	118	118	112	115	108	118	131	80	134
職員	在職中の職員	187	131	134	153	144	109	155	148	202	139	143	93	91	122
企業担当者	卒業生の就職企業	—	—	485	—	—	660	—	—	686	—	—	872	—	—
合計(企業除く)		2,454	5,205	5,955	5,962	6,221	6,309	5,820	6,318	6,095	6,387	6,482	6,425	6,561	7,432

※2014年より、「卒業・修了直前」は「卒業直前」と「修了直前」に、「卒業・修了生」は「卒業生」と「修了生」に分けて調査票を作成したが、件数としては合わせた数で表示している。

## ■属性別回収率

属性	配布数	回収数	回収率
新入生	1,623	1,604	98.8%
1年次生	1,675	1,519	90.7%
2年次生	1,675	1,439	85.9%
3年次生	1,805	1,520	84.2%
卒業・修了直前	1,638	970	59.2%
在学計	8,416	7,052	83.8%
卒業・修了生	1,422	124	8.7%
教員	353	134	38.0%
職員	375	122	32.5%
全体計	10,566	7,432	70.3%

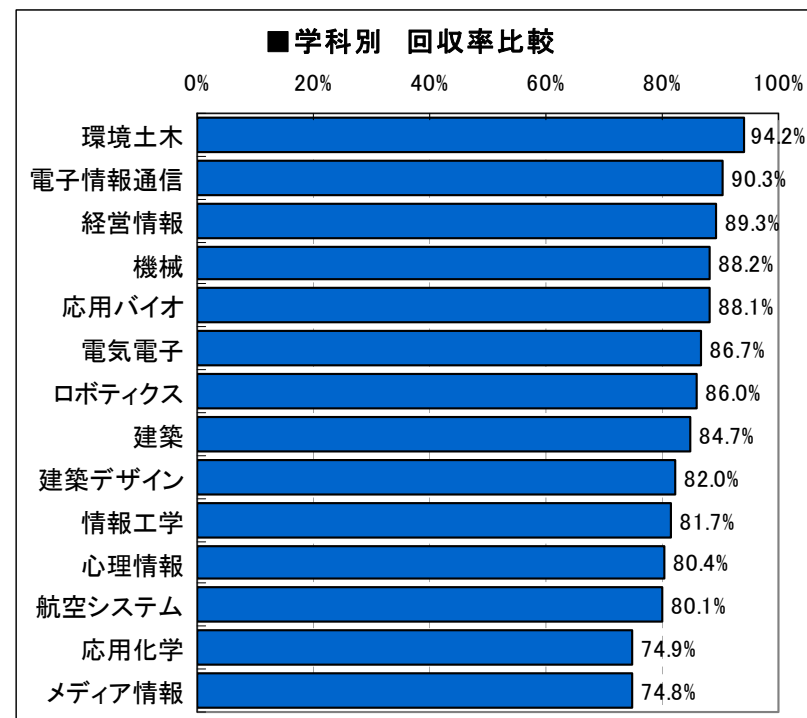
※属性別回収率の「配布数」は実際に調査票を配布した数となる。



## ■学部別・学科別回収率(修了生を除く在学生)

学部	学部別 在籍者数	学部別 回収数	学部別 回収率	学科	学科別 在籍者数	学科別 回収数	学科別 回収率
工学部	4,398	3,759	85.5%	機械	1,082	954	88.2%
				航空システム	317	254	80.1%
				ロボティクス	572	492	86.0%
				電気電子	1,025	889	86.7%
				電子情報通信	290	262	90.3%
				情報工学	1,112	908	81.7%
情報 フロンティア 学部	1,325	1,050	79.2%	メディア情報	746	558	74.8%
				経営情報	299	267	89.3%
				心理情報	280	225	80.4%
環境・建築学部	1,643	1,407	85.6%	建築デザイン	657	539	82.0%
				建築	640	542	84.7%
				環境土木	346	326	94.2%
バイオ・化学部	890	730	82.0%	応用化学	411	308	74.9%
				応用バイオ	479	422	88.1%
全体	8,256	6,946	84.1%	全体	8,256	6,946	84.1%

※学部別・学科別回収率の「在籍者数」は2016年度のものであり、実際の調査票の「配布数」とは異なる。  
また、回収数は学科未記入者は除いた人数となる。



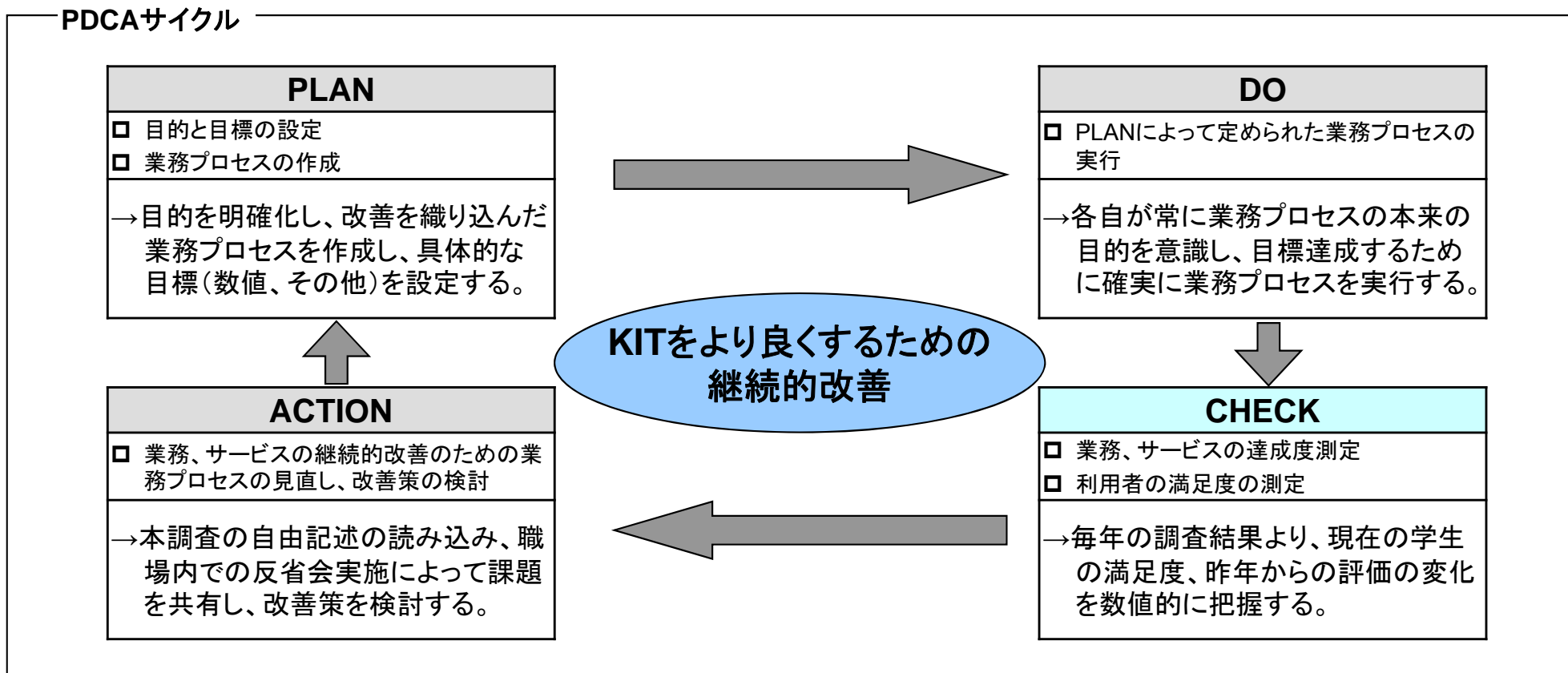
## ■集計に関して

分野	注意点
無回答に関して	<ul style="list-style-type: none"><li>・無回答は全て集計から除外した。</li><li>・割合を見る分析、加重平均を見る分析共に、無回答は除外して集計した。</li></ul>
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"><li>・各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。</li><li>・今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。</li><li>・加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。</li><li>・「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。</li></ul>
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"><li>・折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。</li></ul>

# <1-2> 調査の位置づけ

## ■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

# <2-1> 在学生・卒業生の基本属性

## ■ 所属学部、出身高校の課程、入学に至った入試

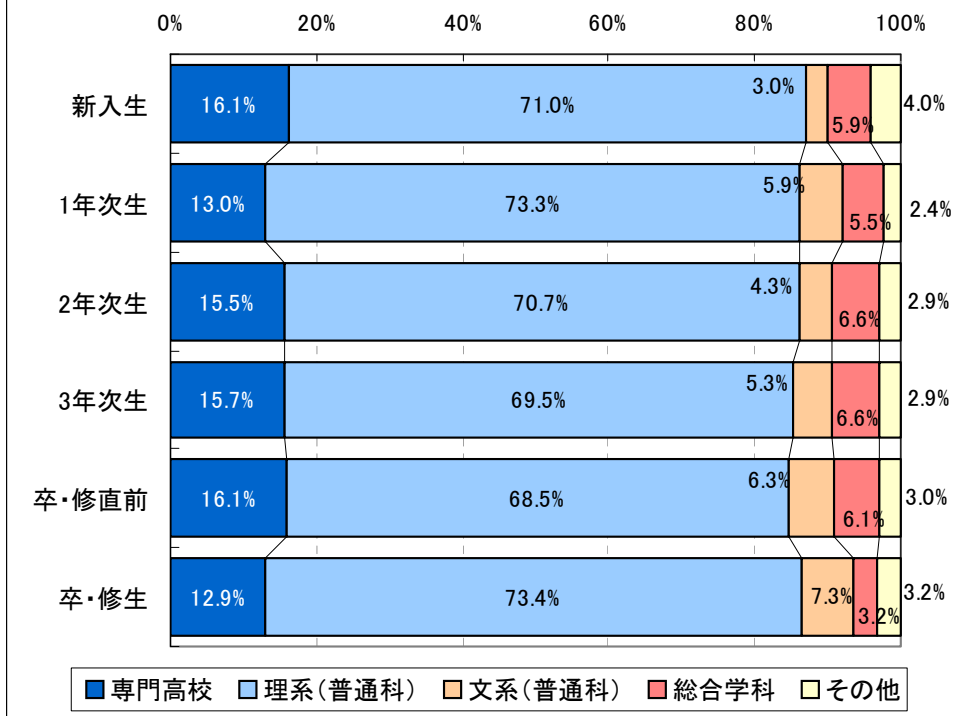
### ■ 在学生・卒業生の所属学部

(単位:人)

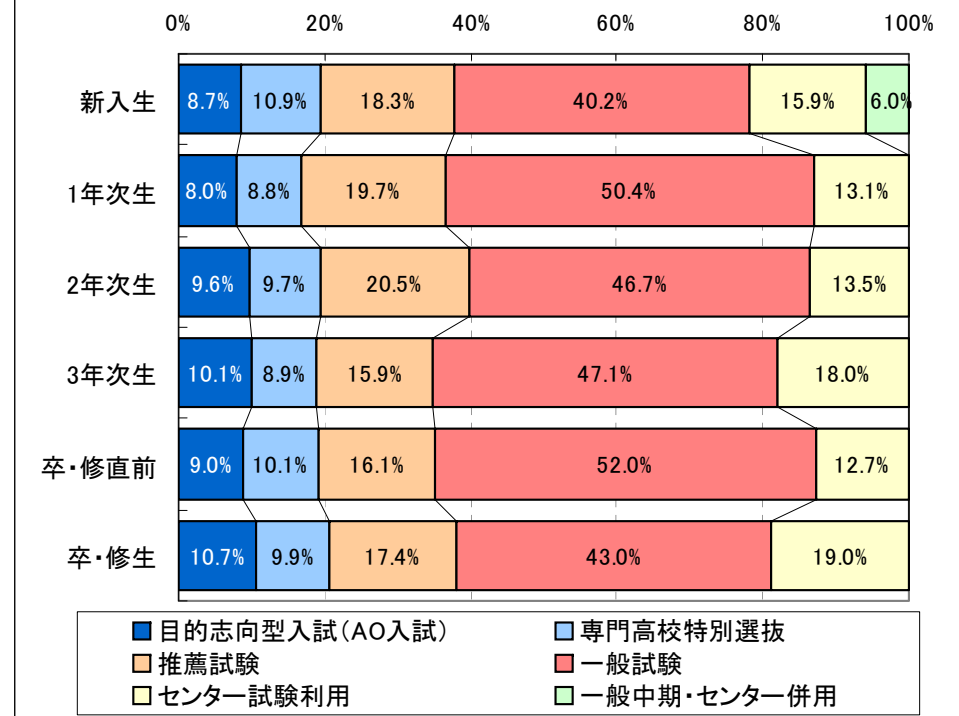
属性	工学部	情報フロンティア学部	環境・建築学部	バイオ・化学部	大学院	無回答	全体
新入生	905	215	347	135	—	2	1,604
1年次生	785	241	323	165	—	5	1,519
2年次生	760	230	296	153	—	0	1,439
3年次生	828	223	297	170	—	2	1,520
卒業・修了直前	481	141	144	107	90	7	970

属性	工学部	情報学部	環境・建築学部	バイオ・化学部	大学院	無回答	全体
卒業・修了生	45	22	21	18	18	0	124

### ■ 出身高校の課程



### ■ 入学に至った入試



※「推薦試験」は「修了生」では「推薦試験・女子特別選抜」となっている。

※「一般中期・センター併用」は「新入生」のみ対象となっている。



■在学生の出身地域

■在学生の出身地域

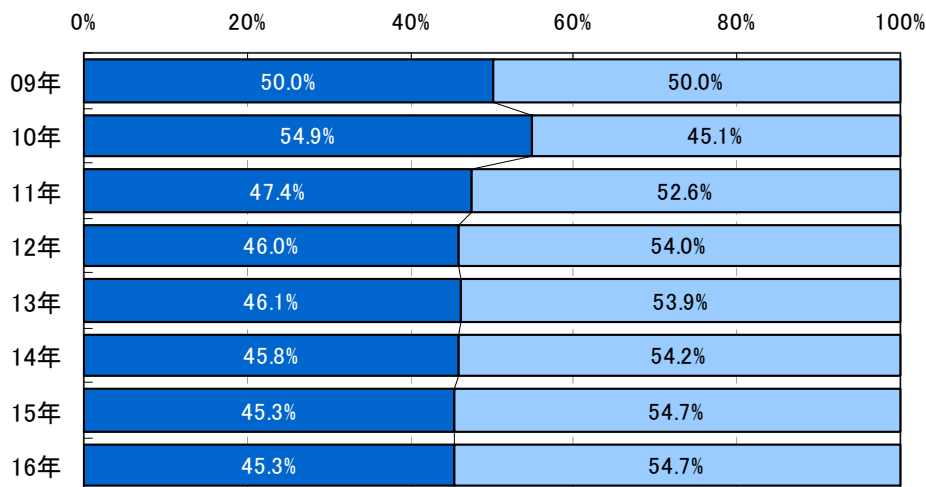
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	全体
1年次生	53	72	198	692	255	151	52	30	1,503
	3.5%	4.8%	13.2%	46.0%	17.0%	10.0%	3.5%	2.0%	100.0%
2年次生	62	62	214	629	223	135	63	43	1,431
	4.3%	4.3%	15.0%	44.0%	15.6%	9.4%	4.4%	3.0%	100.0%
3年次生	78	67	216	698	218	140	55	29	1,501
	5.2%	4.5%	14.4%	46.5%	14.5%	9.3%	3.7%	1.9%	100.0%
卒業・修了直前	56	34	154	422	136	106	36	18	962
	5.8%	3.5%	16.0%	43.9%	14.1%	11.0%	3.7%	1.9%	100.0%
全体	249	235	782	2,441	832	532	206	120	5,397
	4.6%	4.4%	14.5%	45.2%	15.4%	9.9%	3.8%	2.2%	100.0%

# <3-1>在学中の目的・目標意識

## ■現在の目的・目標意識

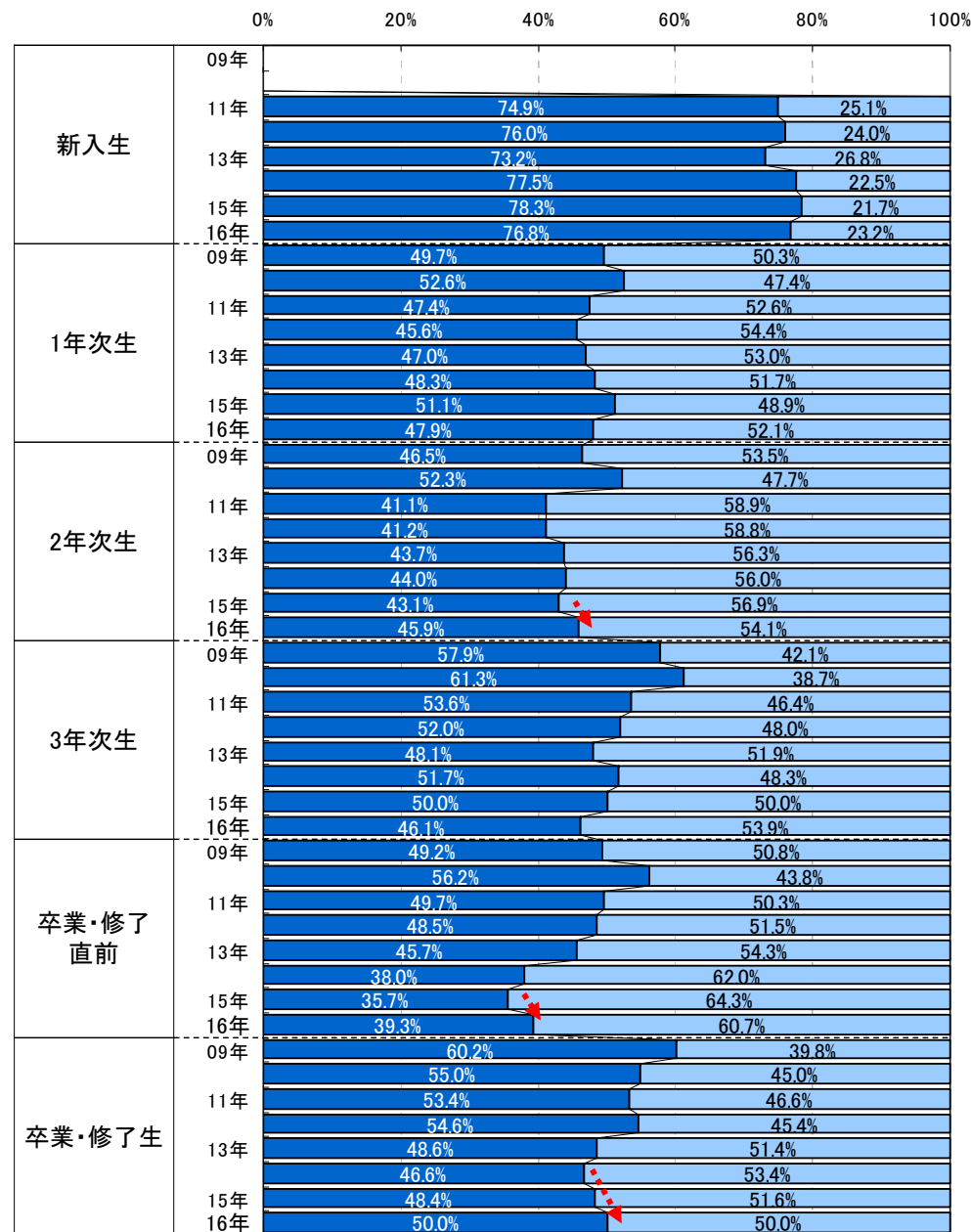
- 「大学生活を送る上で何らかの目的・目標を持っていますか？（新入生には「大学に入ってこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」）」に対しては、「目標あり」が45.3%、「目標なし」が54.7%であり、「目標なし」の方が9.4ポイント多かった。
- 小数点2位以下まで比較すると異なるが、今回は前回と全く同じ結果となり、11年からほぼ横這いとなっていた。
- 学年別・年度別比較を見ると「新入生」が最も高く、前回よりわずかに低下したものの76.8%が「目標あり」と答えており、意識の高さがうかがえた。一方、最も低かったのは「卒業・修了直前」の39.3%で、「1年次生」から「3年次生」も5割を下回っており、「新入生」とは大きな差となっていた。
- 学年別の年度別推移を見ると、「新入生」「1年次生」「2年次生」は横這い傾向が続いており、「卒業・修了直前」は前回は上回ったものの、長期的に見ると「3年次生」と共に低下傾向にあり、高学年ほど「目標」が見えにくくなっているのではないかと思われる。

■現在の大学生活での目的・目標意識（在学生）



※この質問は「新入生」「在学生」「卒業生」に聞いているが、上記グラフは「在学生（大学院を含む）」のみを対象として比較している。

■現在の大学生活での目的・目標意識  
学年別・年度別比較



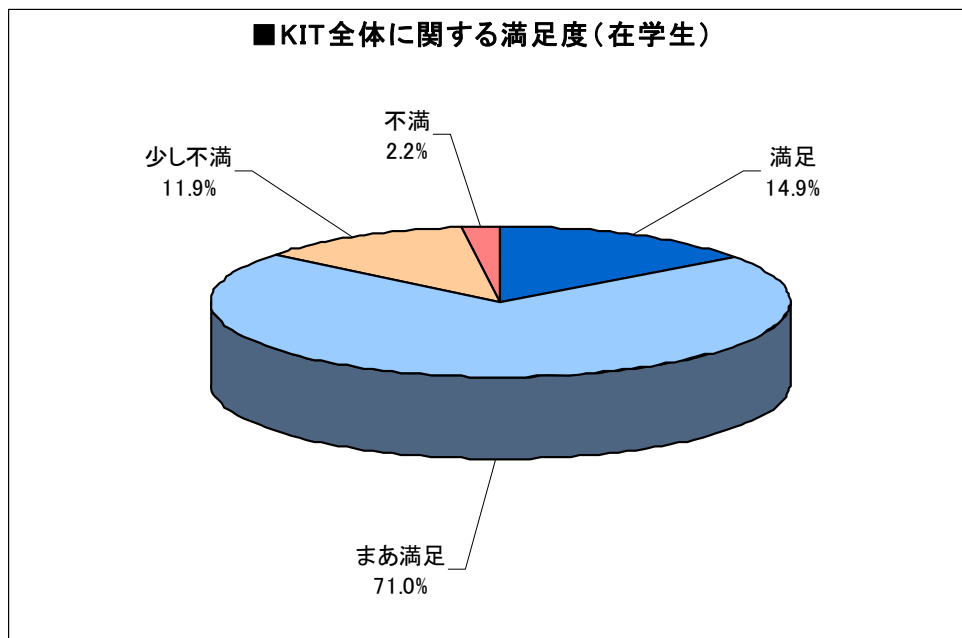
■ 目標あり      ■ 目標なし

※上記グラフでは、「新入生」には今回から「大学に入ってこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」と聞いている。

# <4-1> KITの総合満足度

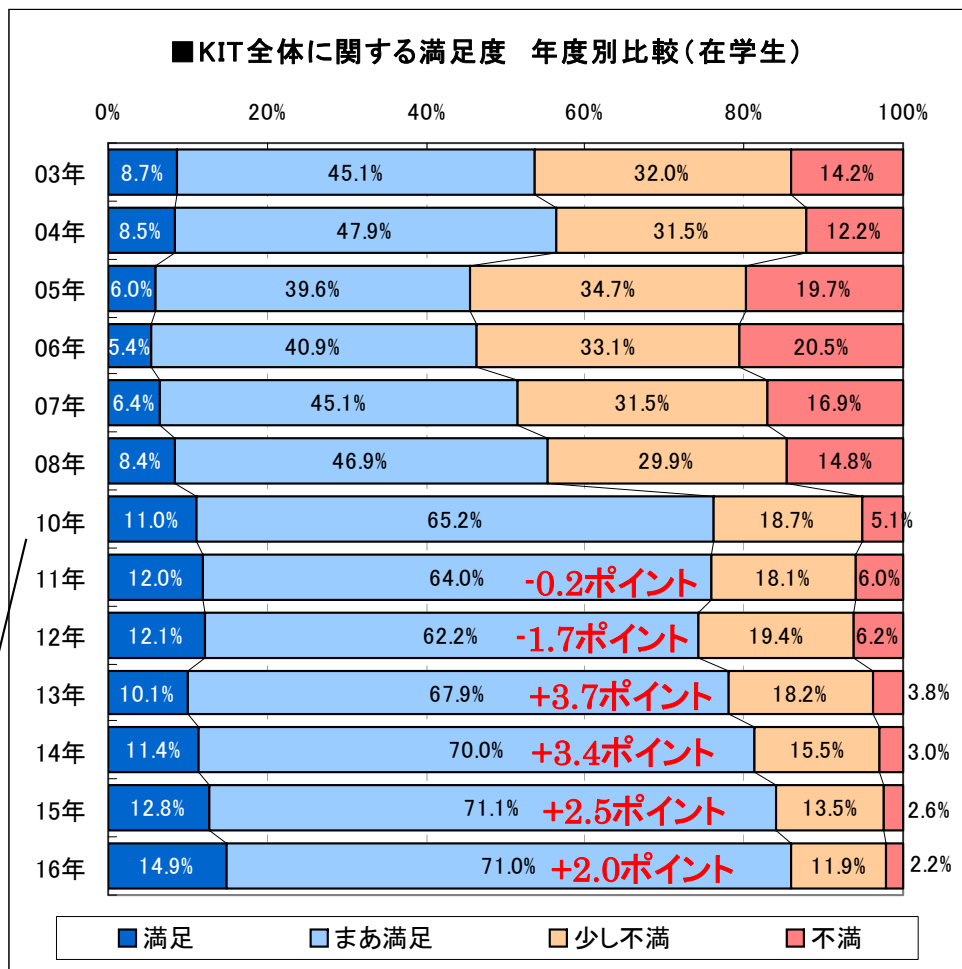
## ■KIT全体に関する満足度

- 「KIT全体に関する満足度」に関しては「満足」が14.9%、「まあ満足」が71.0%であり、合計すると85.9%が満足と答えていた。一方、不満を持っているという回答は14.1%であり、満足という回答の方が71.8ポイント上回っていた。
- KITの総合満足度は08年までは「今のKITに満足していますか?」と聞いており、09年には質問自体を削除している。そして、10年からは「KIT全体に関する満足度」として「満足」～「不満」を選ぶ聞き方になっている。
- 05年から08年にかけては半数程度が満足と答え、その割合はわずかずつ増加していた。10年に聞き方が変わったためか、一気に7割以上が満足しているという回答になっており、12年まではほぼ横這いとなっていた。
- 12年以降は満足度の向上が続いており、今回も前回は2.0ポイント上回って過去最高の満足度となっており、現在の聞き方になった10年と比べても9.7ポイント上回っている。



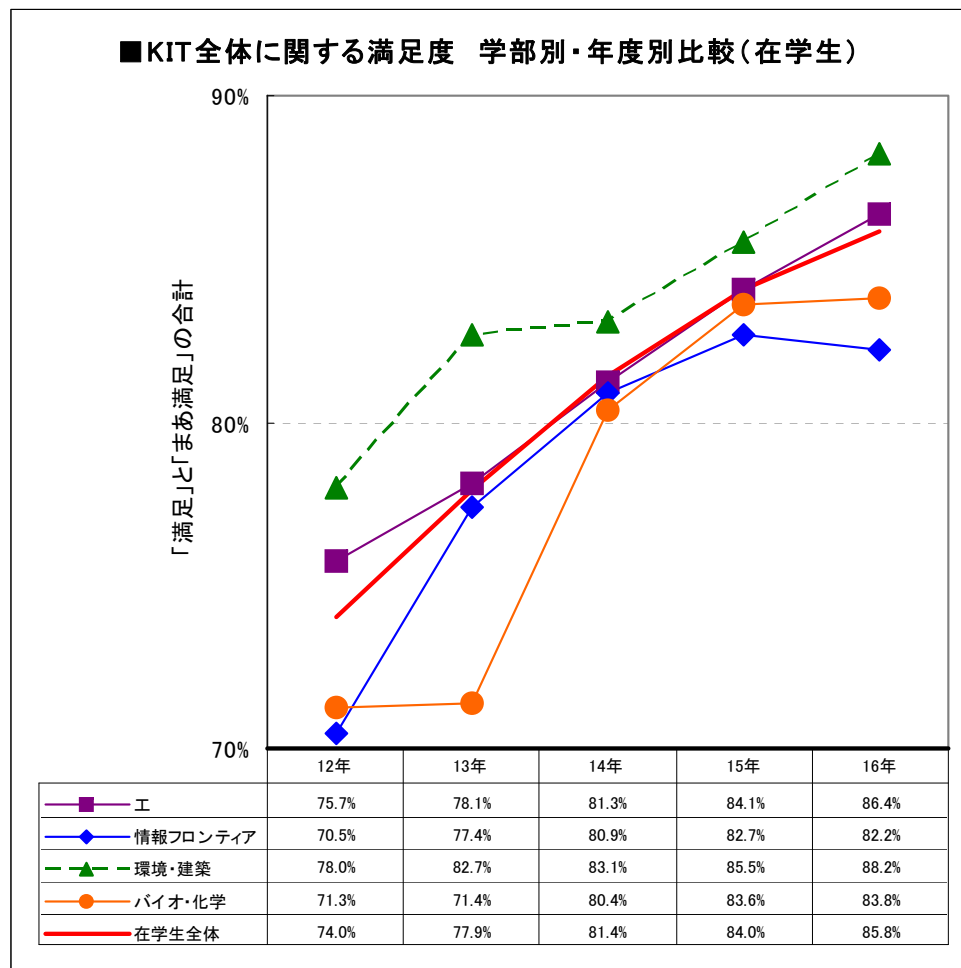
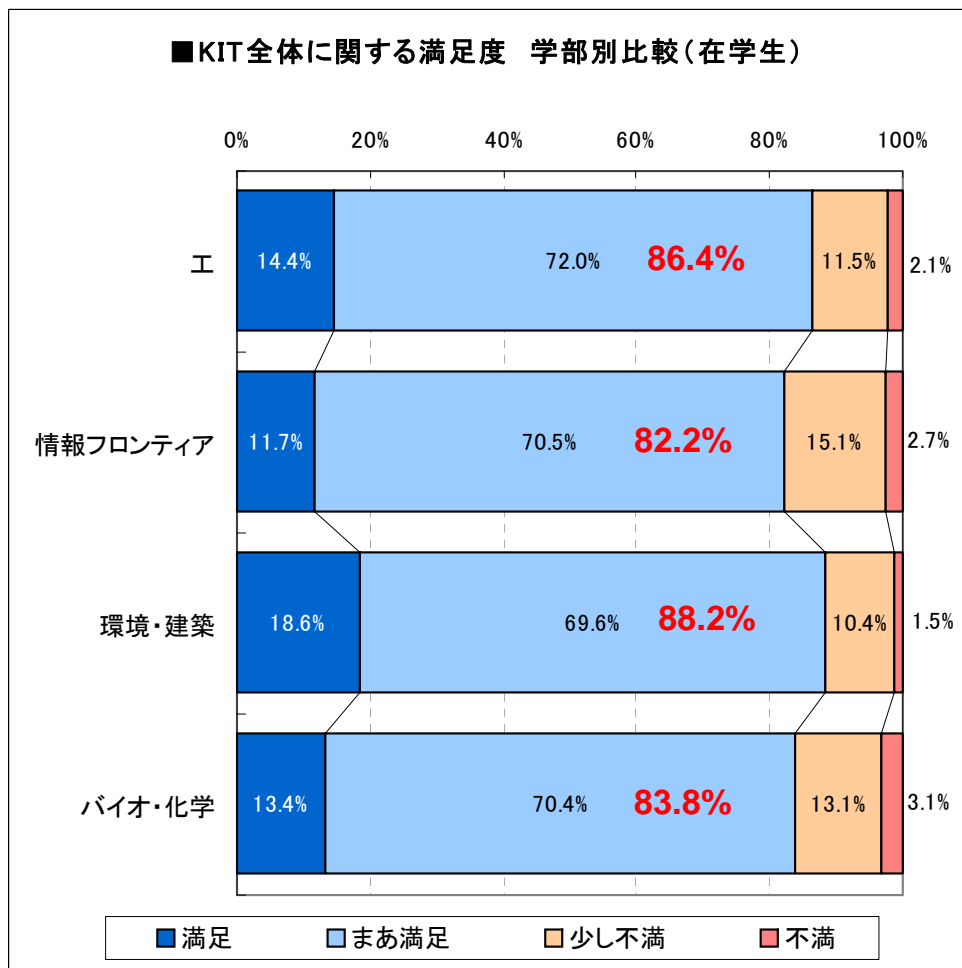
満足している(85.9%) > 不満を持っている(14.1%)

10年から聞き方が  
変わっている



## ■学部別比較

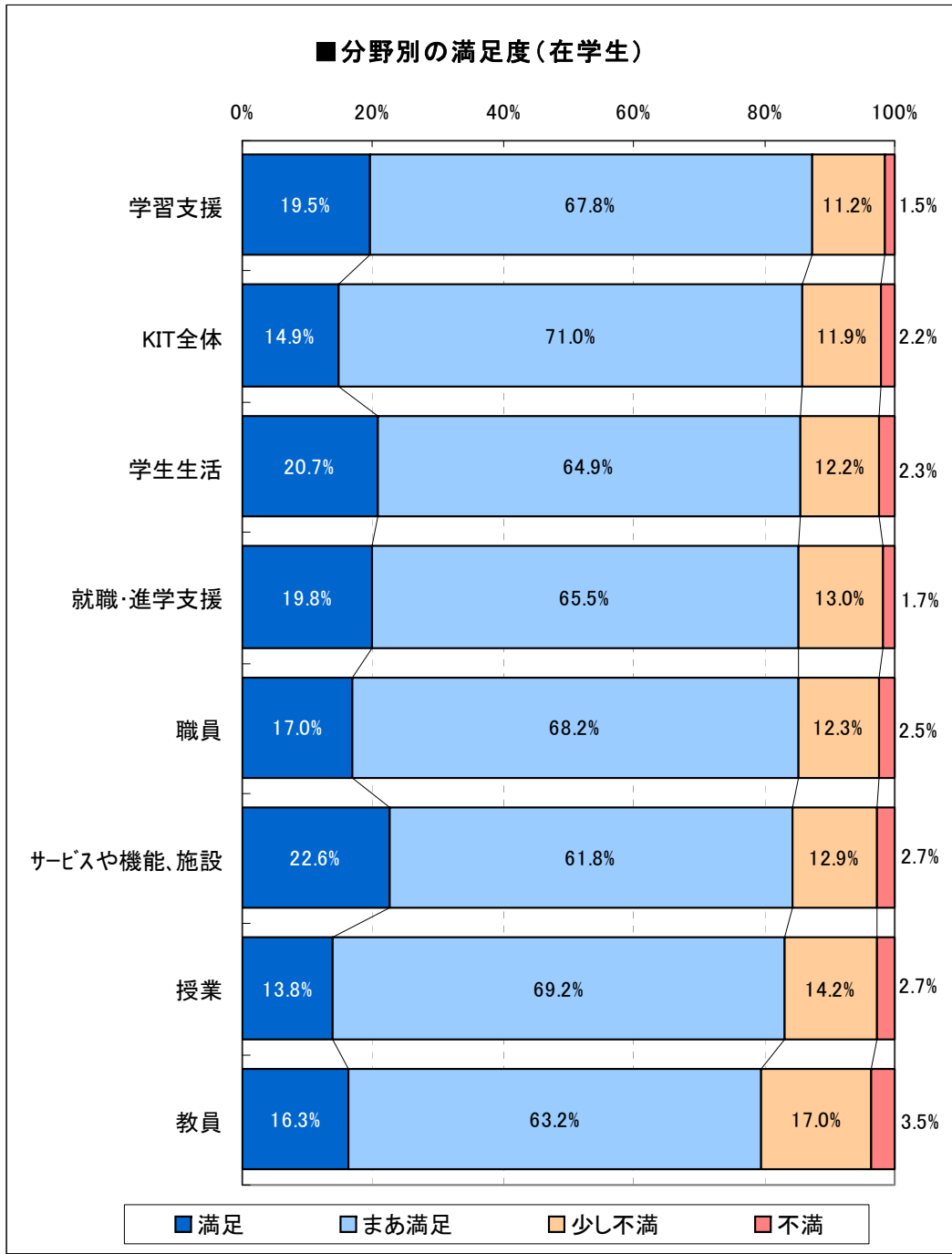
- 学部別の比較では、学部構成が異なる「修了直前」を除いて4学部で集計を行っている。
- 「満足」と「まあ満足」の合計で比較すると、最も多かったのは「環境・建築」の88.2%であり、次いで、「工」が86.4%、「バイオ・化学」が83.8%、「情報フロンティア」が82.2%となっていたが、学部間の差はそれほど大きくなく、「環境・建築」と「情報フロンティア」の差は6.0ポイントであった。
- 4学部制となった12年以降の学部別・年度別の比較を見ると、これまでは全ての学部で前年の満足度を上回る傾向が続いていたが、今回は「情報フロンティア」が前回を下回っていた。また、「バイオ・化学」はほんのわずかに前回を上回って過去最高、「環境・建築」と「工」は12年からの満足度向上が継続しており、いずれも過去最高の満足度となった。



# <4-2>分野別の満足度

## ■分野別満足度

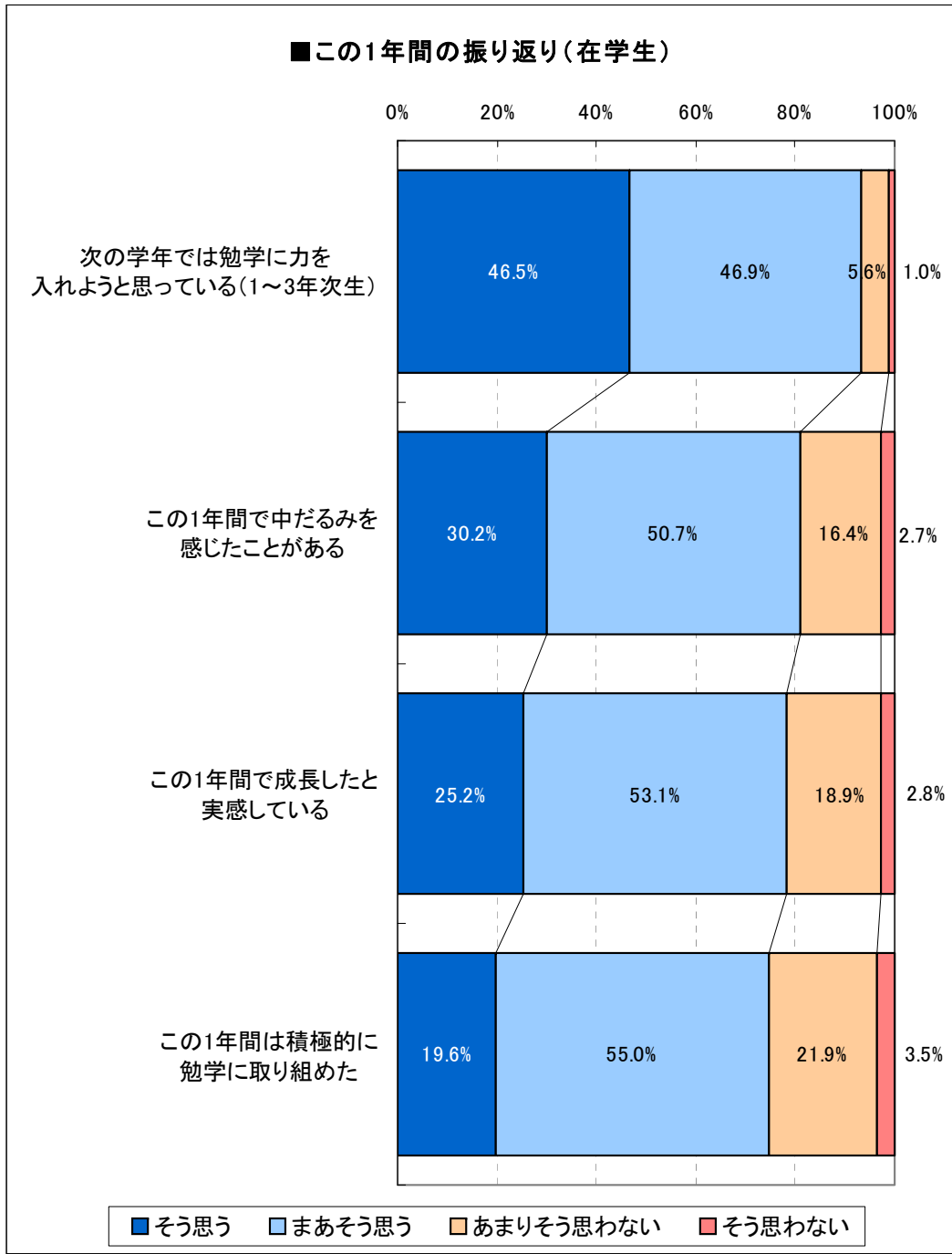
- 分野別の満足度を比較したところ、最も高かったのは「学習支援」の87.3%であり、次いで、個別に分析した「KIT全体」が85.9%、「学生生活」が85.6%と続いていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「教員」で、「満足」と「まあ満足」の合計は79.5%であり、「不満」と「少し不満」の合計は20.5%であった。そして、「授業」では不満を持つ割合が16.9%、「サービスや機能、施設」では15.6%であった。ただし、「サービスや機能、施設」では「満足」という回答が22.6%と最も多く、高い満足を感じている学生も多いと言える。



# <4-3>この1年間の振り返り

## ■この1年間の振り返り

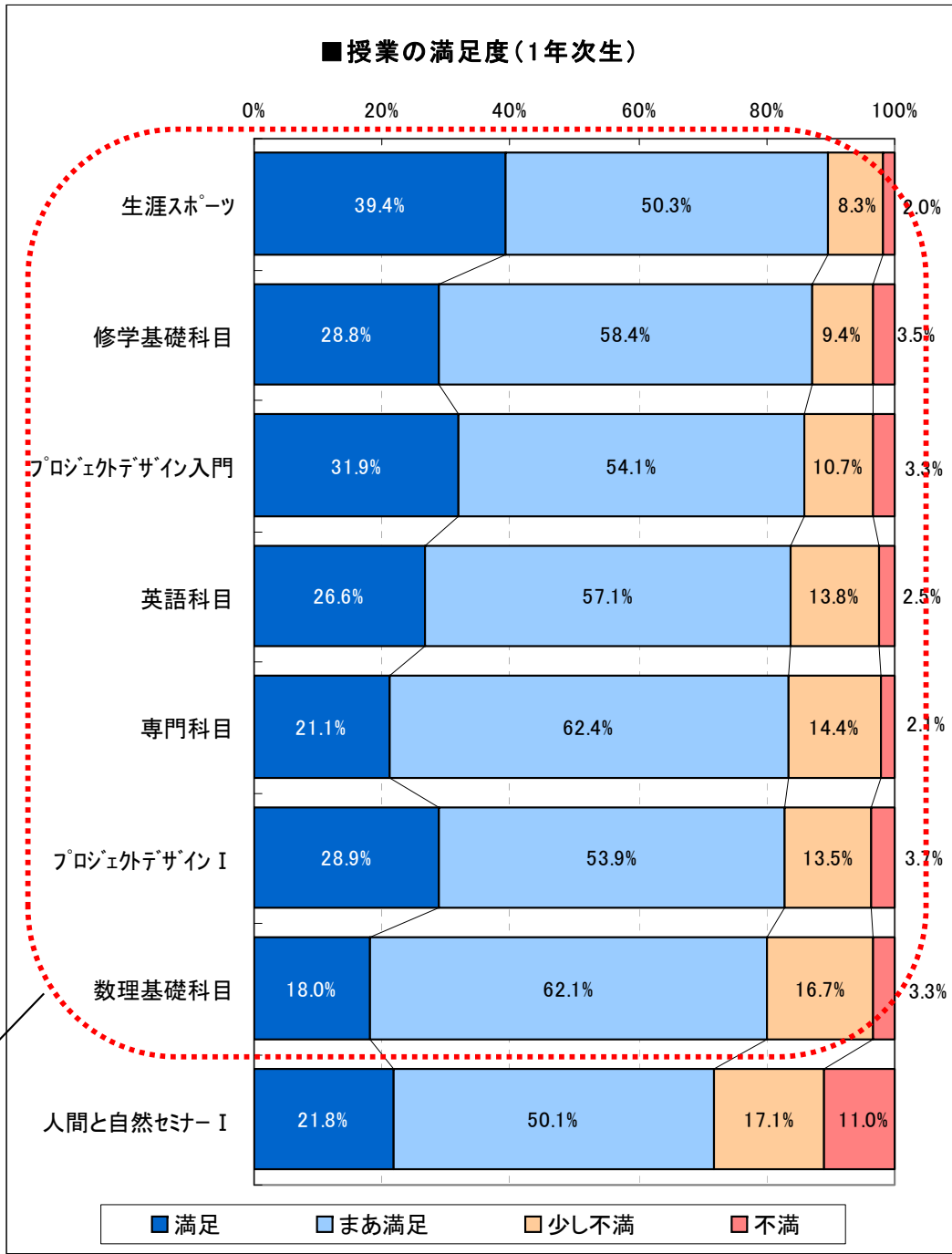
- 「この1年間の振り返り」で肯定的な意見が最も多かったのは、「次の学年では勉学に力を入れようと思っている」の93.4%であった。この項目は特に、「そう思う」だけを見ても46.5%と半数に近く、前向きな様子が見え始める結果であった。
- 上記に次いで肯定的な意見が多かったのは「この1年間で中だるみを感じたことがある」の80.9%であった。この質問では、肯定的であるほど中だるみを感じているということになり、全体の8割が中だるみを感じているようである。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「この1年間は積極的に勉学に取り組めた」の74.6%であり、25.4%が勉学に積極的ではなかったと感じていた。また、「この1年間で成長したと実感している」では78.3%が肯定的な意見であり、21.7%が成長を感じることができなかったようである。



# <5-1> 授業の評価

## ■ 授業の評価 1年次生

- 「1年次生」の授業満足度では「人間と自然セミナー I」を除いた全ての科目で満足している割合が8割を超えており、全体的に満足度は非常に高いと言える。
- 最も満足度が高かったのは「生涯スポーツ」であり、満足している割合は89.7%であった。次いで、「修学基礎科目」が87.2%、「プロジェクトデザイン入門」が86.0%であった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人間と自然セミナー I」だったが、満足している割合は71.9%であり、決して満足度が低いわけではなかった。

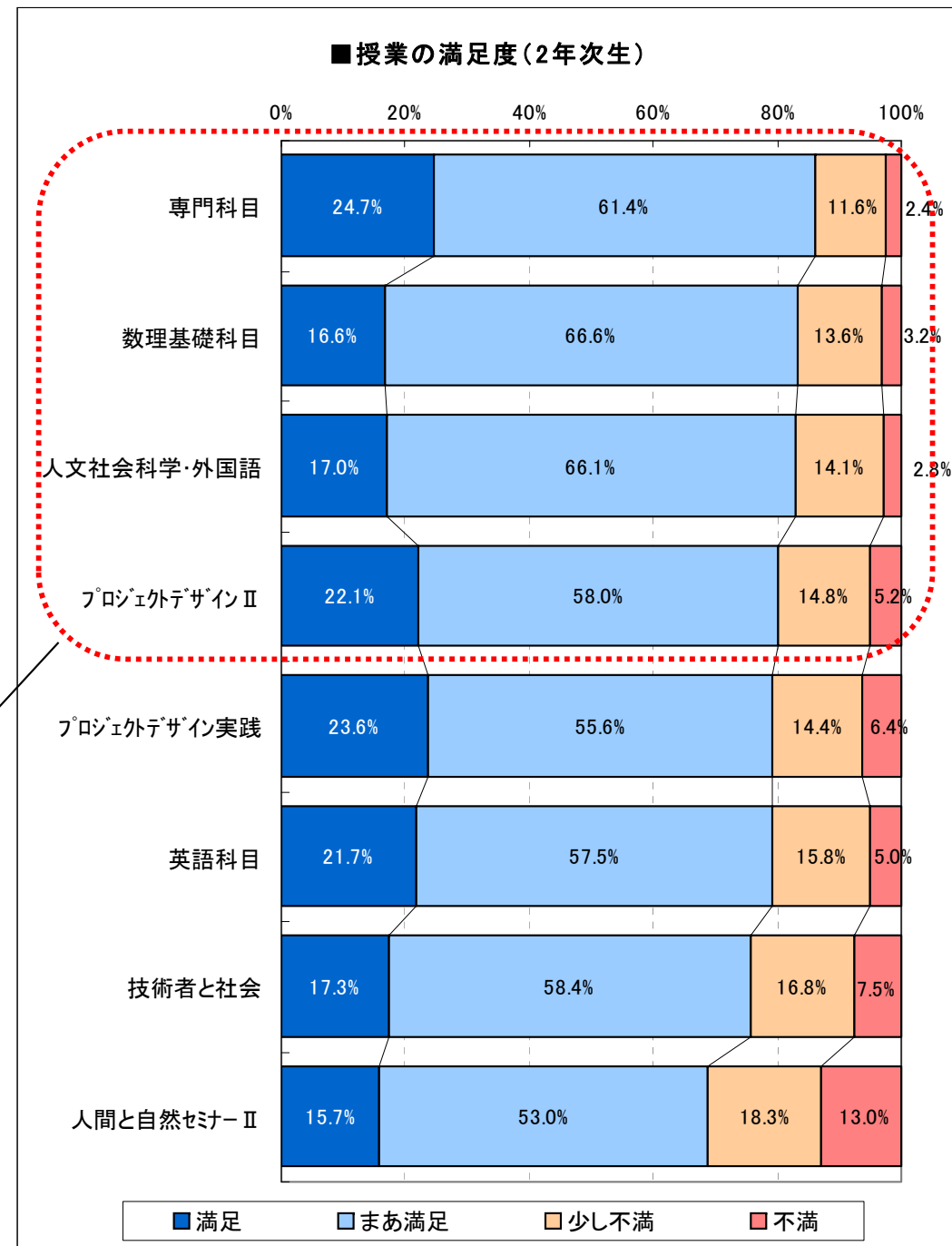


満足している層が8割以上

## ■授業の評価 2年次生

- 「2年次生」の授業で満足している割合が8割を超えていたのは「専門科目」(86.1%)、「数理基礎科目」(83.2%)、「人文社会科学・外国語」(83.1%)、「プロジェクトデザインⅡ」(80.1%)の4科目であった。
- 次いで「プロジェクトデザイン実践」と「英語科目」が79.2%であり、この2科目もほぼ8割が満足していた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人間と自然セミナーⅡ」で、満足しているという割合は68.7%であり、8科目の中で唯一7割に満たなかった。

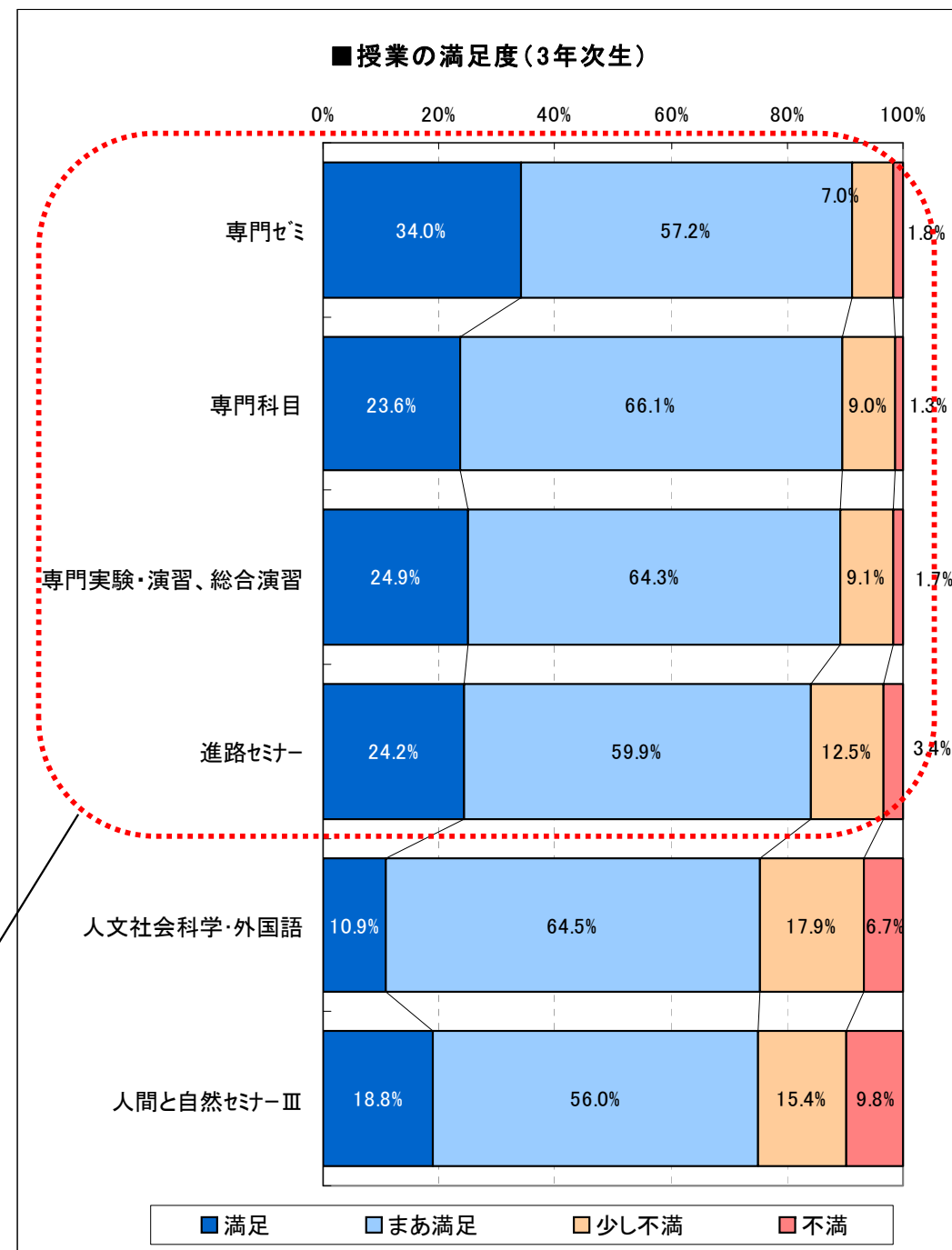
満足している層が  
8割以上





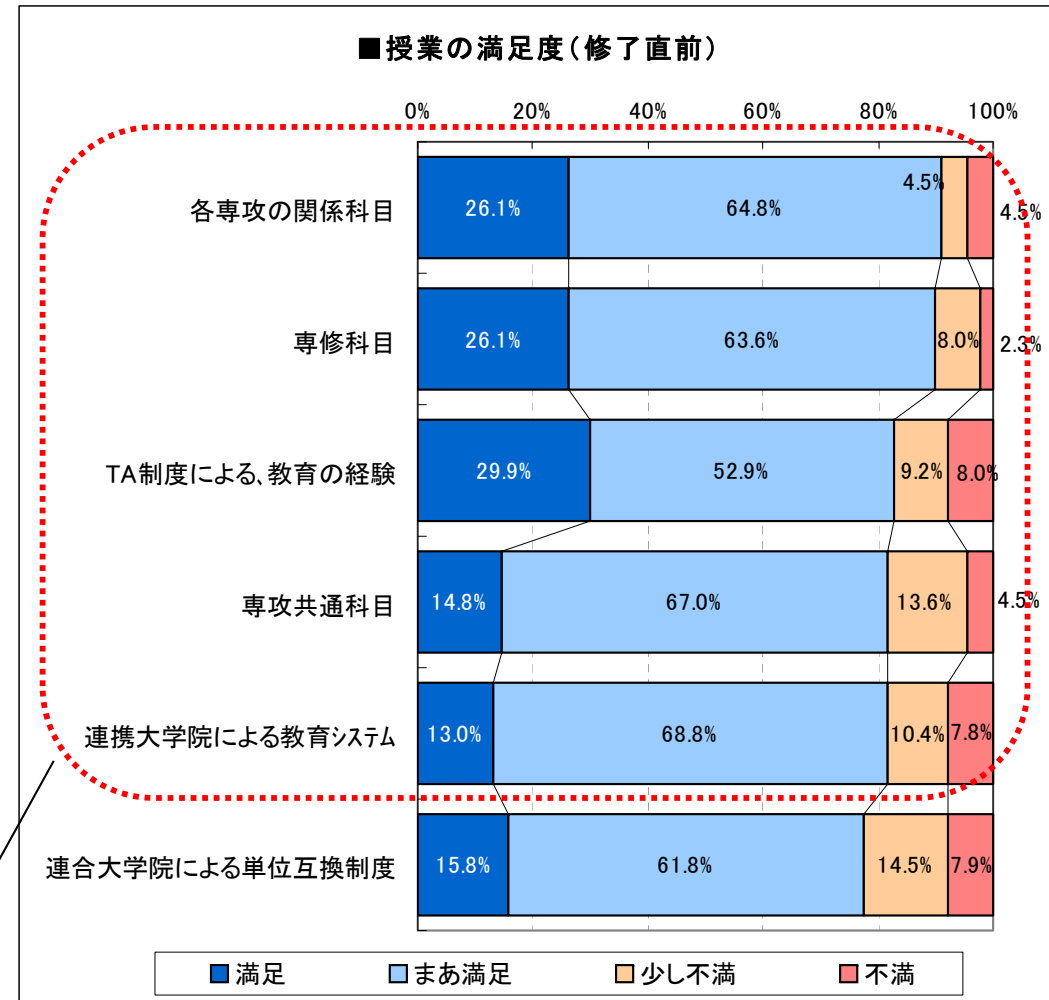
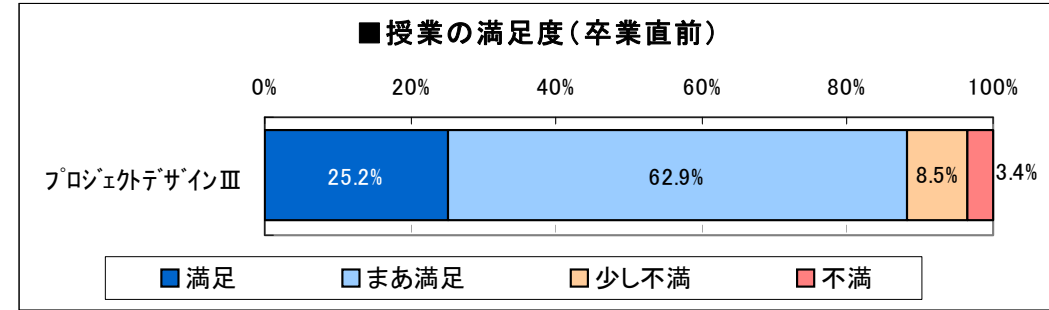
## ■授業の評価 3年次生

- 「3年次生」の授業で最も満足度が高かったのは「専門ゼミ」の91.2%であり、次いで「専門科目」が89.7%、「専門実験・演習、総合演習」が89.2%、「進路セミナー」が84.1%であり、ここまでの4科目では満足している層が8割を超えており、専門系の科目で満足度が高いことが分かった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人間と自然セミナーⅢ」であり、満足している割合は74.8%であった。ただし、「満足」という回答だけを見ると18.8%であり、満足度が高い学生も少なくないことが分かった。



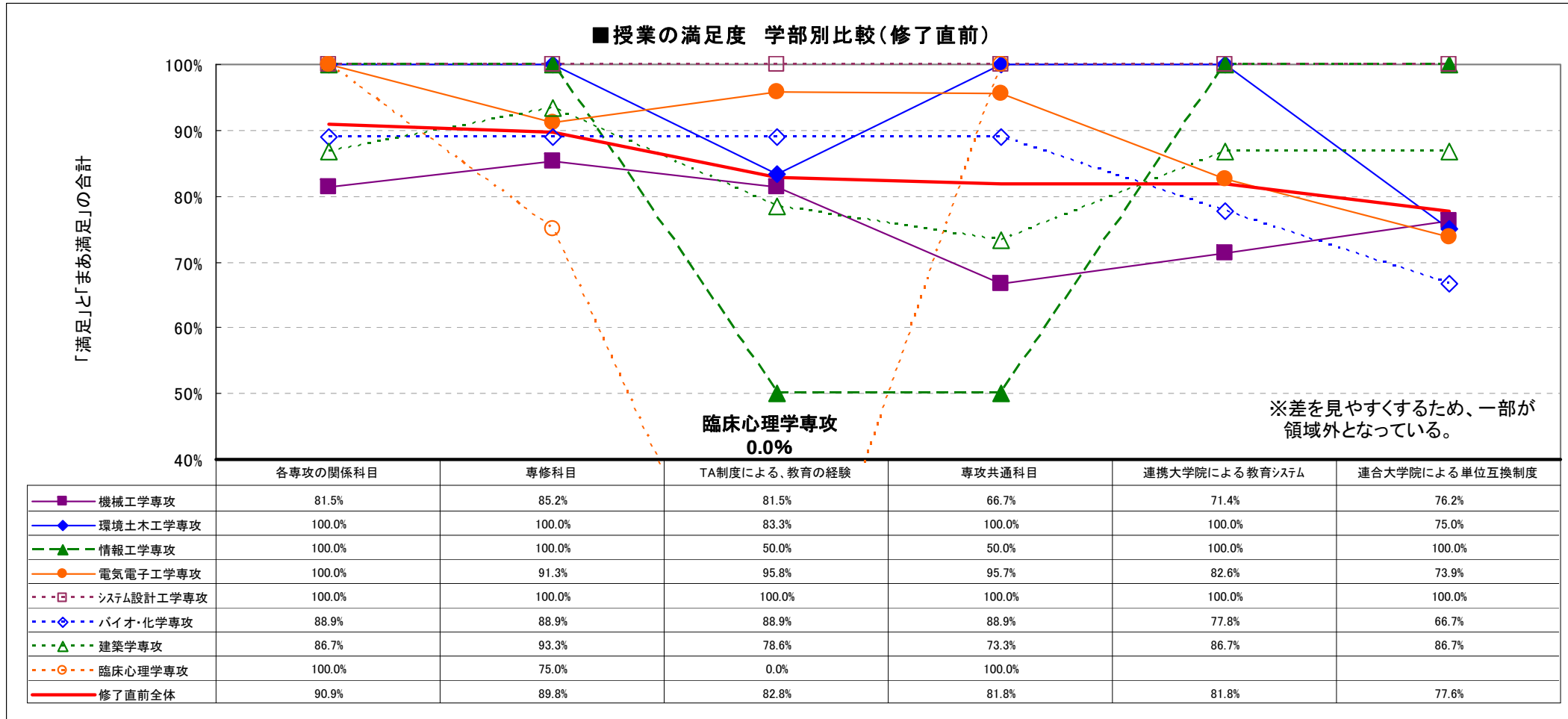
## ■授業の評価 卒業・修了直前

- 「卒業直前」に対しては「プロジェクトデザインⅢ」の満足度だけを聞いているが、満足している割合は88.1%であり、満足度は高かった。
- 「修了直前」には6科目の満足度を聞いているが、「連合大学院による単位互換制度」以外の科目は全て満足している割合が8割を超えていた。
- 最も満足度が高かったのは「各専攻の関係科目」であり、肯定的な意見の合計は90.9%であった。次いで、「専修科目」が89.7%、「TA制度による、教育の経験」は82.8%であり、ここまでの3科目は「満足」という回答だけをみても25%を超えていた。
- 前出しているが、最も満足度が低かったのは「連合大学院による単位互換制度」であり、満足している割合は77.6%で、不満を感じている意見は22.4%であった。



## ■専攻別比較 修了直前

- 「修了直前」は対象者数が90名であり、「システム設計専攻」と「情報工学専攻」は各2名、「臨床心理学専攻」は4名と少なかつたためやや偏つた結果となっているが、参考としてグラフ化している。
- 上記以外の専攻を見ると、「電気電子工学専攻」の満足度がやや高めであり、「機械工学専攻」が低めとなっていた。そして、「バイオ・化学専攻」と「建築学専攻」は平均的な満足であった。

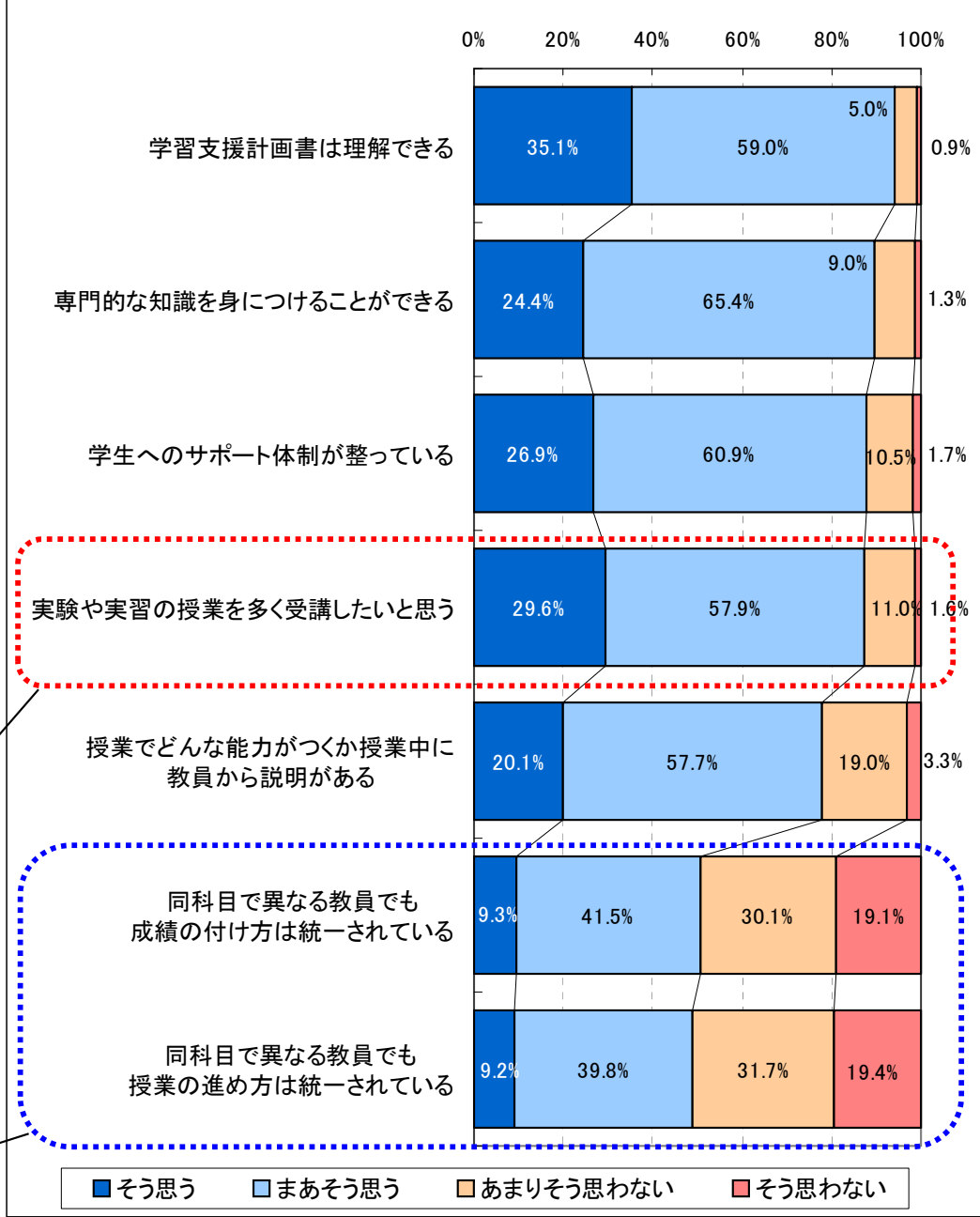


# <5-2> 授業の仕組みの評価

## ■ 授業の仕組みの評価

- 授業の仕組みの評価には、現状の評価を聞く質問と要望を聞く質問が混在している。
- 要望を聞く質問を除くと「学習支援計画書は理解できる」で肯定的な意見が94.1%であり、非常に評価が高かった。この項目では「そう思う」という回答が35.1%と非常に多く、評価の内容も高いと言える。次いで、「専門的な知識を身につけることができる」が89.8%、「学生へのサポート体制が整っている」が87.8%と続いていた。
- 一方、評価が低かったのは「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」の49.0%と「同科目で異なる教員でも成績の付け方は統一されている」の50.8%で、この2項目ではいずれも半数の学生が不満を感じており、教員の授業の進め方と成績の付け方の統一が強く望まれていると言える。
- 要望を聞く質問として、「実験や実習の授業を多く受講したい」と思うかどうかを聞いているが、肯定的な意見が87.5%であり、9割近くが実験や実習の授業を望んでいることが分かった。

■ 授業の仕組みの評価 (在学生)



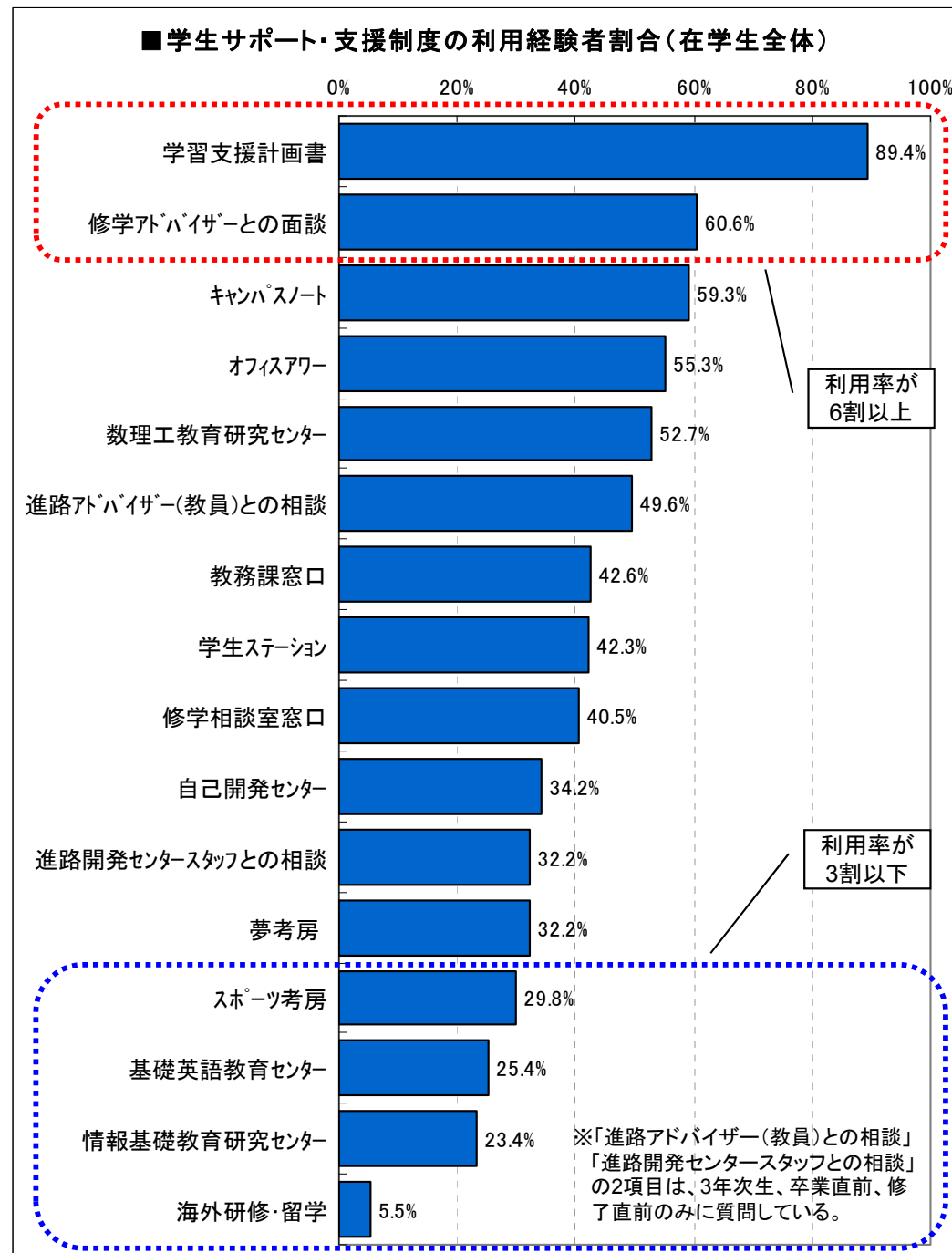
要望を聞く質問

「同科目で異なる教員」の対応に大きな不満がある

# <5-3> 学生サポート・支援制度の利用状況

## ■ 学生サポート・支援制度の利用経験者割合

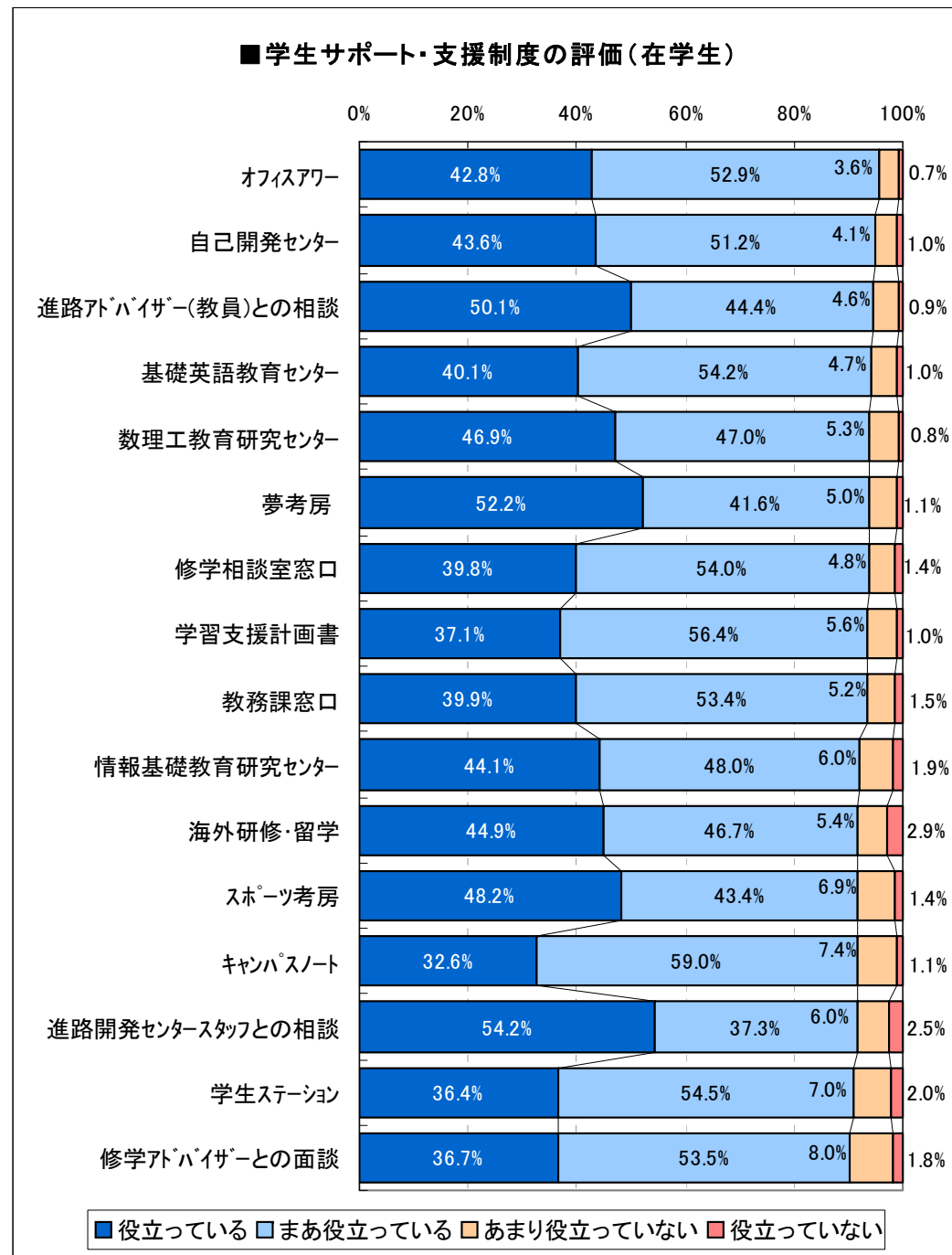
- 学生サポート・支援制度の利用経験者の割合を見たところ、最も多かったのは「学習支援計画書」の89.4%であった。この利用率は高いものの、「学習支援計画書」は全員が使うものであることから、10.6%の非利用者がいる点が気になった。
- 上記に続いて、「修学アドバイザーとの面談」が60.6%であり、ここまでの2項目は利用者が6割を超えていた。そして、「キャンパスノート」が59.3%、「オフィスアワー」が55.3%と続いていた。
- 一方、利用経験者が最も少なかったのは「海外研修・留学」の5.5%であり、他の項目と比べても低さが目立っていた。そして、「情報基礎教育研究センター」が23.4%、「基礎英語教育センター」が25.4%、「スポーツ考房」が29.8%であり、ここまでの4項目は利用経験者が3割に満たなかった。



# <5-4> 学生サポート・支援制度の評価

## ■ 学生サポート・支援制度の評価

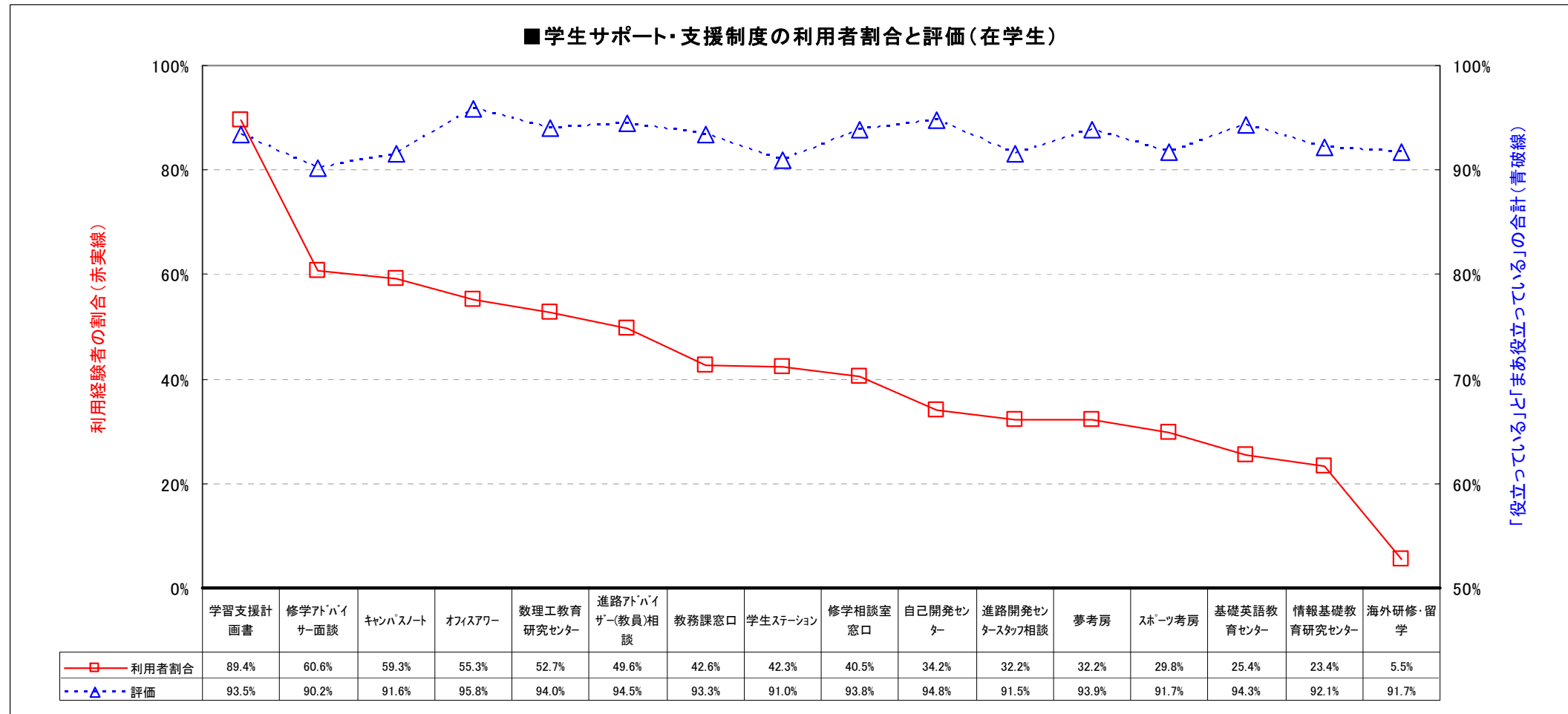
- 前項までの「学生サポート・支援制度」の利用者に対して、機能が役立っているかを聞いた。
- 肯定的な意見（「役立っている」と「まあ役立っている」の合計）を見たところ、全ての項目で9割以上が役立ったと回答しており、学生サポート・支援策の評価は非常に高かった。
- 最も評価が高かったのは「オフィスアワー」であり、95.7%が肯定的な意見であった。次いで、「自己開発センター」が94.8%、「進路アドバイザー（教員）との相談」が94.5%と続いていた。
- 一方、最も評価が低かったのは「修学アドバイザーとの面談」の90.2%であったが、これも決して低い数値ではなかった。そして、「学生ステーション」が90.9%、「進路開発センタースタッフとの相談」が91.5%で続いていたが、「進路開発センタースタッフとの相談」では「役立っている」が54.2%と最も多く、強く満足している利用者が多いことが分かった。



# <5-5> 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価

## ■ 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価の比較

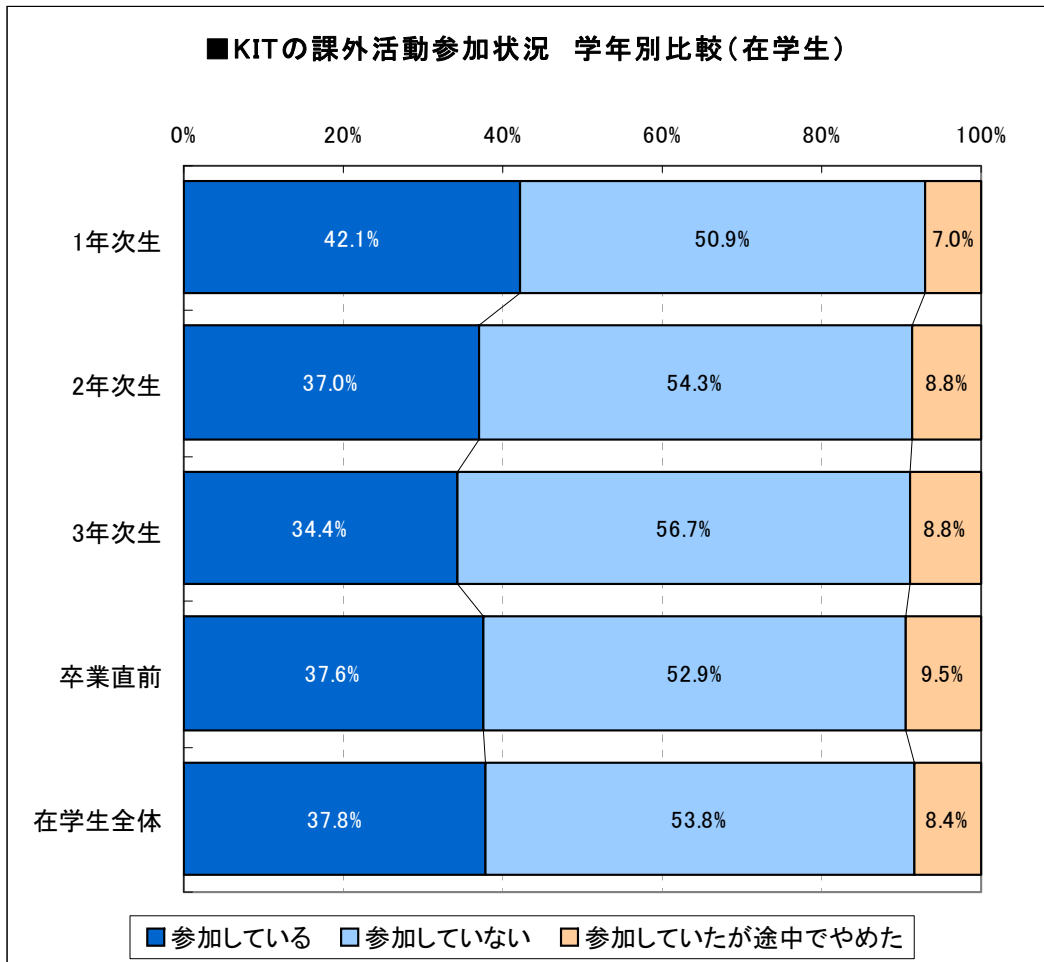
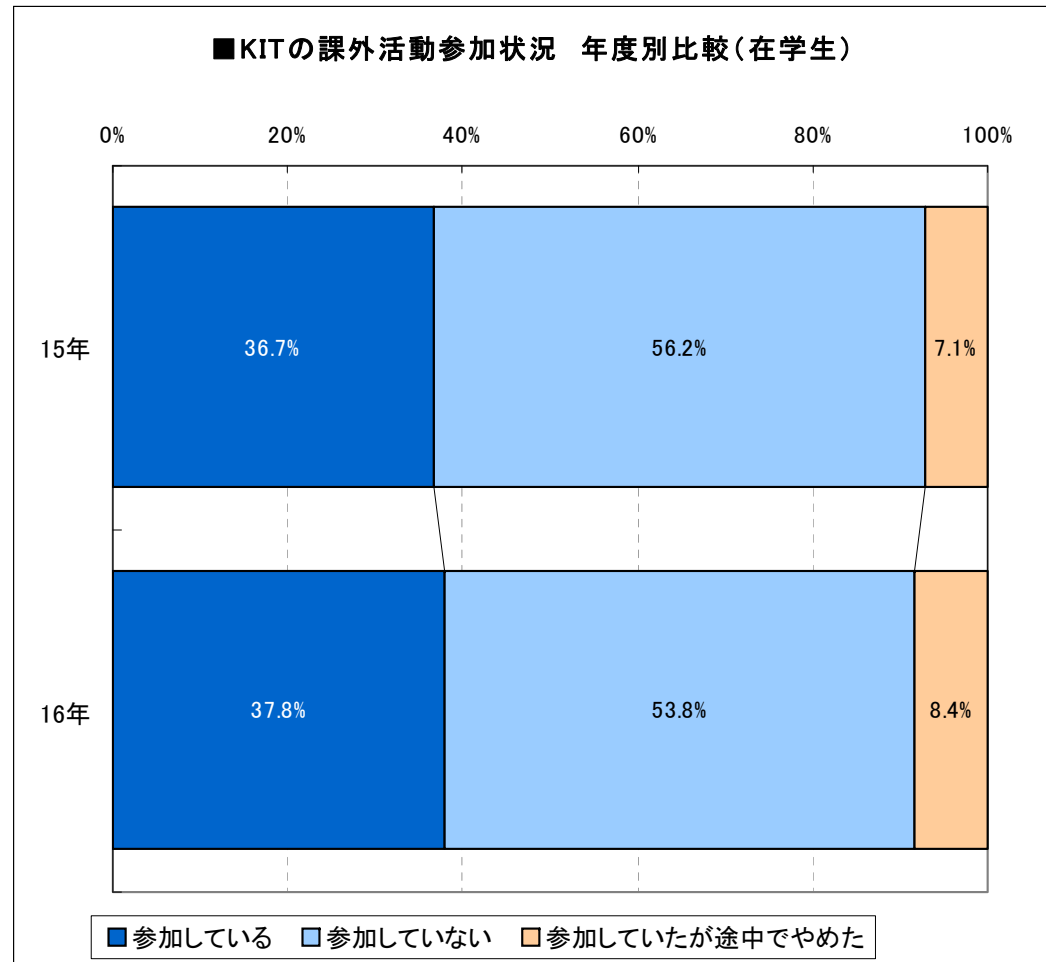
- 学生サポート・支援制度の利用経験者の割合と内容評価をまとめると、右のグラフのようになる。赤い実線が利用経験者の割合で、グラフの左側の数値軸に対応しており、青い破線は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で、右の数値軸に対応している。
- 利用経験者の割合は、最も高い「学習支援計画書」の89.4%から、最も低い「海外研修・留学」の5.5%まで非常に大きな差が見られたが、利用者に聞いた評価は全ての項目で9割以上が肯定的な評価であり、利用者が多い少ないに関わらず、各々の評価は非常に高いということが分かった。



# <6-1> 課外活動への参加状況

## ■ 課外活動への参加状況、学年別比較

- 課外活動に関する設問群は前回(15年)から聞いているものであり、今回が2年目となる。
- 「KITの課外活動参加状況」を在学生に聞いたところ、37.8%が「参加している」であり、「参加していない」が53.8%、「参加していたが途中でやめた」が8.4%であった。
- 前回と比較すると、「参加している」が1.1ポイント増加し、「参加していない」が2.4ポイント減少、「参加していたが途中でやめた」が1.3ポイントの増加となった。
- 学年別に比較をしたところ、差は少なかったものの「参加している」の割合は「1年次生」が42.1%と最も高く、次いで「卒業直前」が37.6%、「2年次生」が37.0%であり、最も低かったのは「3年次生」の34.4%であり、差は最大で7.7ポイントであった。そして、「参加していない」「参加していたが途中でやめた」についても学年による差はそれほど大きくなかった。

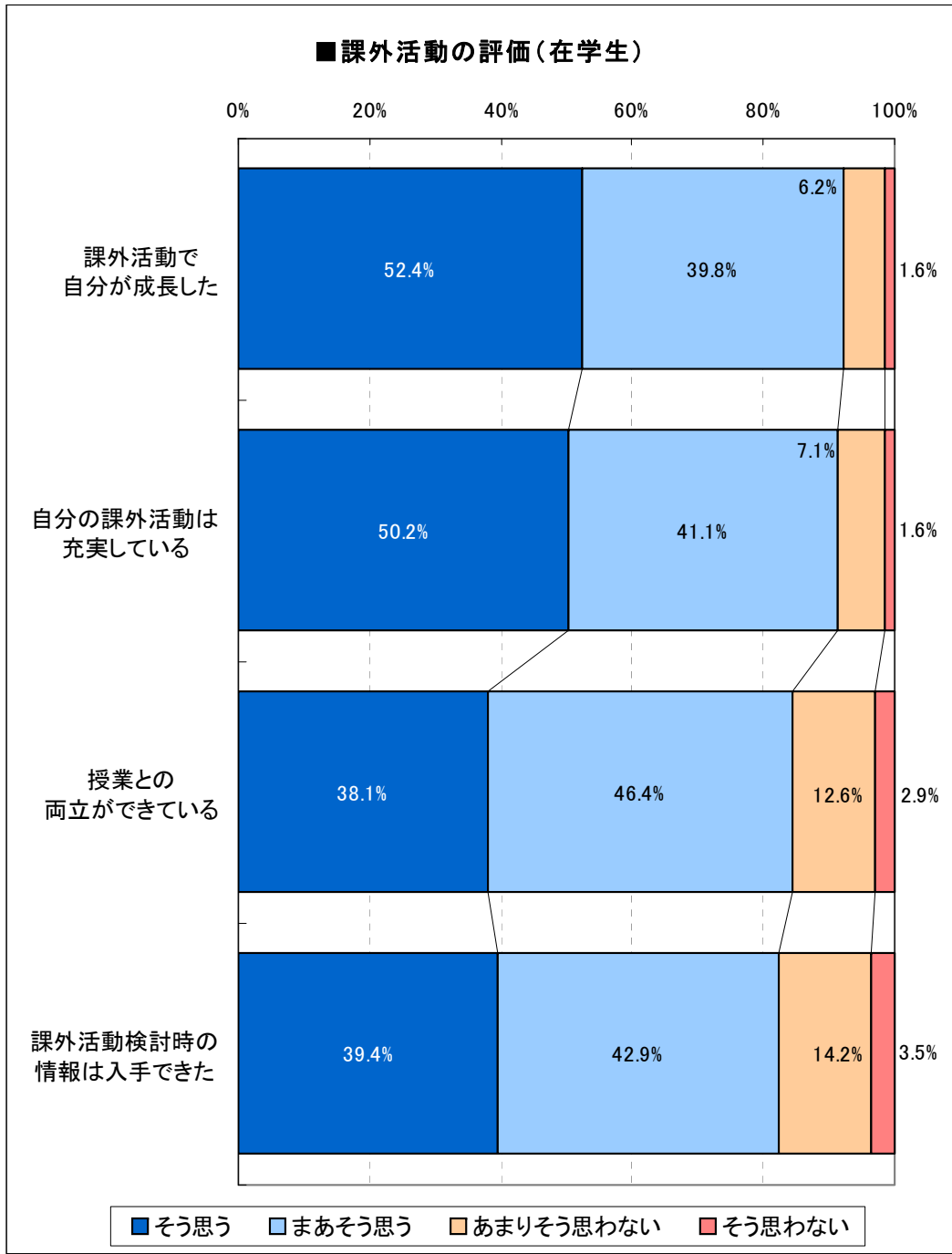




# <6-2> 課外活動の評価

## ■ 課外活動の評価

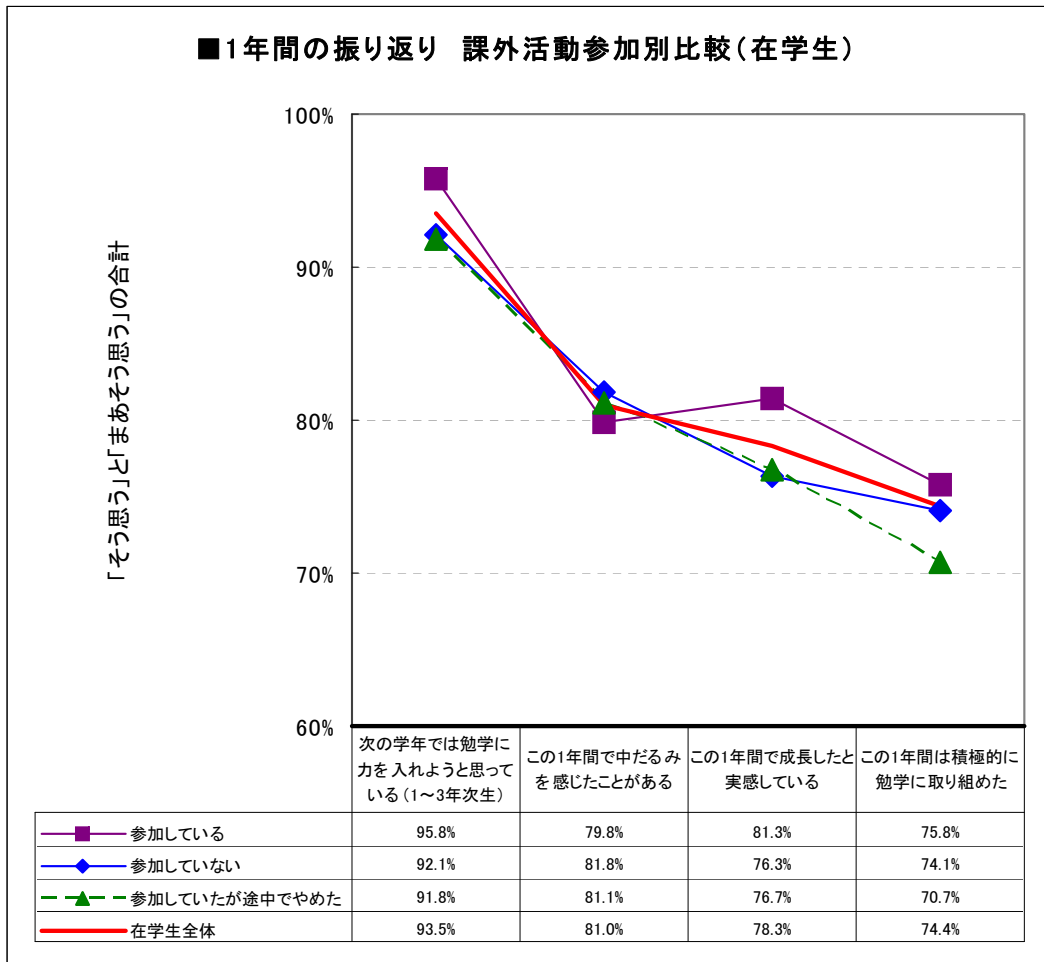
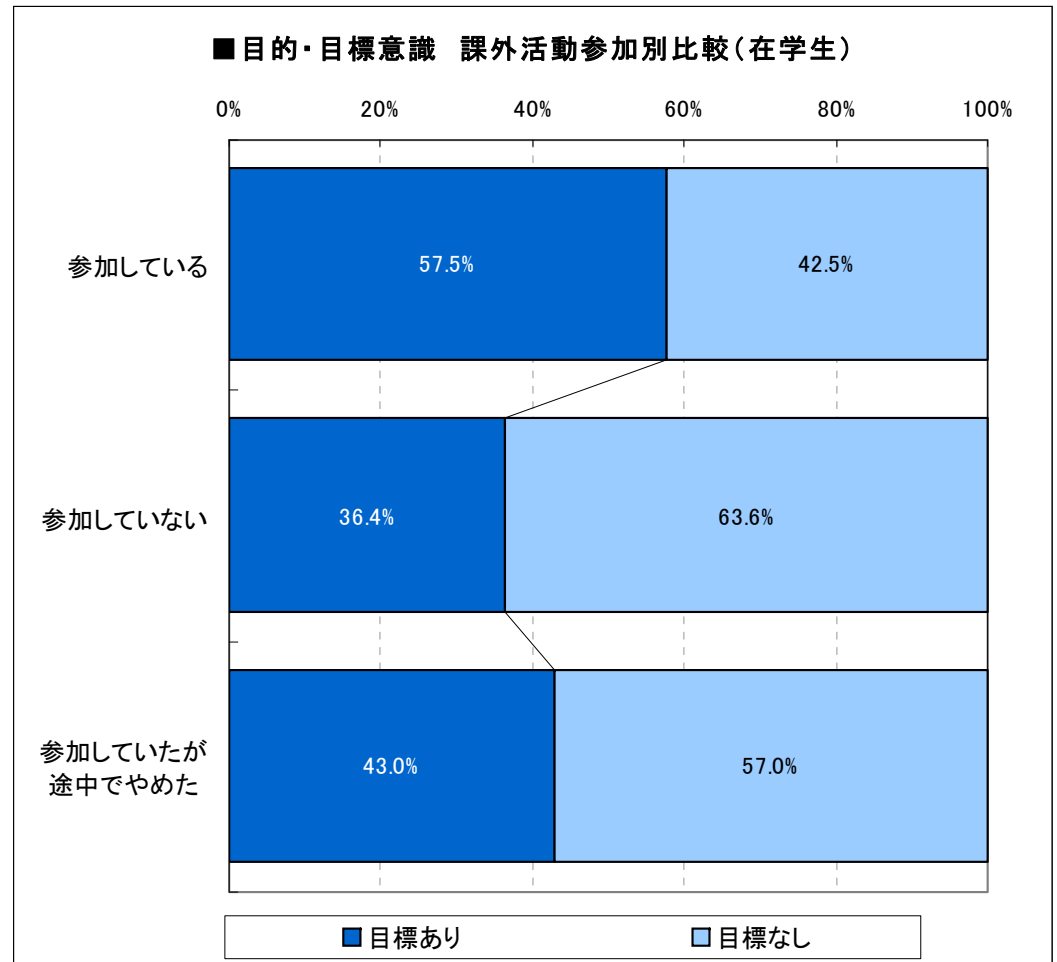
- 「課外活動に参加している」と答えた学生に、活動内容の評価を聞いたところ、肯定的な意見が最も多かったのは「課外活動で自分が成長した」であり、「そう思う」が52.4%、「まあそう思う」が39.8%であり、合わせると92.2%が成長を実感していた。
- 上記に次いで「自分の課外活動は充実している」では91.3%が肯定的な意見であり、課外活動参加者の9割が、充実した活動によって成長を実感しているものと思われる。
- 「授業との両立ができている」では84.5%、「課外活動検討時の情報は入手できた」では82.3%が肯定的な意見となっており、大きな問題はなさそうであったが、15.5%が授業との両立に課題を感じているという点には注意が必要だと思われる。



# <6-3> 課外活動と他の主要指標との関係

## ■ 目的・目標意識 1年間の振り返りとの関係

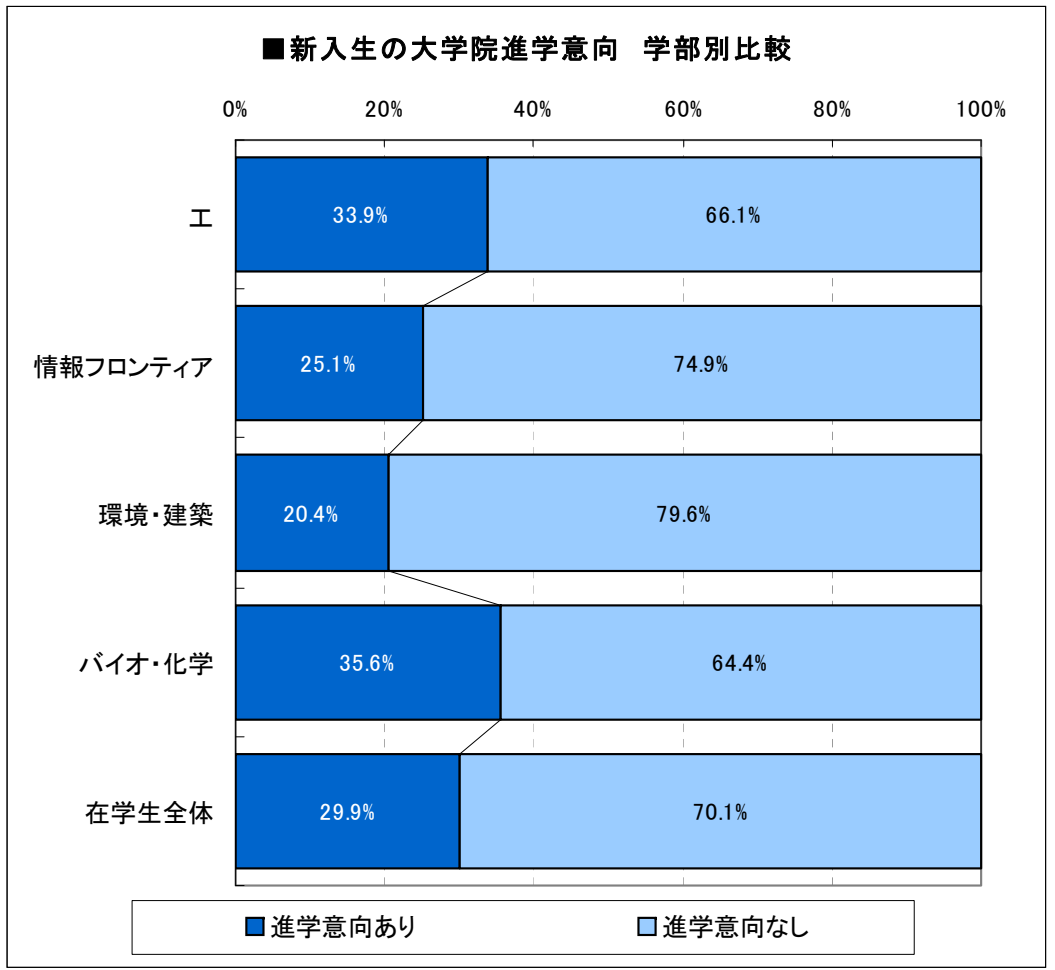
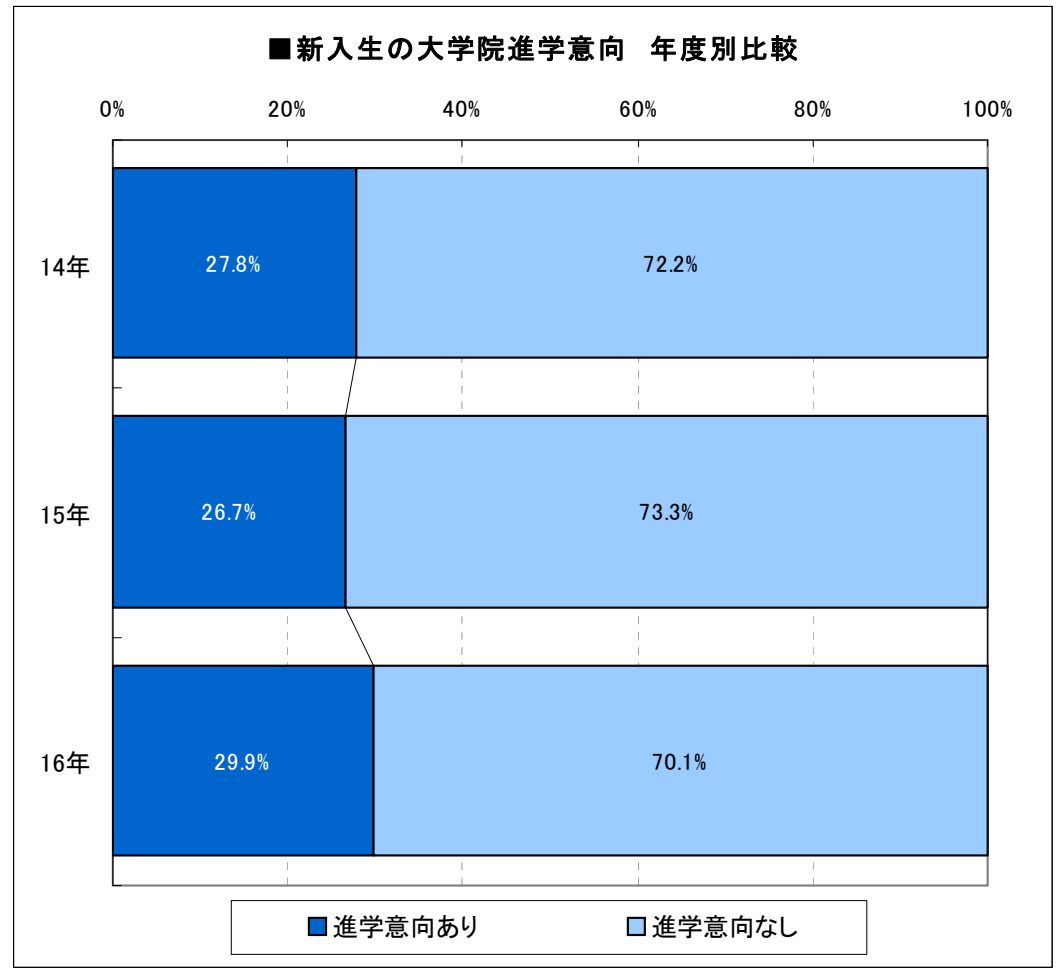
- 課外活動の参加状況の違いによって、学生の考え方や行動にどのような差があるのかを確認した。
- 「課外活動の参加状況」と「目的・目標意識」の関係を見たところ、「参加している」と答えた学生では57.5%が「目標あり」と答えていたが、「参加していない」の36.4%とは21.1ポイントの差がついており、「参加していたが途中でやめた」とは14.5ポイントの差であった。
- 「1年間の振り返り」との関係を見ると、差は少ないものの「参加している」と答えた学生は「次の学年では勉学に力を入れようと思っている」と「この1年間で成長したと実感している」で肯定的な意見が多く、前向きな様子が見えてきた。
- 「参加していたが途中でやめた」と回答した学生は、「この1年間は積極的に勉学に取り組めた」に対して肯定的な意見が少なめであった。



# <7-1> 大学院への進学意向

## ■ 新入生の大学院進学意向

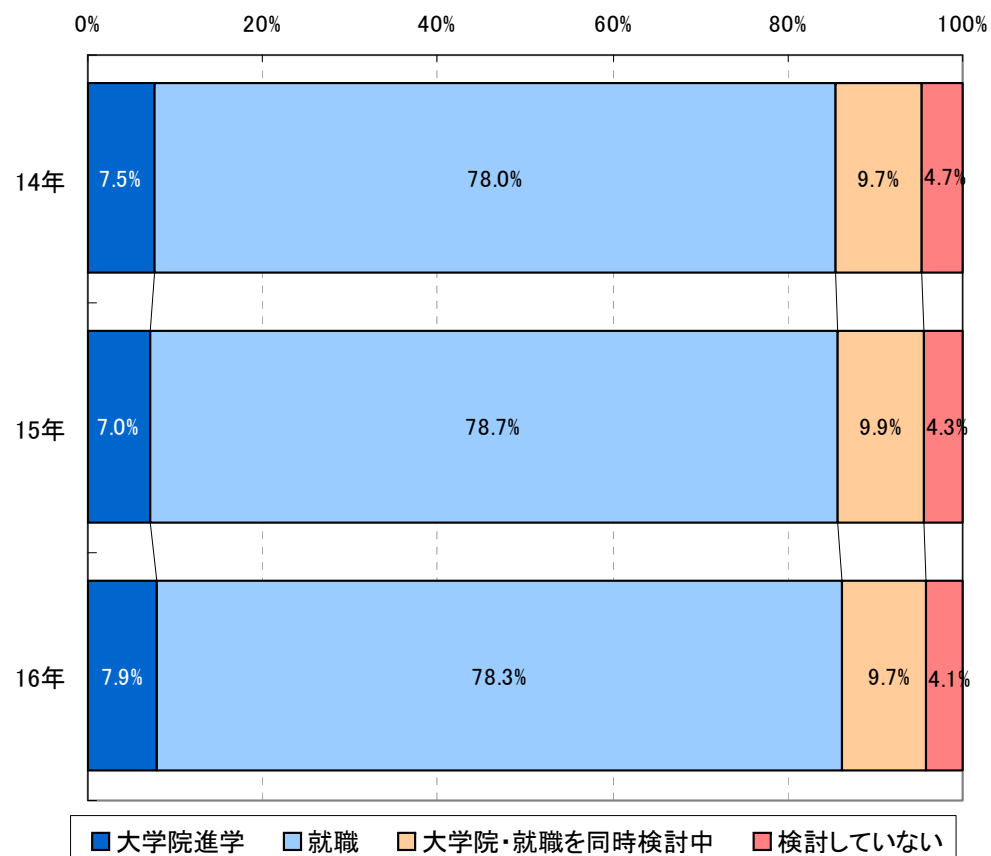
- 新入生の大学院進学意向を見ると、「進学意向あり」が29.9%で前年を3.2ポイント上回った。そして、「進学意向なし」は70.1%であった。
- 学部別に比較すると、最も進学意向が強かったのは「バイオ・化学」の35.6%で、次いで「工」が33.9%、「情報フロンティア」が25.1%、「環境・建築」が20.4%であり、「バイオ・化学」と「環境・建築」との差は15.2ポイントの差であった。



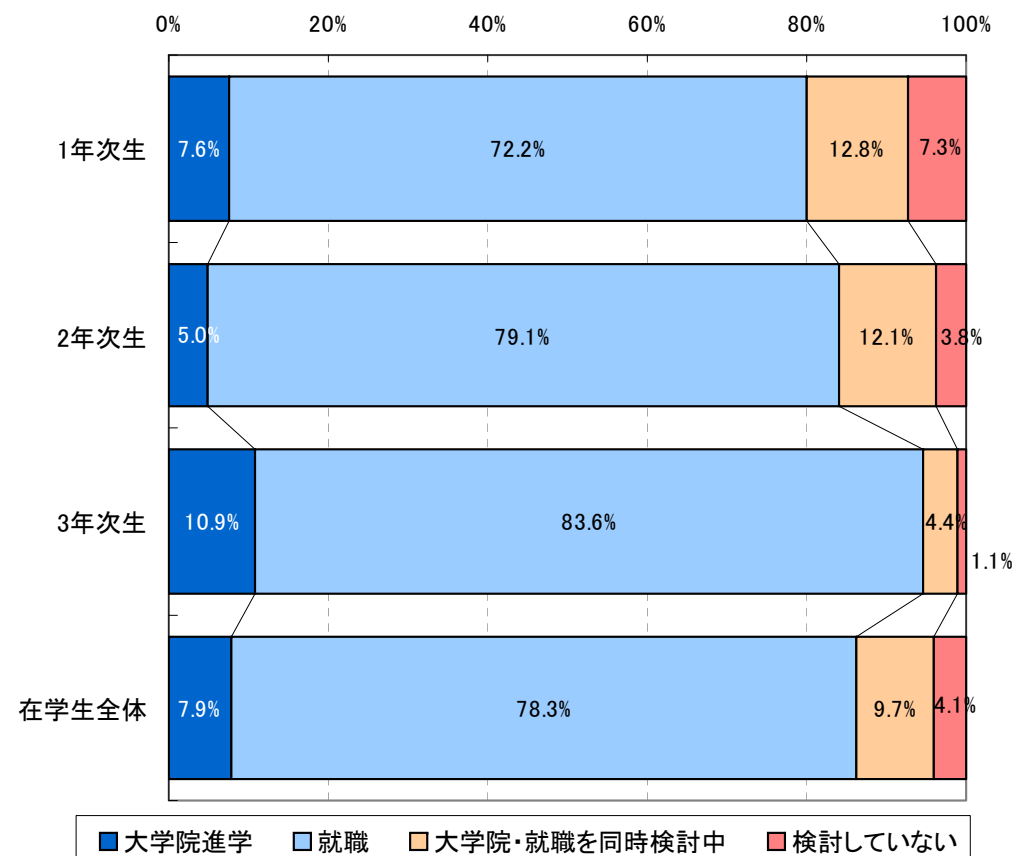
## ■1～3年次生の大学院進学・就職意向

- 1～3年次生には大学院進学も含めて4択で卒業後の希望進路を聞いているが、「大学院進学」は今回は7.9%と、3年間で最高となった。聞き方は異なるが、前項の「新入生」の進学意向ありの29.9%と比べると大きな差となった。（厳密には「大学院・就職を同時検討中」も考慮する必要がある。）
- 次いで、「就職」は78.3%、「大学院・就職を同時検討中」は9.7%、「検討していない」は4.1%であり、これまでと比較して大きな変化は見られなかった。
- 学年別の比較で目立っていたのは、学年が上がるにつれ「就職」が増加し、「大学院・就職を同時検討中」が減少していることであった。同一学生群の変化を見たものではないが、学年が上がるにつれて大学院進学が就職に変わっていく様子を見ることができる。そして、「検討していない」も学年が上がるにつれて減少していく様子が見られた。

### ■1～3年次生の大学院進学・就職意向 年度別比較



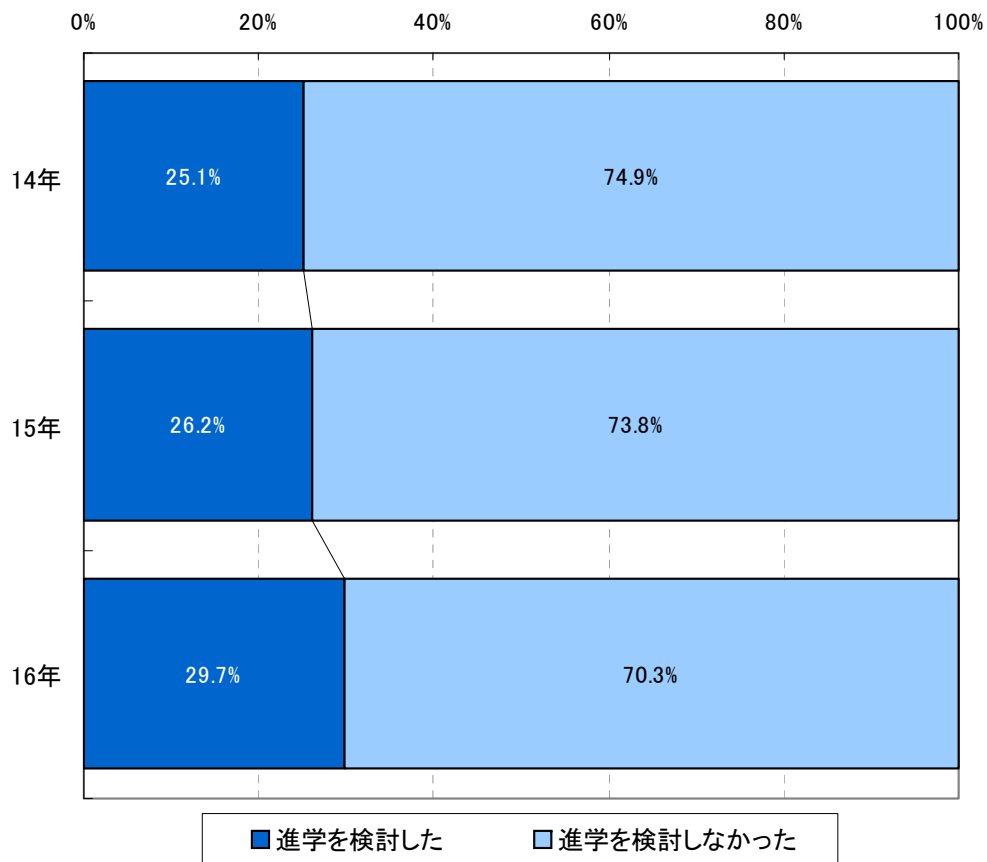
### ■1～3年次生の大学院進学・就職意向 学年別比較



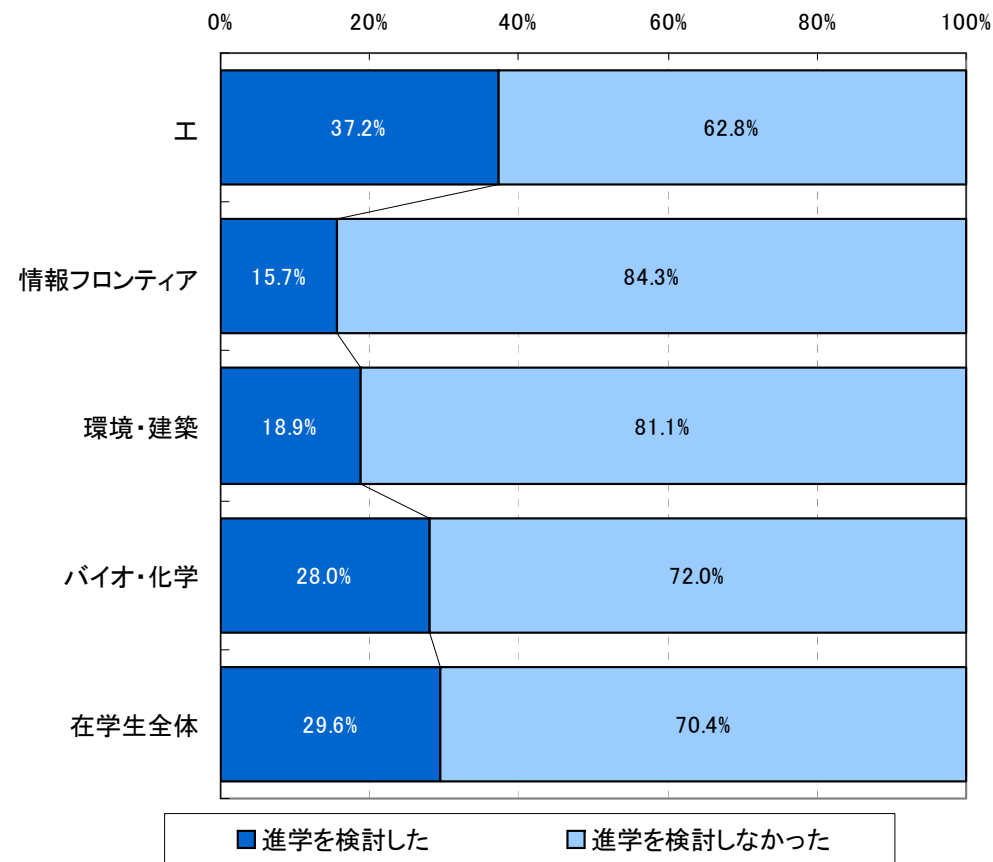
## ■卒業直前の大学院進学検討の有無

- 「新入生」「1～3年次生」とは別に、「卒業直前」には「大学院への進学を検討しましたか？」という質問の仕方をしているが、今回の「進学を検討した」割合は29.7%であり、14年から継続的に増加してきている。そして、「進学を検討しなかった」は70.3%であった。
- 学部別に比較すると、「工」で「進学を検討した」が37.2%であり、他の学部と比べて多さが目立っていた。そして、「バイオ・化学」で28.0%、「環境・建築」で18.9%、「情報フロンティア」で15.7%が「進学を検討した」と答えており、「工」と「情報フロンティア」との差は21.5ポイントであった。
- 前項の1～3年次の大学院進学意向を見ると、「バイオ・化学」が高めであったが、「卒業直前」では「工」が非常に高くなっており、検討を経た上で方針変更をした学生が多かったのではないかと思われる。

■卒業直前の大学院進学検討の有無 年度別比較

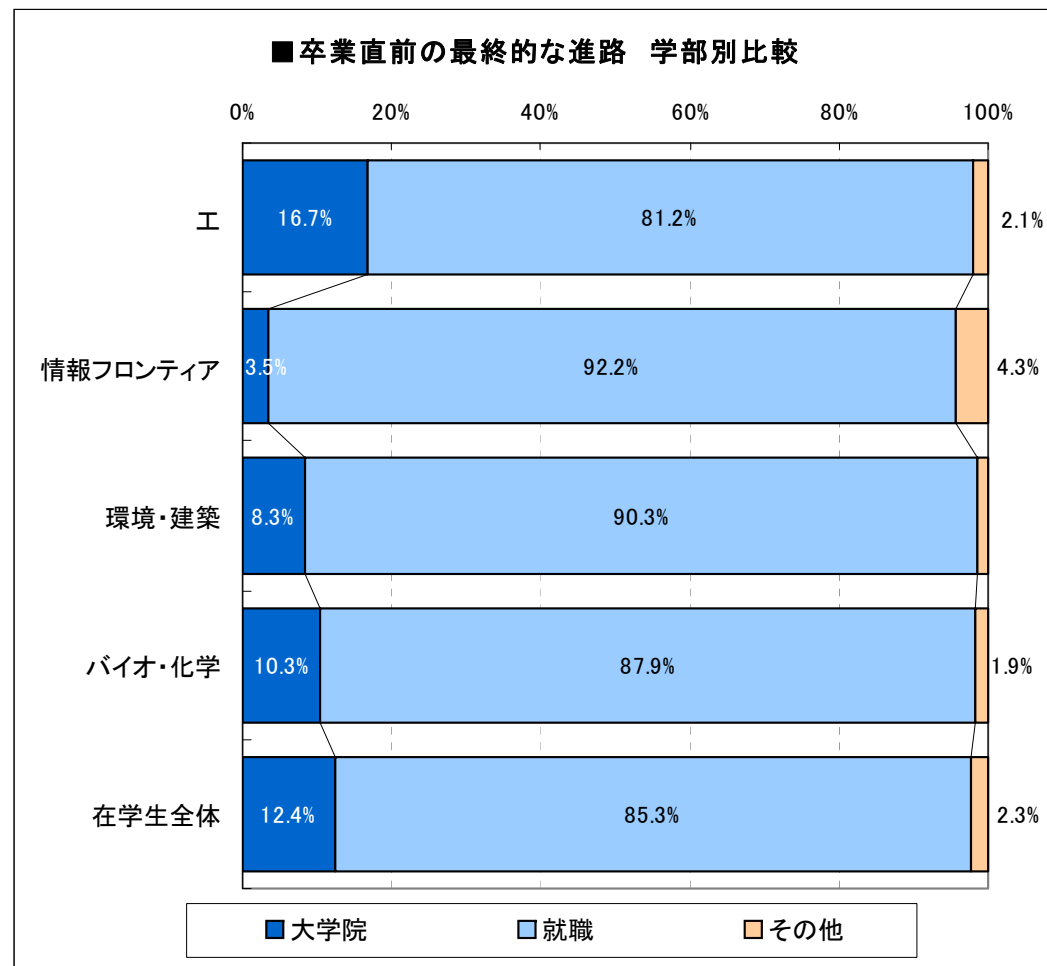
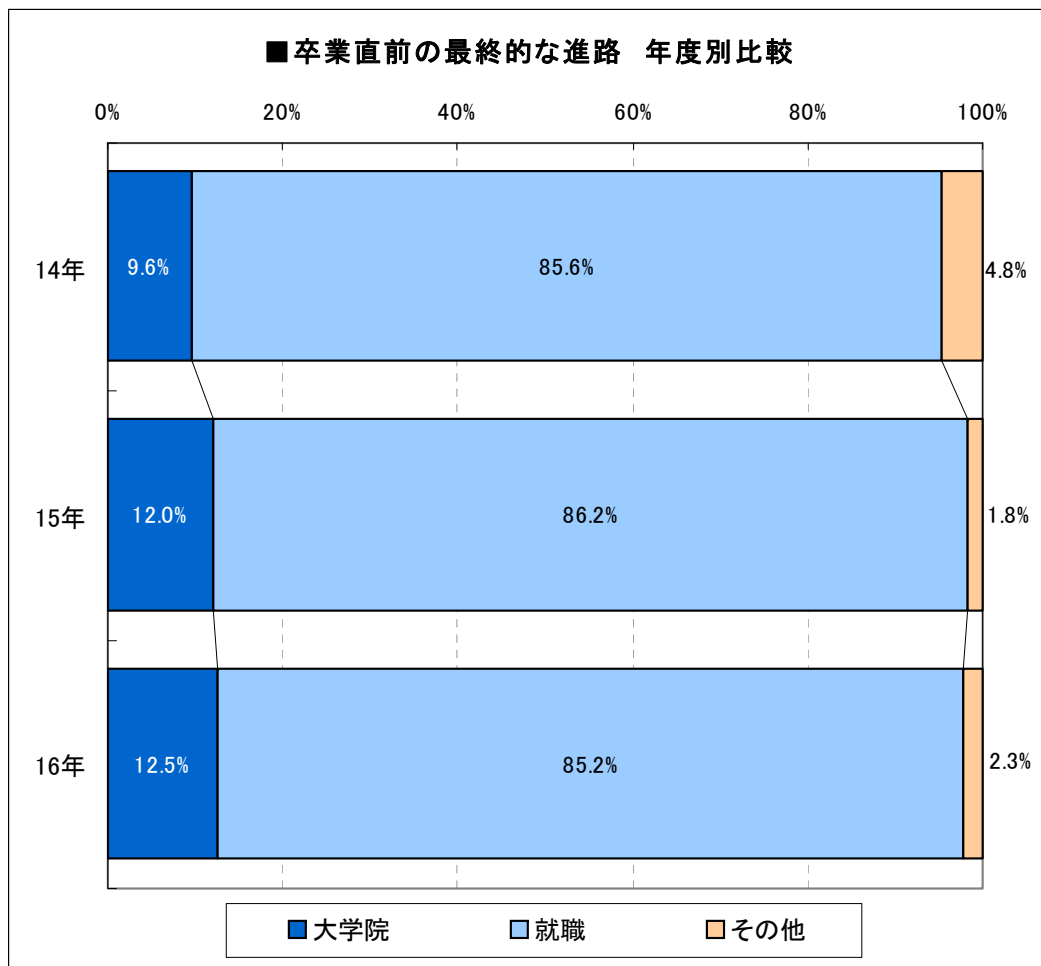


■卒業直前の大学院進学検討の有無 学部別比較



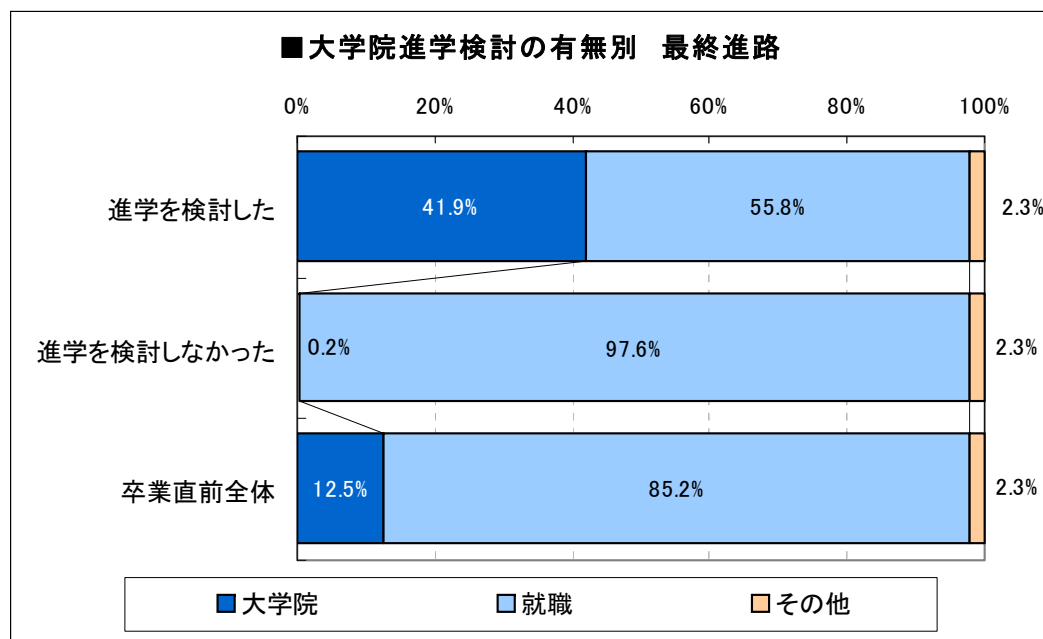
## ■卒業直前の最終的な進路

- 「卒業直前」に「最終的な進路」を聞くと、「大学院」が12.5%であり、14年から継続的に増加していた。そして、「就職」は85.2%、「その他」が2.3%となっていた。
- 学部別に比較すると、「大学院」は「工」が16.7%で最も多く、「バイオ・化学」で10.3%、「環境・建築」で8.3%、「情報フロンティア」で3.5%となっており、前項の「大学院進学検討の有無」と同じ傾向となっていた。
- 「在学生全体」で大学院進学検討との関係と比較してみると、大学院に「進学を検討した」割合が29.6%であるのに対して、最終的な進路を「大学院」とした学生は12.4%であることから、厳密ではないが、検討者の約4割が最終的に大学院進学に決めているようであった。



## ■大学院進学検討の有無別の最終進路比較

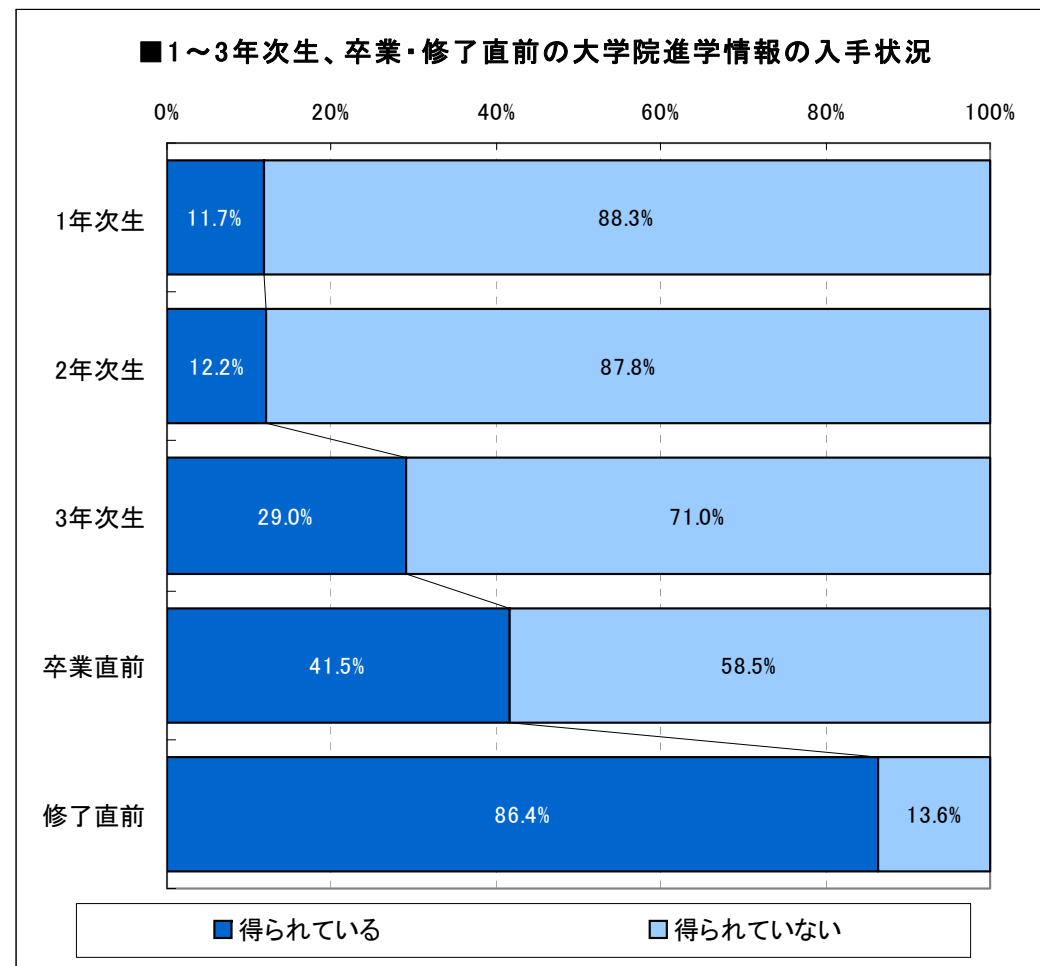
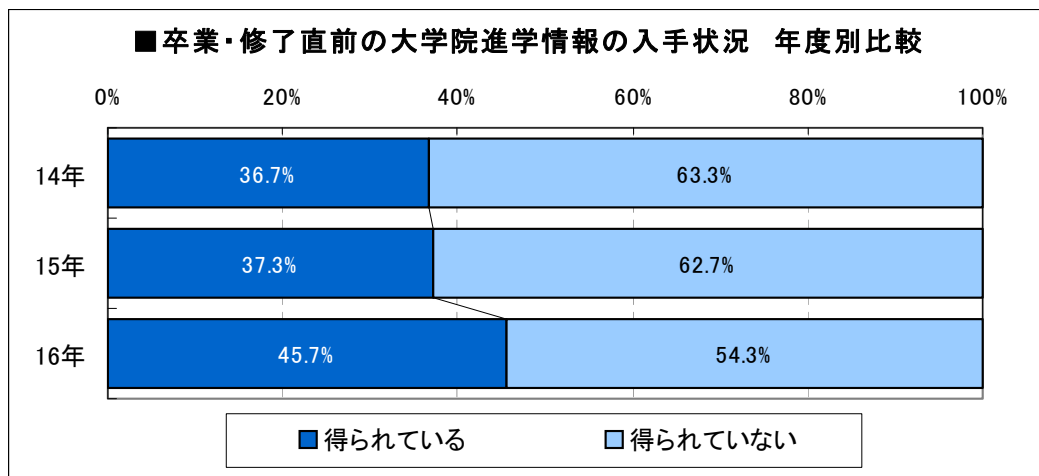
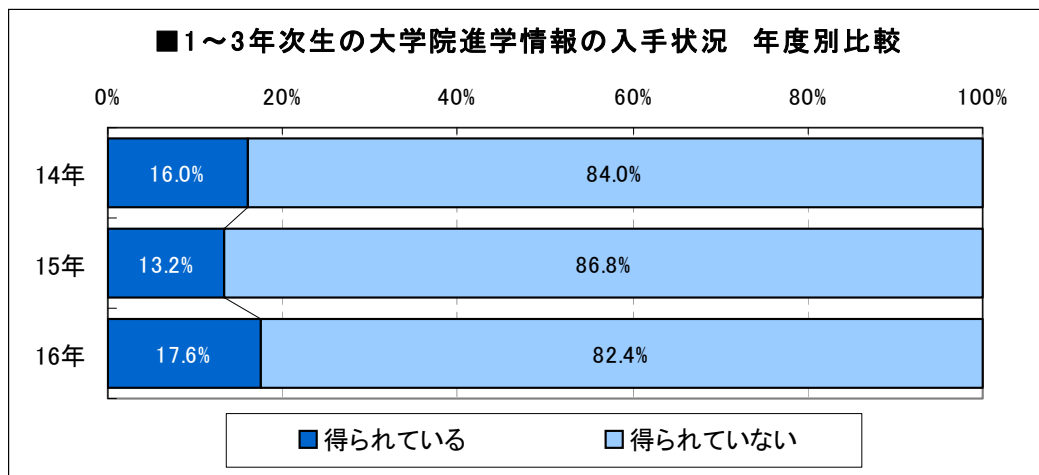
- 「卒業直前」の「大学院進学検討の有無」の違いと「最終進路」の関係を見ると、大学院進学を検討した学生の41.9%が大学院に進学し、55.8%が就職しており、前項で見た「約4割」とほぼ一致する結果となっていた。
- 一方、大学院進学を検討しなかった学生は97.6%と、ほぼ全員が就職を選択していた。



# <7-2> 大学院進学の情報入手状況

## ■ 1～3年次生の大学院進学情報の入手状況

- 「大学院進学情報は得られていますか？」という質問は、「1～3年次生」と「卒業直前・修了直前」は異なる形式で聞いているため、年度別の比較は別々に集計をした。
- 「1～3年次生」では、「得られている」が17.6%であり、前回より4.4ポイント増加して過去最高となった。また、「卒業・修了直前」では「得られている」が45.7%で、前回は8.4ポイント上回って過去最高となった。
- 学年別の比較は1つのグラフにまとめているが、「得られている」の割合は「1年次生」と「2年次生」がほぼ同じで、「3年次生」で29.0%、「卒業直前」で41.5%、「修了直前」で86.4%となり、学年が上がるほど、また、当事者になるほど情報が入手できたという回答が増加する傾向が見られた。

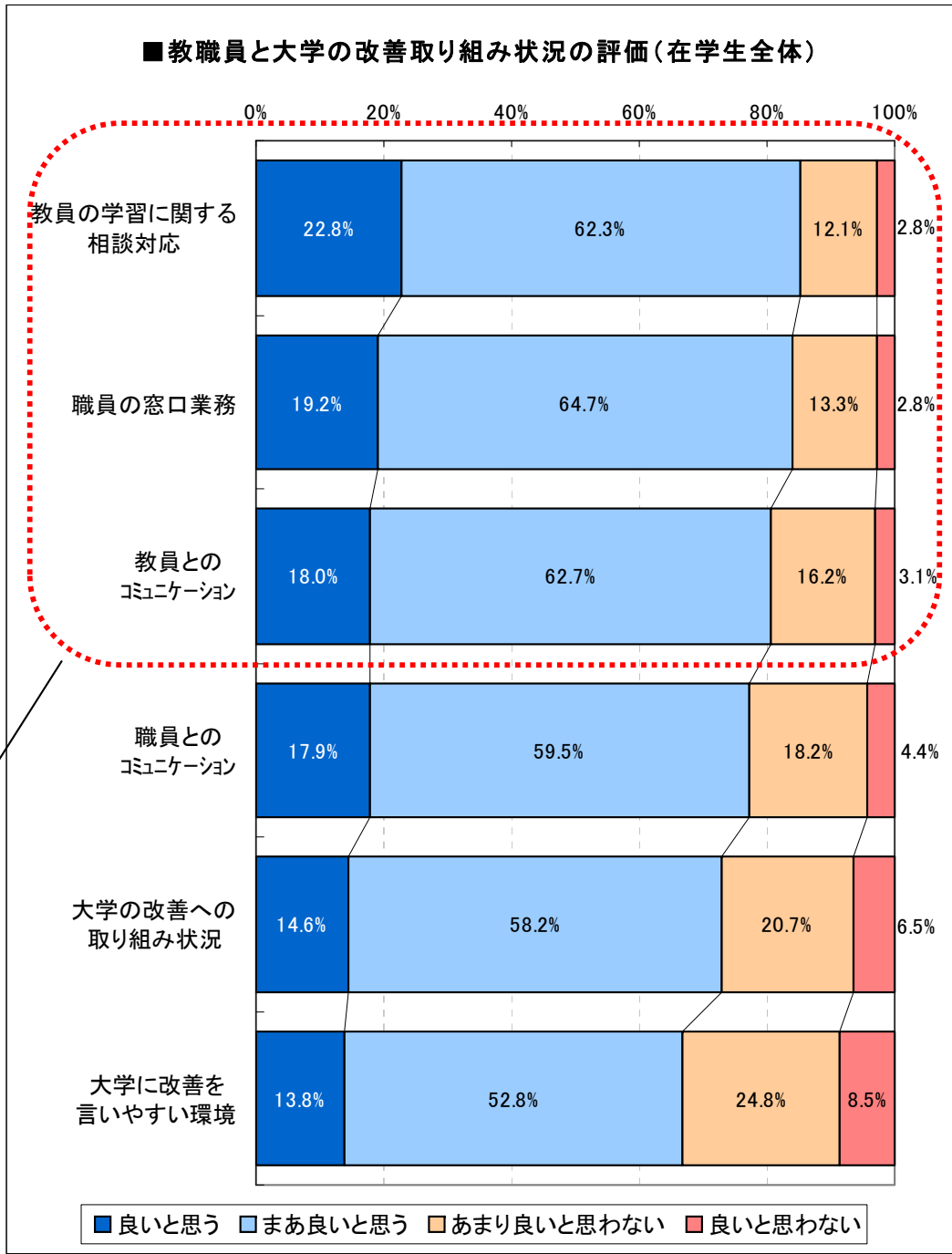




# <8-1>教職員と大学の改善取り組み状況の評価

## ■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

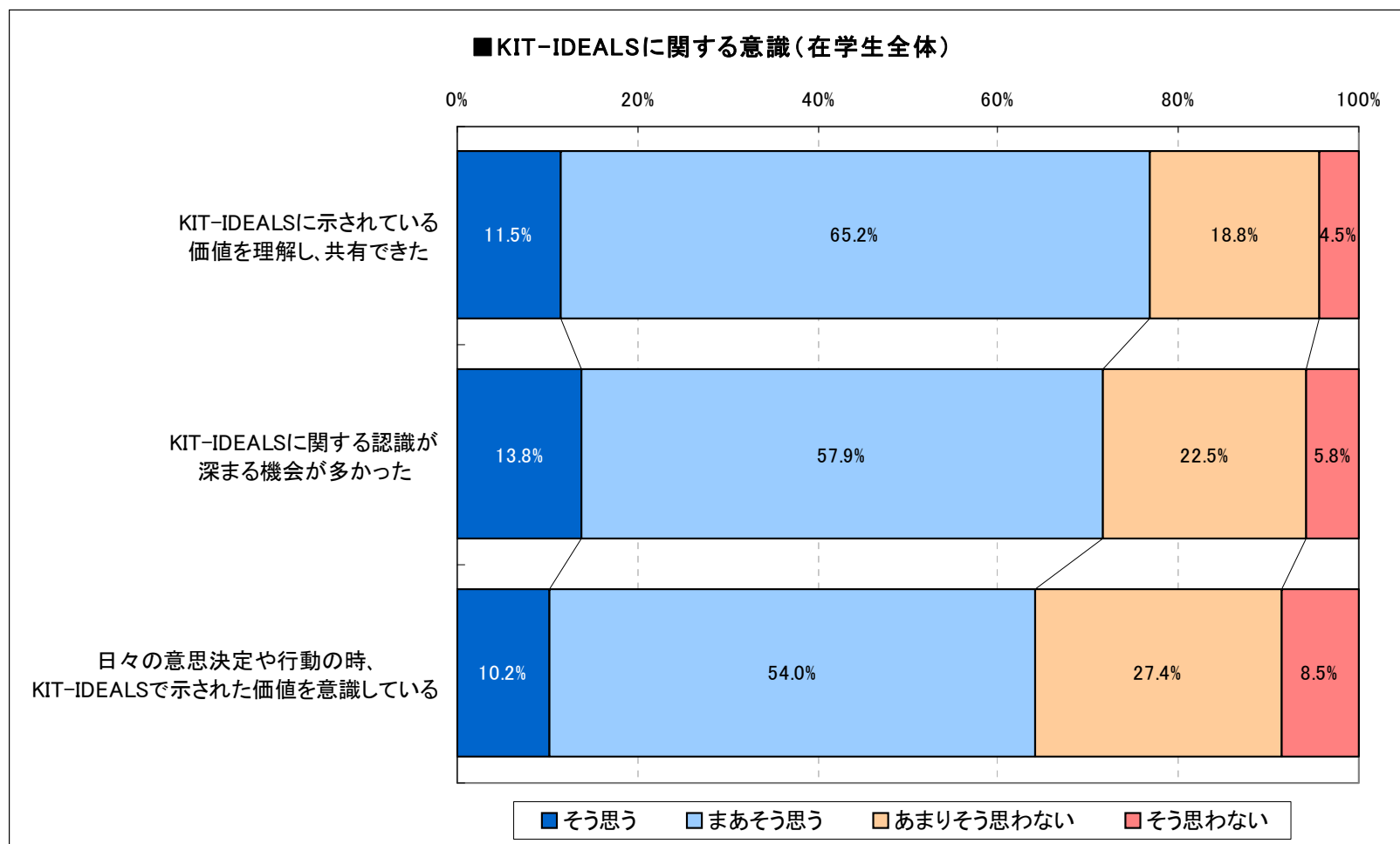
- 教職員と大学の改善への取り組み状況の評価に関して、肯定的な意見(「良いと思う」と「まあ良いと思う」の合計)が最も多かったのは「教員の学習に関する相談対応」であり、85.1%が肯定的な意見であった。次いで、「職員の窓口業務」が83.9%、「教員とのコミュニケーション」が80.7%であり、ここまでの3項目は肯定的な意見が8割を超えていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「大学に改善を言いやすい環境」であり、66.6%が肯定的な意見で、否定的な意見が33.3%と1/3を占めていた。また、「大学の改善への取り組み状況」でも否定的な意見が27.2%と多く、大学の改善に関しての不満がやや大きいようであった。



# <9-1> KIT-IDEALSに関する意識

## ■KIT-IDEALSに関する意識

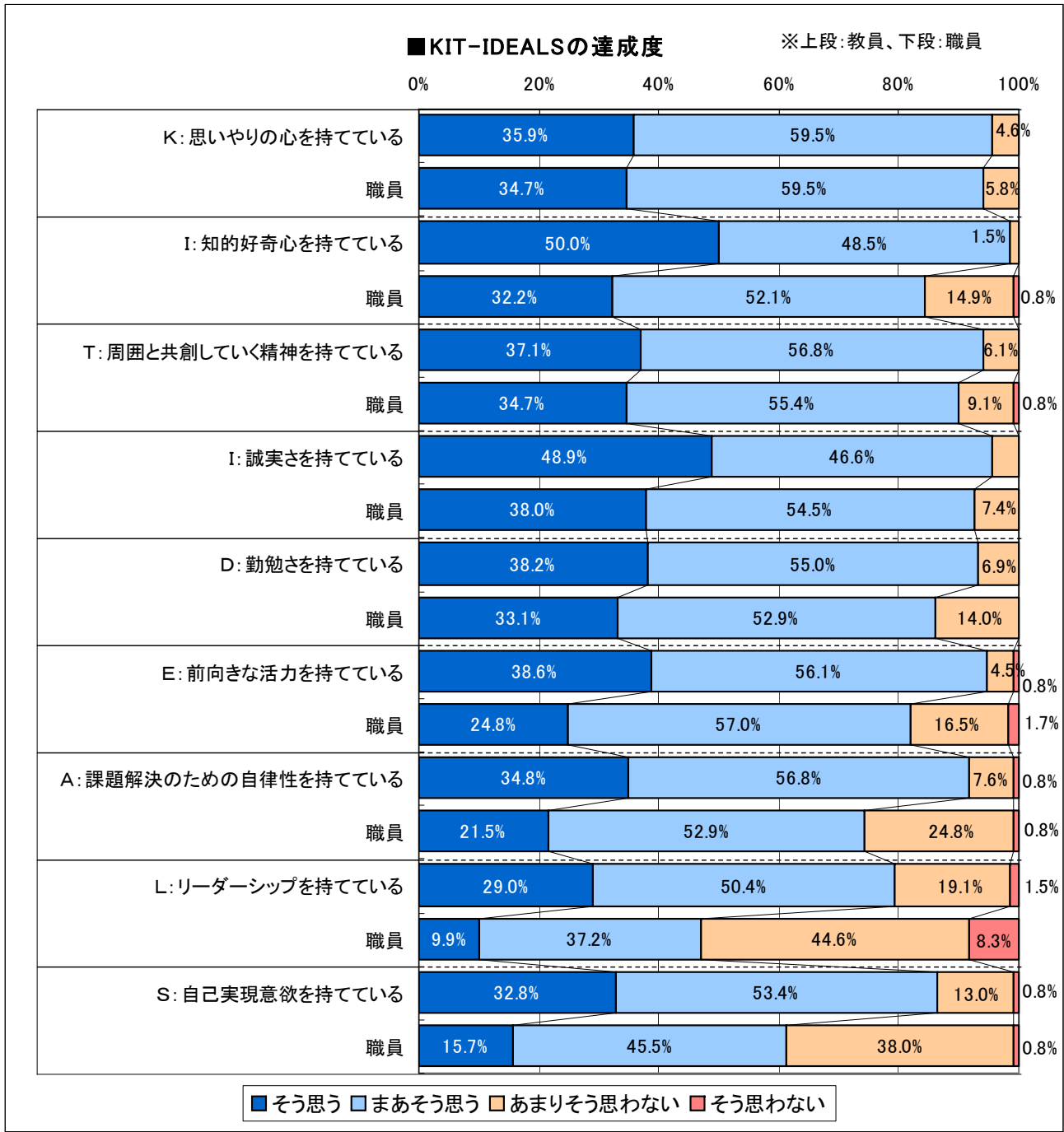
- 「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」に関しては、「そう思う」が11.5%、「まあそう思う」が65.2%であり、合わせると76.7%が肯定的な意見となっていた。
- 次いで、「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」では71.7%、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」では64.2%が肯定的な意見であった。



# <9-2>教職員のKIT-IDEALSの達成度

## ■教職員のKIT-IDEALSの達成度

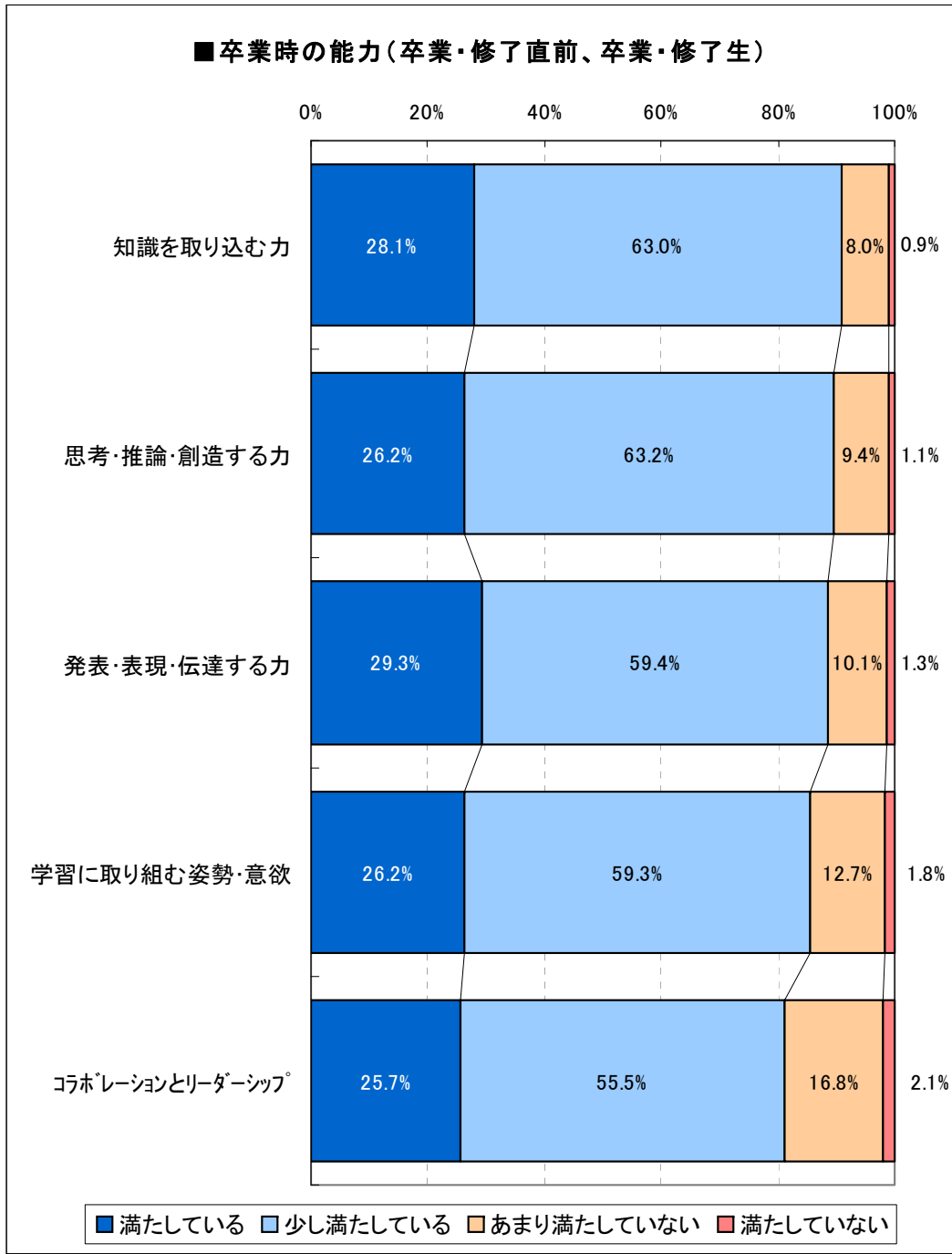
- 「教員」と「職員」には「KIT-IDEALS」の9項目の達成度を聞いた。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較すると、ほとんどの項目で8割以上が肯定的な意見であり、達成度は全体的に高かった。
- 「教員」では「L:リーダーシップを持っている」で肯定的な意見が79.4%であったが、他の項目は全て肯定的な意見が8割を超えており、KIT-IDEALSの達成度は非常に高いと言える。中でも「I:知的好奇心を持っている」と「I:誠実さを持っている」では「そう思う」という回答だけを見ても半数であり、強く意識している様子がうかがえた。
- 「職員」では「A:課題解決のための自律性を持っている」「L:リーダーシップを持っている」「S:自己実現意欲を持っている」の3項目で肯定的な意見が8割を下回っていた。特に「L:リーダーシップを持っている」では肯定的な意見が47.1%と半数に達しておらず、苦手意識があるのではないかと思われた。



# <10-1>卒業時の能力

## ■卒業時の能力の属性別比較

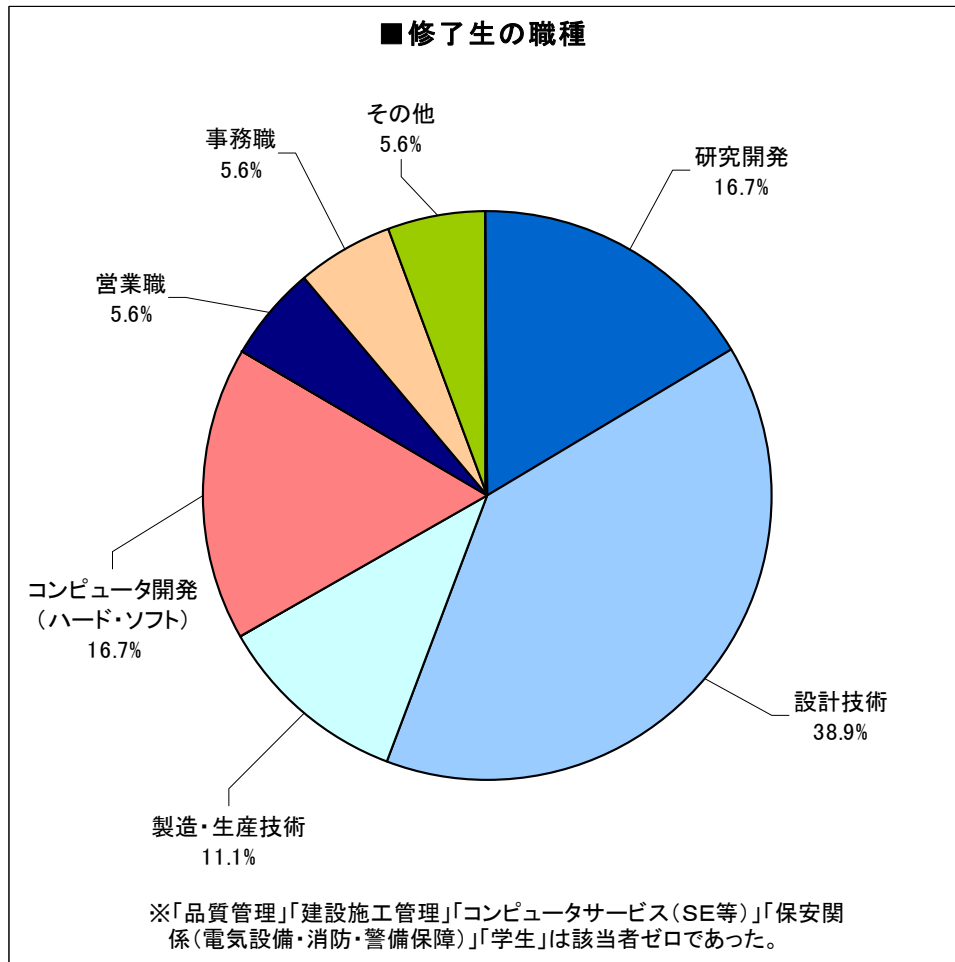
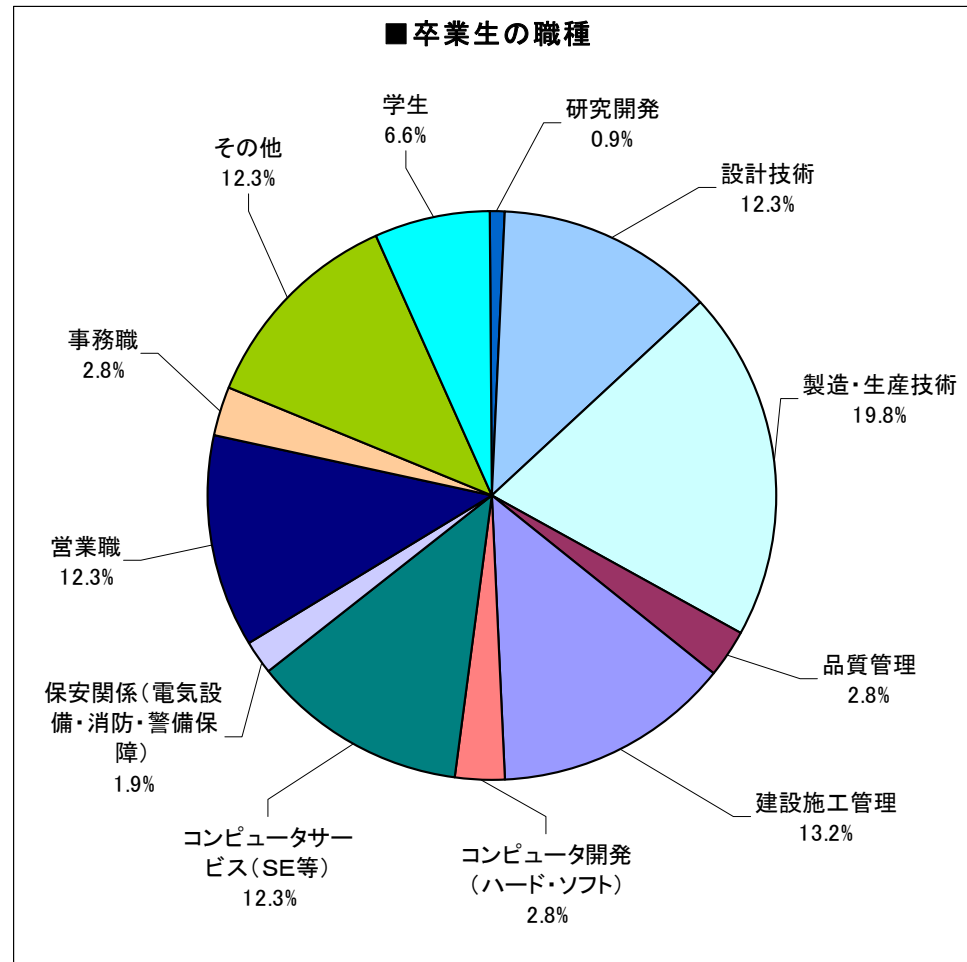
- 卒業直前・修了直前、卒業・修了生に、5つの能力に対して卒業時に自分がどの程度満たしていたか、自己評価を聞いた。
- 肯定的な意見(「満たしている」と「少し満たしている」の合計)が最も多かったのは、「知識を取り込む力」であり、91.1%が肯定的な意見であった。
- 次いで、「思考・推論・創造する力」が89.4%、「発表・表現・伝達する力」が88.7%で続いていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「コラボレーションとリーダーシップ」であり、肯定的な意見は81.2%で、2割が否定的な意見となっていた。



# <11-1>卒業・修了生の基本属性

## ■現在の職種

- 卒業生の職種をみると、「製造・生産技術」が19.8%で最も多く、「建設施工管理」が13.2%、「設計技術」「コンピュータサービス(SE等)」「営業職」「その他」の4つが12.3%となっていた。
- 修了生の職種は、「設計技術」が38.9%と最も多く、「研究開発」と「コンピュータ開発(ハード・ソフト)」が16.7%、「製造・生産技術」が11.1%となっていた。
- 卒業生と修了生とを比較すると、修了生では「研究開発」や「設計技術」などの専門的な職種が卒業生より多いが、「品質管理」「建設施工管理」「コンピュータサービス(SE等)」「保安関係(電気設備・消防・警備保障)」がゼロになるなど、差が見られた。

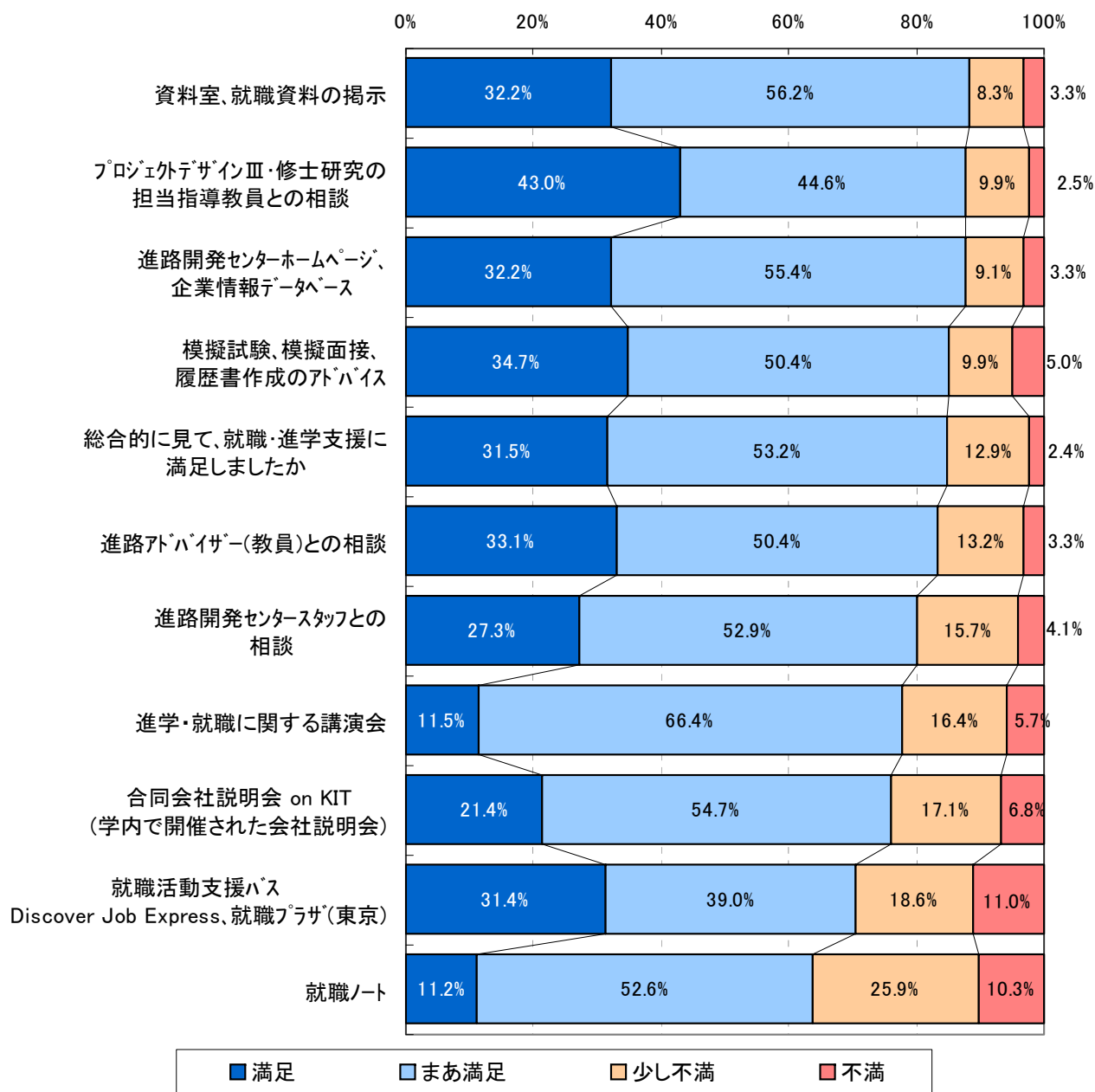


# <11-2>就職・進学支援の評価

## ■就職・進学支援の評価

- 「卒業・修了生」には就職・進学支援策の満足度を聞いているが、全体的な評価である「総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか」に関しては84.7%が満足していると答えており、不満を持つ割合は15.3%であった。
- 具体的なサポート策の評価では「資料室、就職資料の掲示」の満足度が最も高く、88.4%が満足していた。
- 上記に次いで、「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」と「進路開発センターホームページ、企業情報データベース」が87.6%で続いていた。特に「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」では、「満足」という回答が43.0%と最も高い点が特徴的であった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「就職ノート」の63.8%で、続いて「就職活動支援バス、就職プラザ」が70.4%、「合同会社説明会 on KIT」が76.1%となっていた。
- 「就職活動支援バス、就職プラザ」の満足度は他と比べると低めではあったが、「満足」だけを見ると31.4%であり、一部の学生の満足度は高いようであった。

■就職・進学支援の評価(卒業・修了生全体)

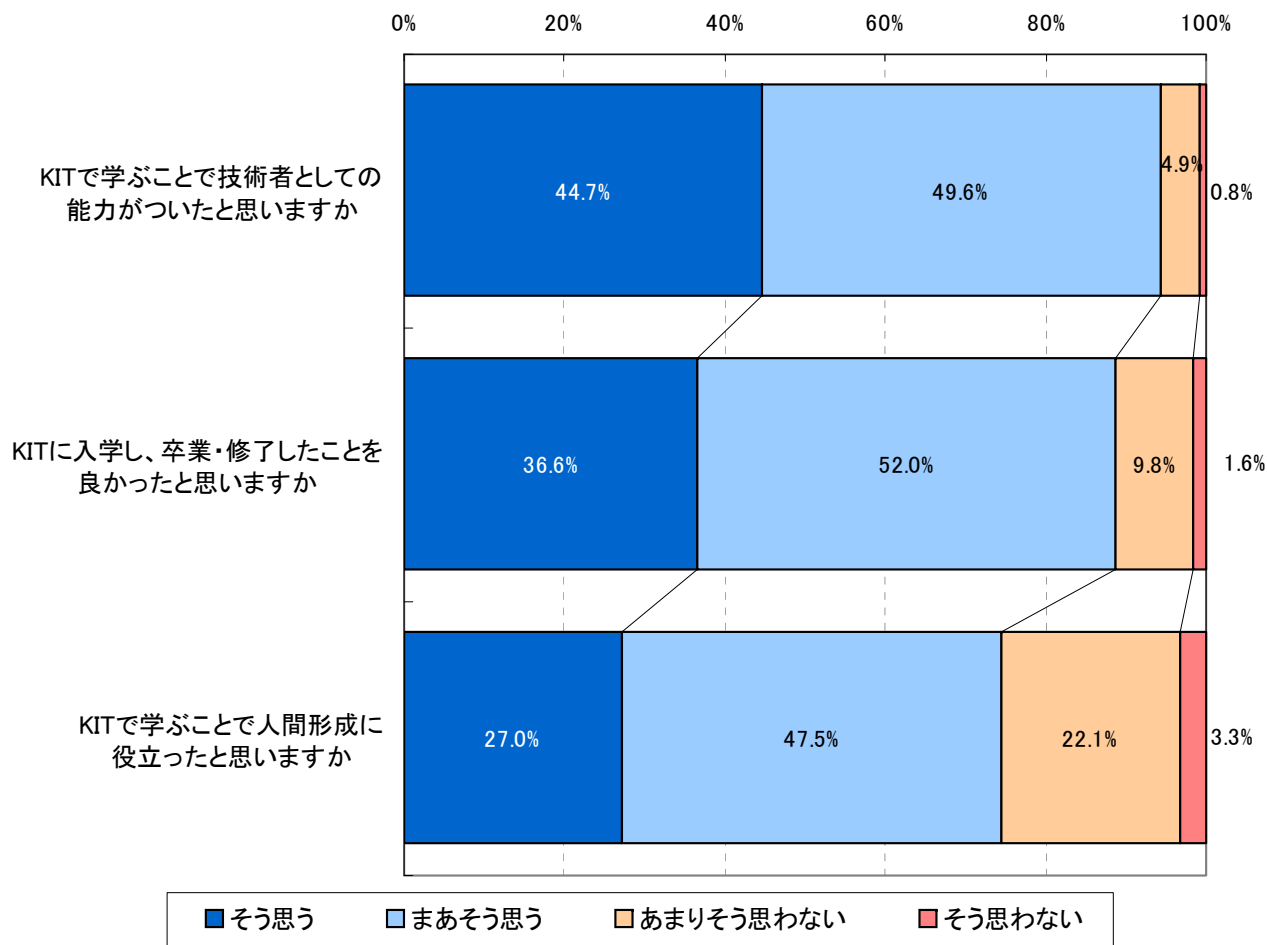


# <11-3>卒業後のKITの評価

## ■卒業後のKITの評価

- 卒業生、修了生に、卒業後に振り返ってのKITの評価を聞いたところ、「KITで学ぶことで技術者としての能力がついたと思いますか」に対しては94.3%が肯定的な意見であり、3項目の中で最も高かった。
- 上記に次いで、「KITに入学し、卒業・修了したことを良かったと思いますか」では88.6%、「KITで学ぶことで人間形成に役立ったと思いますか」では74.5%が肯定的な意見であった。
- これらを見ると、卒業・修了生の満足度は全体的に高いと言える。

■卒業後に振り返ってのKITの評価(卒業・修了生全体)



# <12-1> 新入生のプロフィール

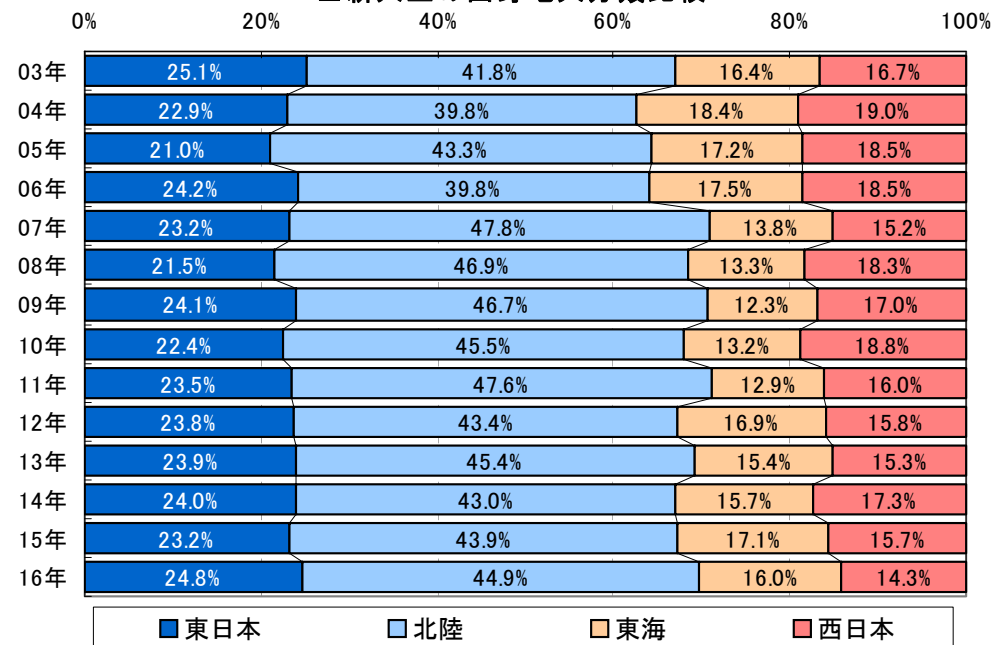
## ■ 新入生の学部・学科、出身地

- 新入生の所属学部は「工学部」が56.4%、「情報フロンティア学部」が13.4%、「環境・建築学部」が21.6%、「バイオ・化学部」が8.4%であった。
- 出身地の大分類で最も多かったのは「北陸」の44.9%であり、「東日本」が24.8%、「東海」が16.0%、「西日本」が14.3%と続いており、以前と比べて変化は小さいものの「西日本」はこれまでで最も少なくなっており、徐々に減少する傾向が見られた。
- 出身地詳細分類でも「北陸」が最も多く、「甲信越」「東海」「関西」と続いており、「中国・四国」はこれまでで最も少なくなっていた。

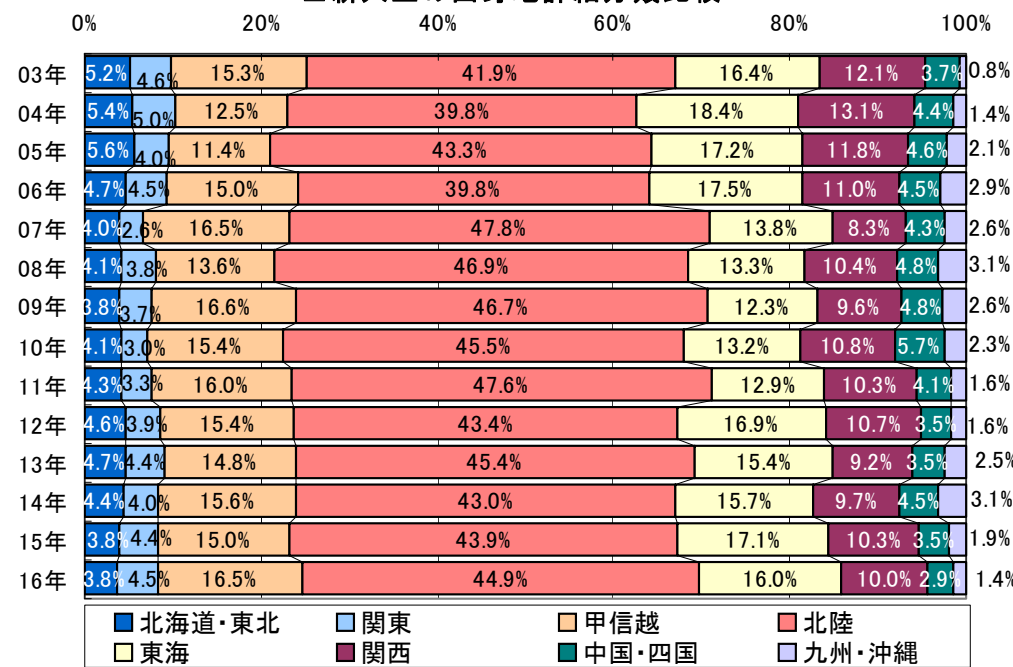
## ■ 学部・学科割合

学部	学科	回答者数	割合	回答者数	割合
工学部	機械工学科	905	56.4%	234	14.6%
	航空システム工学科			71	4.4%
	ロボティクス学科			116	7.2%
	電気電子工学科			191	11.9%
	電子情報通信工学科			41	2.6%
	情報工学科			252	15.7%
情報フロンティア学部	メディア情報学科	215	13.4%	138	8.6%
	経営情報学科			38	2.4%
	心理情報学科			39	2.4%
環境・建築学部	建築デザイン学科	347	21.6%	137	8.5%
	建築学科			121	7.5%
	環境土木工学科			89	5.5%
バイオ・化学部	応用化学科	135	8.4%	70	4.4%
	応用バイオ学科			65	4.1%
無回答		2	0.1%	2	0.1%
合計		1,604	100.0%	1,604	100.0%

## ■ 新入生の出身地大分類比較



## ■ 新入生の出身地詳細分類比較

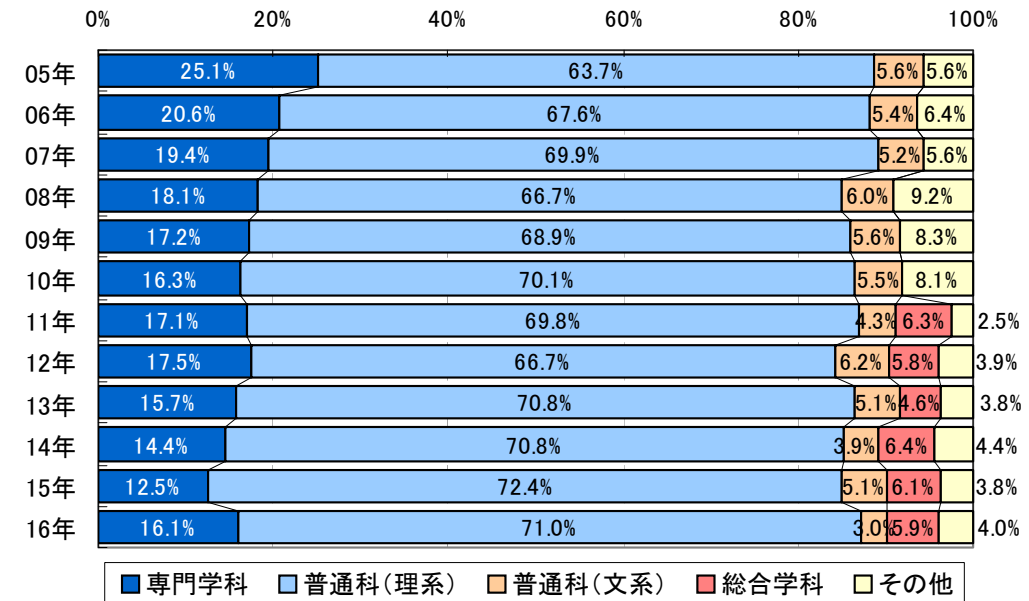




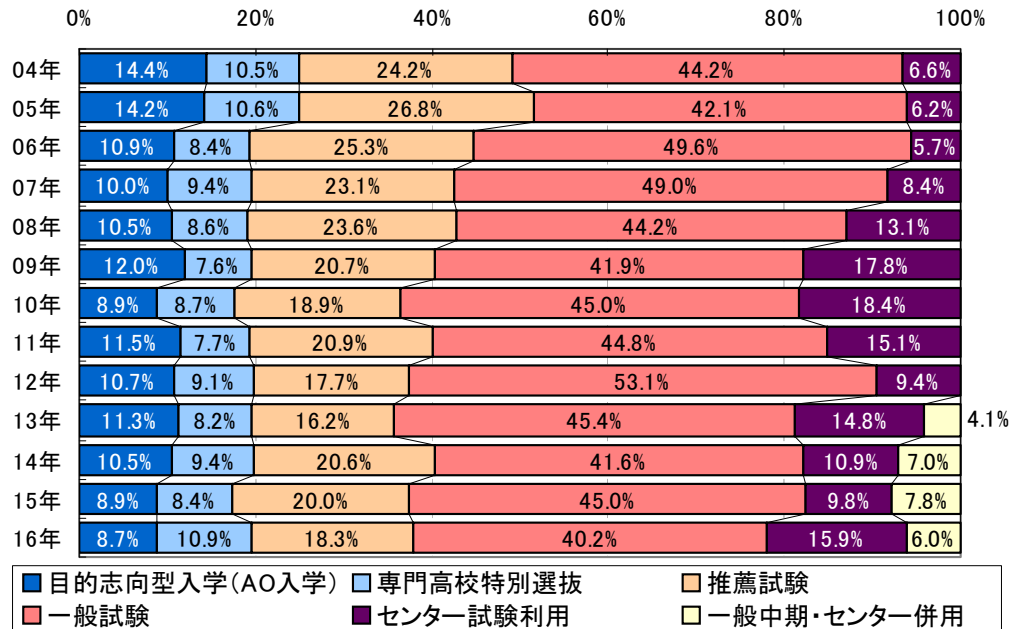
## ■新入生の入試の種類、高校課程、現浪

- 入試の種類を見ると、「一般試験」が40.2%と最も多かった。次いで、「推薦試験」が18.3%、「センター試験利用」が15.9%と続いていた。以前と比べると「一般試験」と「目的志向型入学(AO入学)」が過去最低となっていた。
- 出身校の課程では、「普通科(理系)」が71.0%で最も多く、「専門学科」が16.1%、「総合学科」が5.9%で続いていた。以前と比べると「専門学科」の減少傾向が止まり、「普通科(文系)」が過去最低となっていた。
- 入学時の現浪の比較では「現役入学」が90.7%であり、経年変化はほとんど見られなかった。

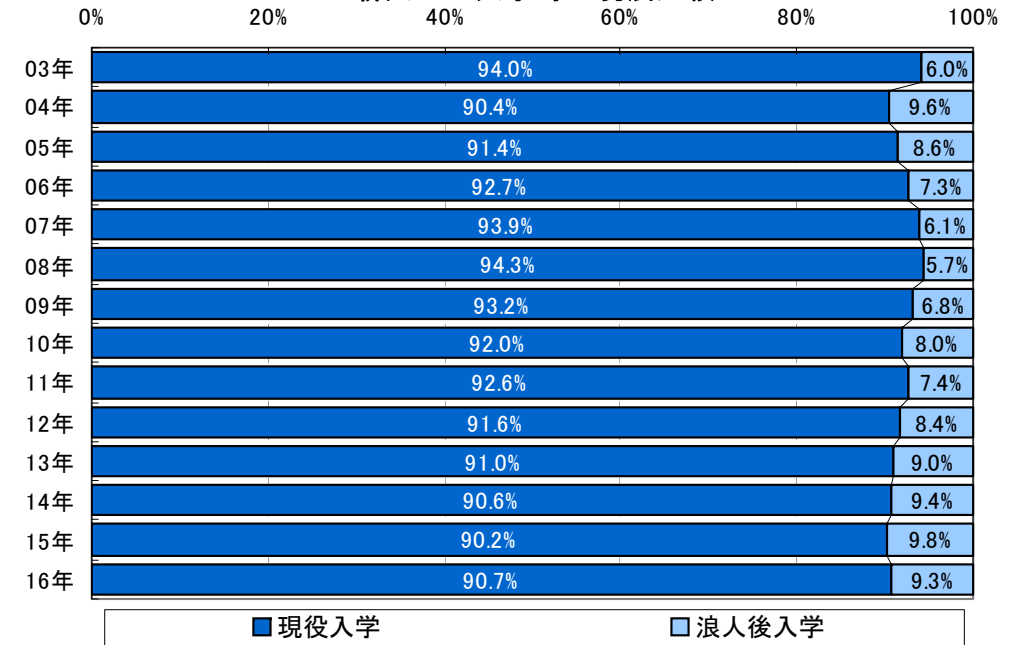
### ■新入生の出身高校課程比較



### ■入試の種類

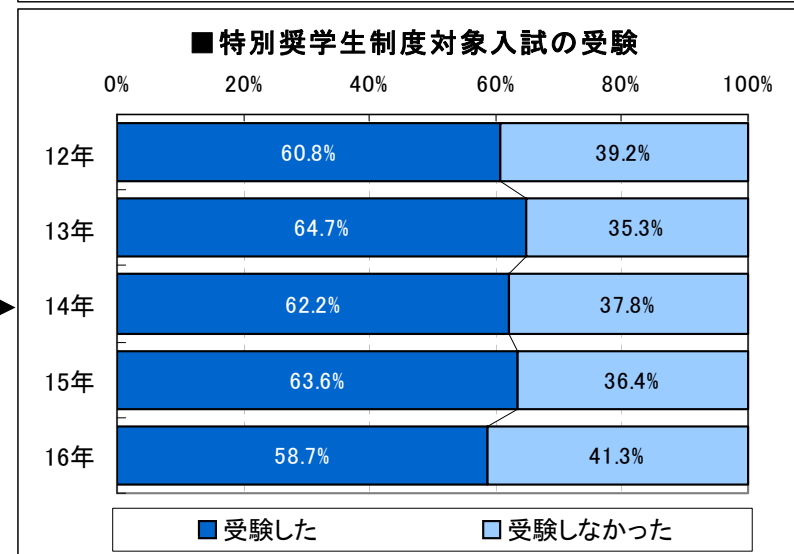
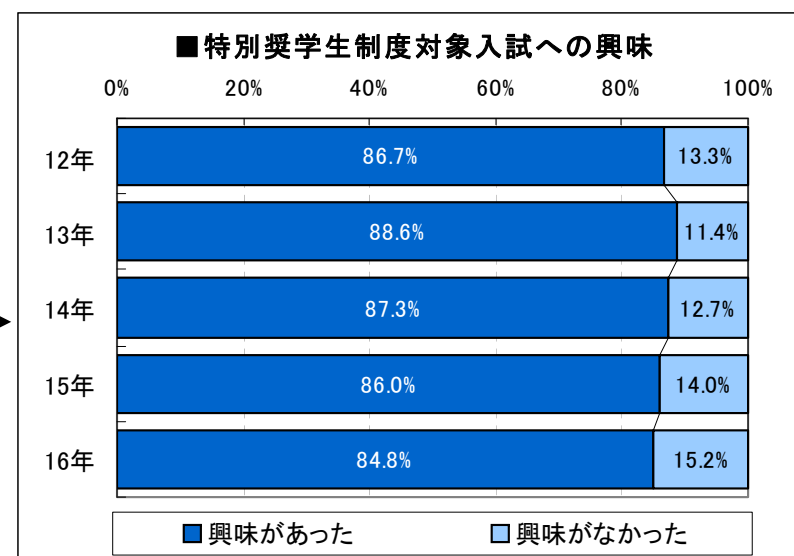
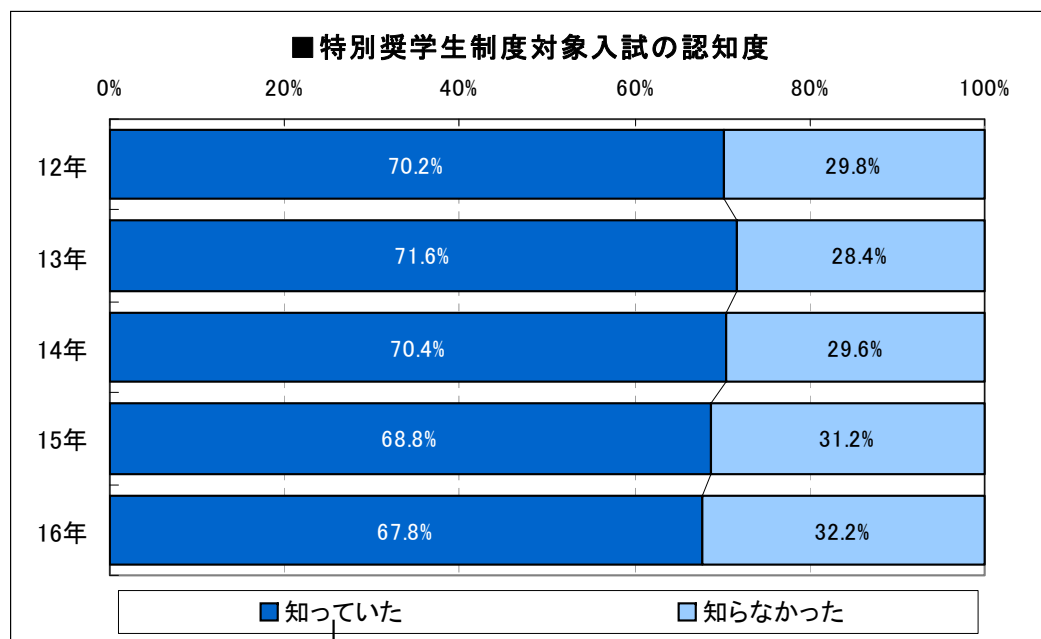


### ■新入生の入学時の現浪比較



## ■特別奨学生制度対象入試の認知度、興味、受験

- 「特別奨学生制度」の認知度を見ると、「知っていた」が67.8%であり、前回より1.0ポイント減少し、わずかずつではあるが減少傾向が続いていた。
- 「特別奨学金制度」を「知っていた」と答えた学生に「制度への興味」を聞いたところ、84.8%が「興味があった」と答えており、前回は1.2ポイント下回っており、継続的に減少傾向が続いていた。
- 上記と同様に「特別奨学金制度」を「知っていた」と答えた学生に「特別奨学生制度対象入試の受験の有無」を聞いたところ、「受験した」という回答は58.7%で過去最低となった。



■過去4年間の出身地一覧

■13年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	24	1.3%	東日本	北海道・東北
青森県	9	0.5%		
岩手県	6	0.3%		
宮城県	9	0.5%		
秋田県	15	0.8%		
山形県	19	1.0%		
福島県	6	0.3%		
茨城県	17	0.9%		
栃木県	13	0.7%		
群馬県	25	1.3%		
埼玉県	4	0.2%		
千葉県	5	0.3%		
東京都	7	0.4%		
神奈川県	12	0.6%		
新潟県	151	8.0%	447 23.7%	276 14.6%
山梨県	13	0.7%		
長野県	112	5.9%		
富山県	258	13.7%		
石川県	481	25.5%		
福井県	108	5.7%		
岐阜県	61	3.2%		
静岡県	92	4.9%		
愛知県	75	4.0%		
三重県	60	3.2%		
滋賀県	40	2.1%		
京都府	34	1.8%		
大阪府	24	1.3%		
兵庫県	57	3.0%		
奈良県	7	0.4%		
和歌山県	10	0.5%		
鳥取県	11	0.6%		
島根県	4	0.2%		
岡山県	13	0.7%		
広島県	12	0.6%		
山口県	6	0.3%		
徳島県	4	0.2%		
香川県	3	0.2%		
愛媛県	5	0.3%		
高知県	8	0.4%		
福岡県	15	0.8%		
佐賀県	3	0.2%		
長崎県	5	0.3%		
熊本県	2	0.1%		
大分県	2	0.1%		
宮崎県	5	0.3%		
鹿児島	4	0.2%		
沖縄県	11	0.6%		
不明	19	1.0%		
合計	1886	100.0%	1886 100.0%	1886 100.0%

■14年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	15	0.8%	東日本	北海道・東北
青森県	3	0.2%		
岩手県	4	0.2%		
宮城県	14	0.7%		
秋田県	5	0.3%		
山形県	23	1.2%		
福島県	7	0.4%		
茨城県	9	0.5%		
栃木県	11	0.6%		
群馬県	18	1.0%		
埼玉県	5	0.3%		
千葉県	8	0.4%		
東京都	8	0.4%		
神奈川県	5	0.3%		
新潟県	124	6.6%	386 23.9%	251 15.6%
山梨県	10	0.5%		
長野県	117	6.2%		
富山県	198	10.5%		
石川県	399	21.2%		
福井県	93	4.9%		
岐阜県	57	3.0%		
静岡県	80	4.2%		
愛知県	67	3.6%		
三重県	48	2.5%		
滋賀県	39	2.1%		
京都府	19	1.0%		
大阪府	22	1.2%		
兵庫県	59	3.1%		
奈良県	7	0.4%		
和歌山県	9	0.5%		
鳥取県	7	0.4%		
島根県	6	0.3%		
岡山県	18	1.0%		
広島県	12	0.6%		
山口県	8	0.4%		
徳島県	8	0.4%		
香川県	10	0.5%		
愛媛県	2	0.1%		
高知県	1	0.1%		
福岡県	26	1.4%		
佐賀県	4	0.2%		
長崎県	3	0.2%		
熊本県	3	0.2%		
大分県	2	0.1%		
宮崎県	5	0.3%		
鹿児島	0	0.0%		
沖縄県	7	0.4%		
不明	9	0.5%		
合計	1,614	85.6%	1,614 100.0%	1,614 100.0%

■15年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	16	0.8%	東日本	北海道・東北
青森県	3	0.2%		
岩手県	3	0.2%		
宮城県	10	0.5%		
秋田県	4	0.2%		
山形県	16	0.8%		
福島県	11	0.6%		
茨城県	11	0.6%		
栃木県	5	0.3%		
群馬県	29	1.5%		
埼玉県	6	0.3%		
千葉県	5	0.3%		
東京都	10	0.5%		
神奈川県	7	0.4%		
新潟県	129	6.8%	384 23.1%	248 14.9%
山梨県	7	0.4%		
長野県	112	5.9%		
富山県	185	9.8%		
石川県	448	23.8%		
福井県	92	4.9%		
岐阜県	62	3.3%		
静岡県	103	5.5%		
愛知県	75	4.0%		
三重県	43	2.3%		
滋賀県	48	2.5%		
京都府	33	1.7%		
大阪府	21	1.1%		
兵庫県	44	2.3%		
奈良県	11	0.6%		
和歌山県	13	0.7%		
鳥取県	4	0.2%		
島根県	10	0.5%		
岡山県	12	0.6%		
広島県	9	0.5%		
山口県	6	0.3%		
徳島県	3	0.2%		
香川県	7	0.4%		
愛媛県	5	0.3%		
高知県	2	0.1%		
福岡県	16	0.8%		
佐賀県	1	0.1%		
長崎県	1	0.1%		
熊本県	1	0.1%		
大分県	0	0.0%		
宮崎県	2	0.1%		
鹿児島	2	0.1%		
沖縄県	9	0.5%		
不明	12	0.6%		
合計	1,664	88.2%	1,664 100.0%	1,664 100.0%

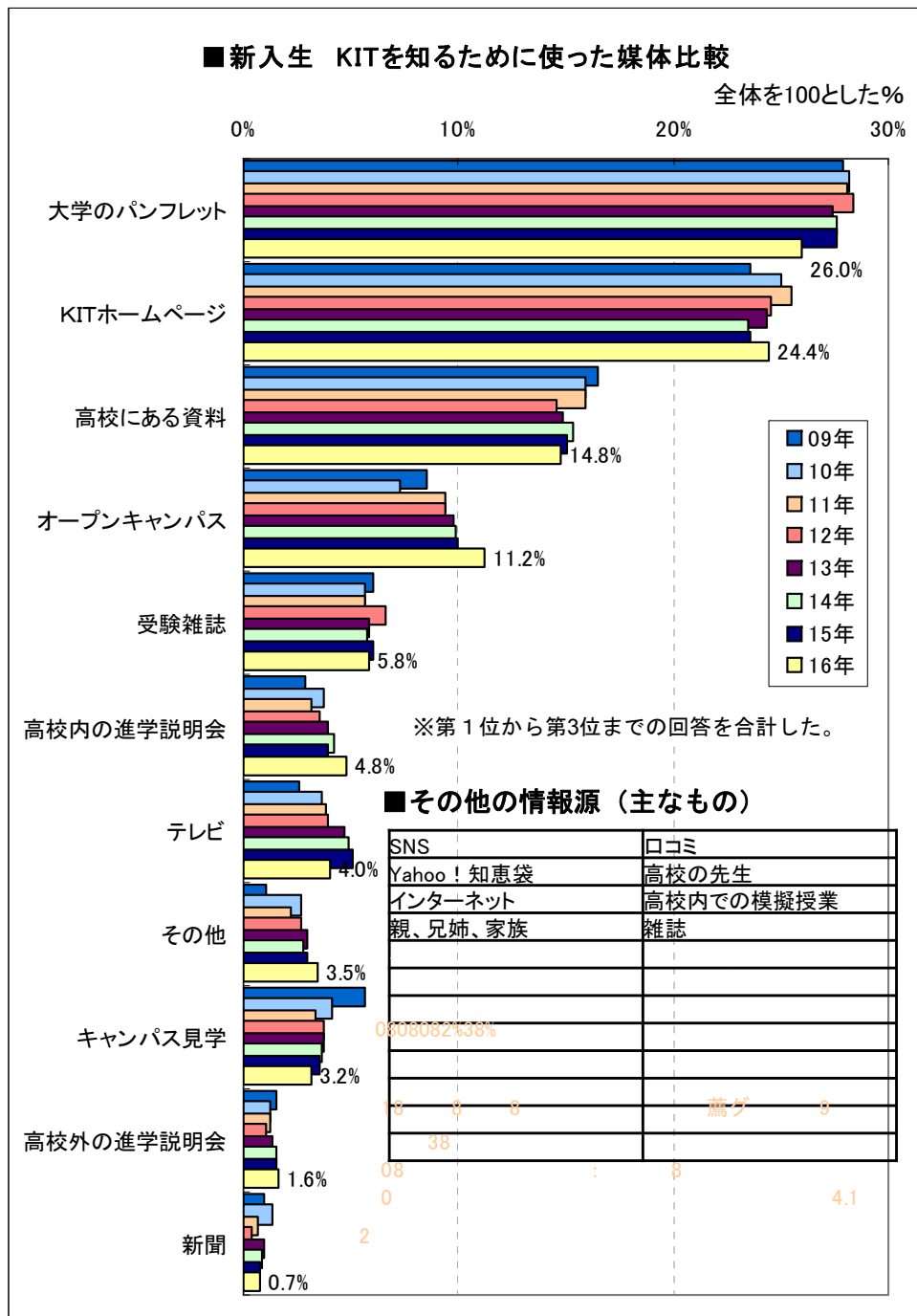
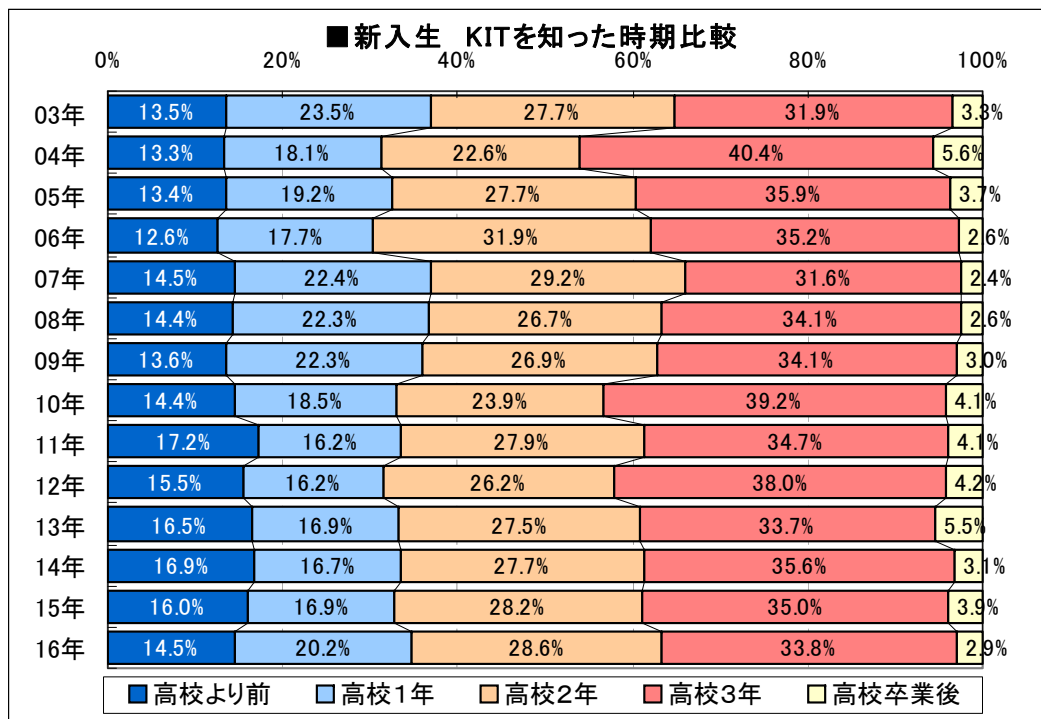
■16年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	16	1.0%	東日本	北海道・東北
青森県	4	0.2%		
岩手県	6	0.4%		
宮城県	5	0.3%		
秋田県	3	0.2%		
山形県	19	1.2%		
福島県	7	0.4%		
茨城県	8	0.5%		
栃木県	7	0.4%		
群馬県	25	1.6%		
埼玉県	3	0.2%		
千葉県	5	0.3%		
東京都	15	0.9%		
神奈川県	9	0.6%		
新潟県	135	8.4%	396 24.7%	264 16.5%
山梨県	10	0.6%		
長野県	119	7.4%		
富山県	206	12.8%		
石川県	399	24.9%		
福井県	112	7.0%		
岐阜県	72	4.5%		
静岡県	89	5.5%		
愛知県	62	3.9%		
三重県	33	2.1%		
滋賀県	33	2.1%		
京都府	27	1.7%		
大阪府	26	1.6%		
兵庫県	55	3.4%		
奈良県	5	0.3%		
和歌山県	13	0.8%		
鳥取県	4	0.2%		
島根県	5	0.3%		
岡山県	11	0.7%		
広島県	6	0.4%		
山口県	4	0.2%		
徳島県	9	0.6%		
香川県	2	0.1%		
愛媛県	3	0.2%		
高知県	3	0.2%		
福岡県	5	0.3%		
佐賀県	0	0.0%		
長崎県	3	0.2%		
熊本県	5	0.3%		
大分県	1	0.1%		
宮崎県	1	0.1%		
鹿児島	3	0.2%		
沖縄県	4	0.2%		
不明	7	0.4%		
合計	1,604	100.0%	1,604 100.0%	1,604 100.0%

# <12-3> KITの認知経路などに関して

## ■KITを知った時期と利用した媒体

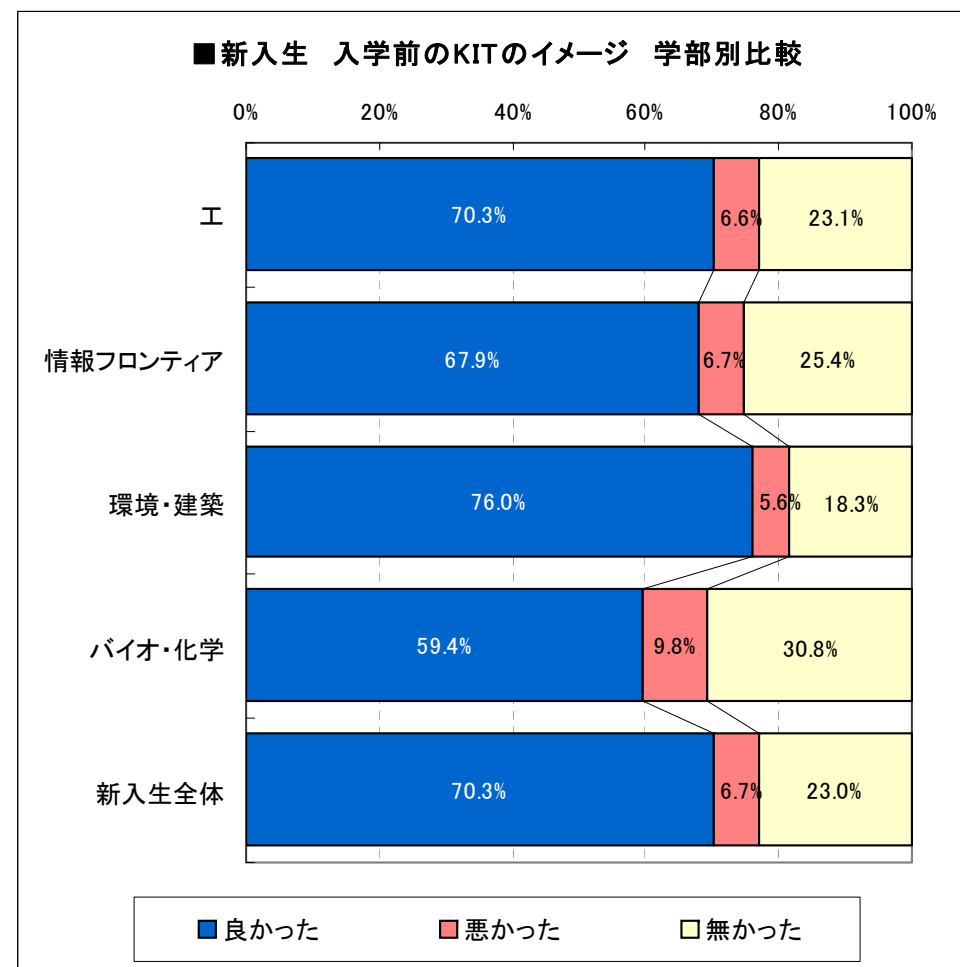
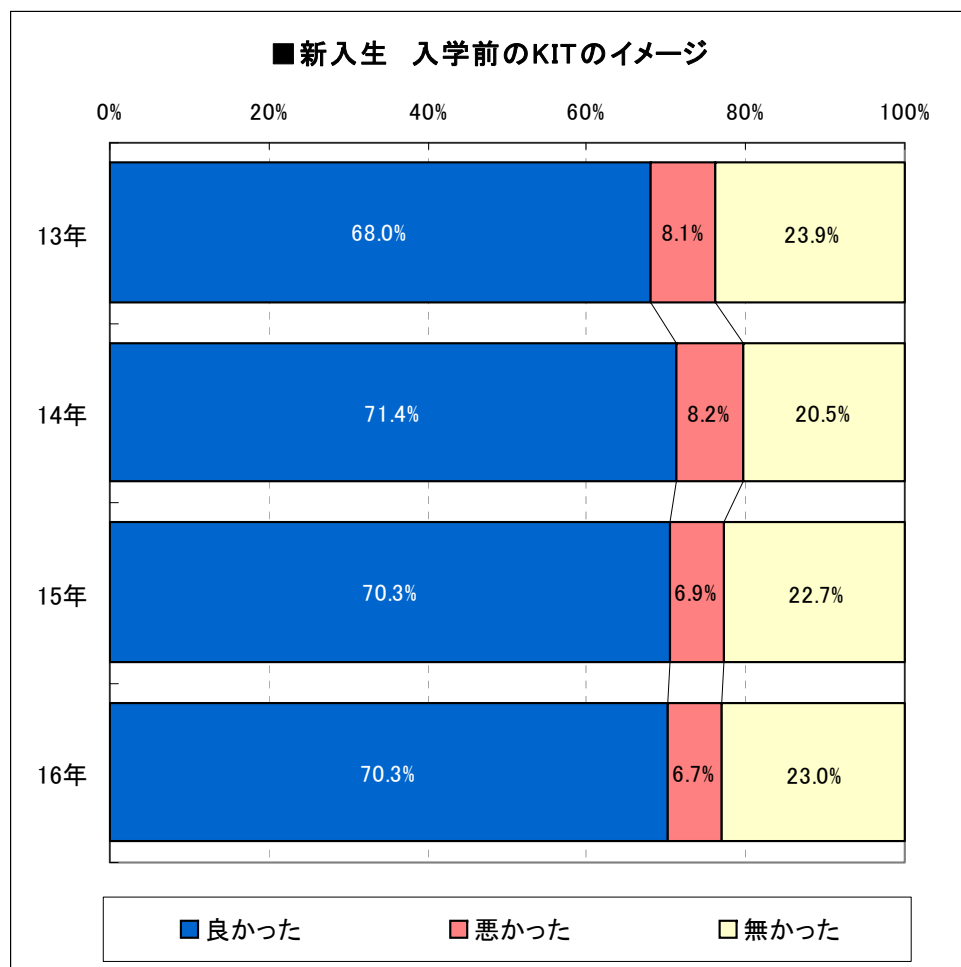
- KITを知った時期では「高校3年」が33.8%と最も多く、「高校2年」が28.6%、「高校1年」が20.2%、「高校より前」が14.5%と続いており、前年と比べると「高校1年」が3.3ポイント増加していた。
- KITを知るために使った媒体は「大学のパンフレット」が26.0%で最も多く、「KITホームページ」(24.4%)、「高校にある資料」(14.8%)と続いており、前回と比較すると「オープンキャンパス」の増加と、「大学のパンフレット」と「テレビ」の減少が目についた。
- 次のページの「KIT入学を相談した人」では「親・親戚」が51.1%と最も多く、「高校の担任の先生」「高校の進路の先生」と続いており、前回と比較すると「高校の担任の先生」の増加が目立っていた。
- 「学科を選択した理由」で最も多かったのは「学科で学ぶ内容」の48.4%であり、「将来性」「学科の名称・イメージ」と続いていた。前回と比較すると「将来性」の増加が大きく、「学科で学ぶ内容」と「学科の名称・イメージ」の減少が目立っていた。





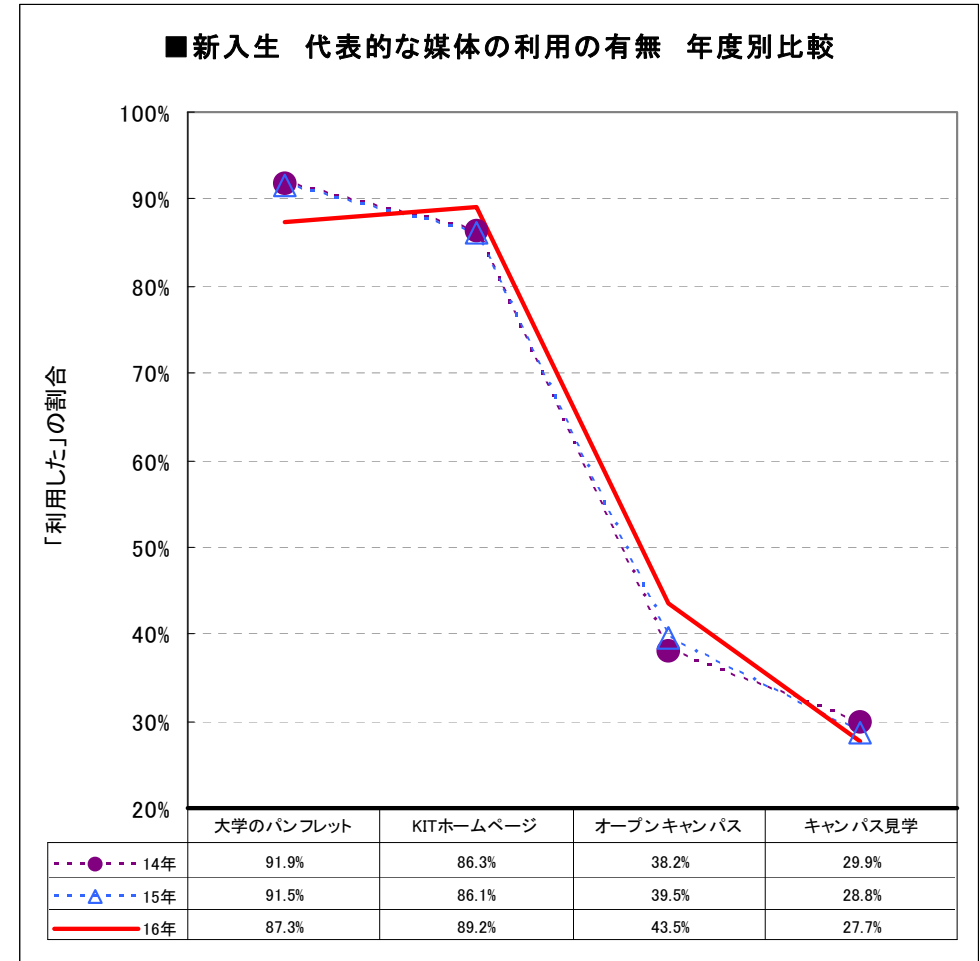
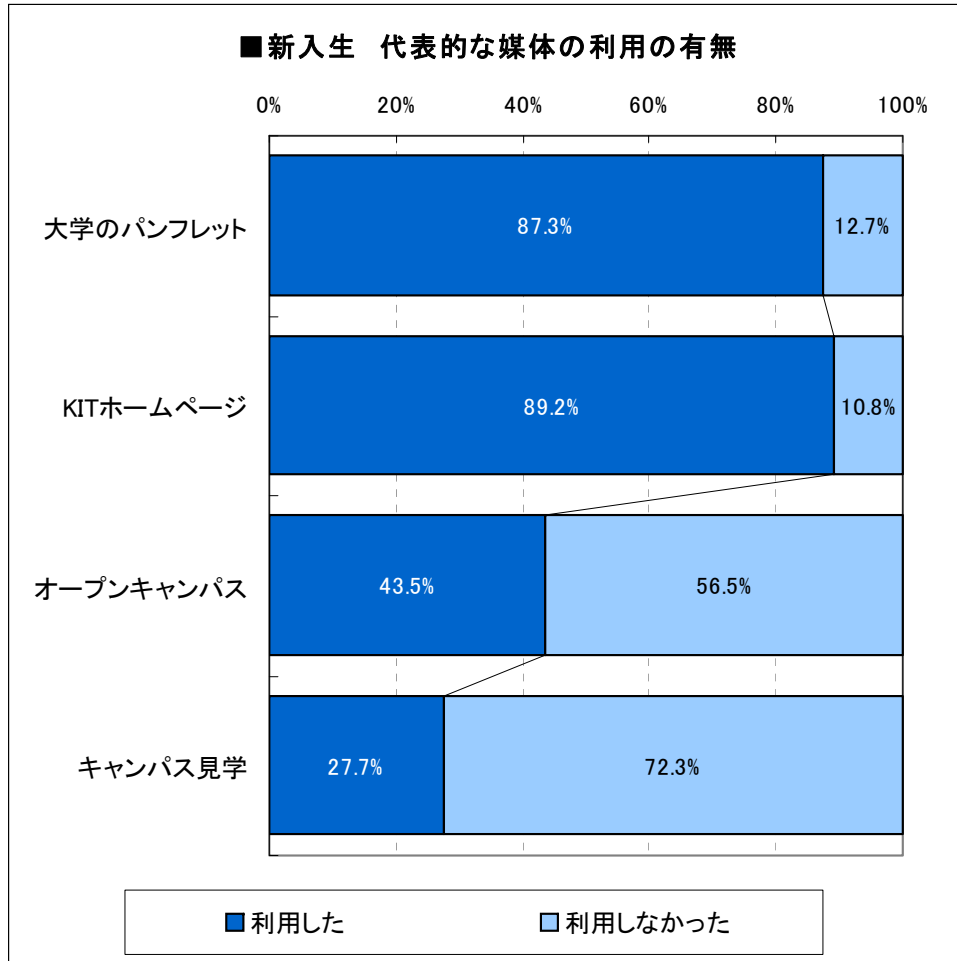
## ■入学前のKITのイメージ

- 新入生の入学前のKITのイメージは、「良かった」が70.3%、「悪かった」が6.7%、「無かった」が23.0%であり、良いイメージを持って入学してくる新入生が7割を占めることが分かった。各々の割合は前回とほぼ同じで、変化は見られなかった。
- 入学前のKITのイメージを学部別に比較すると、「良かった」の割合は「環境・建築」で76.0%と最も多く、「工」が70.3%、「情報フロンティア」が67.9%、「バイオ・化学」が59.4%と続いており、「環境・建築」と「バイオ・化学」の差は16.6ポイントと大きかった。そして、「悪かった」は「バイオ・化学」で9.8%であり、約1割が悪いイメージを持って入学していることが分かった。



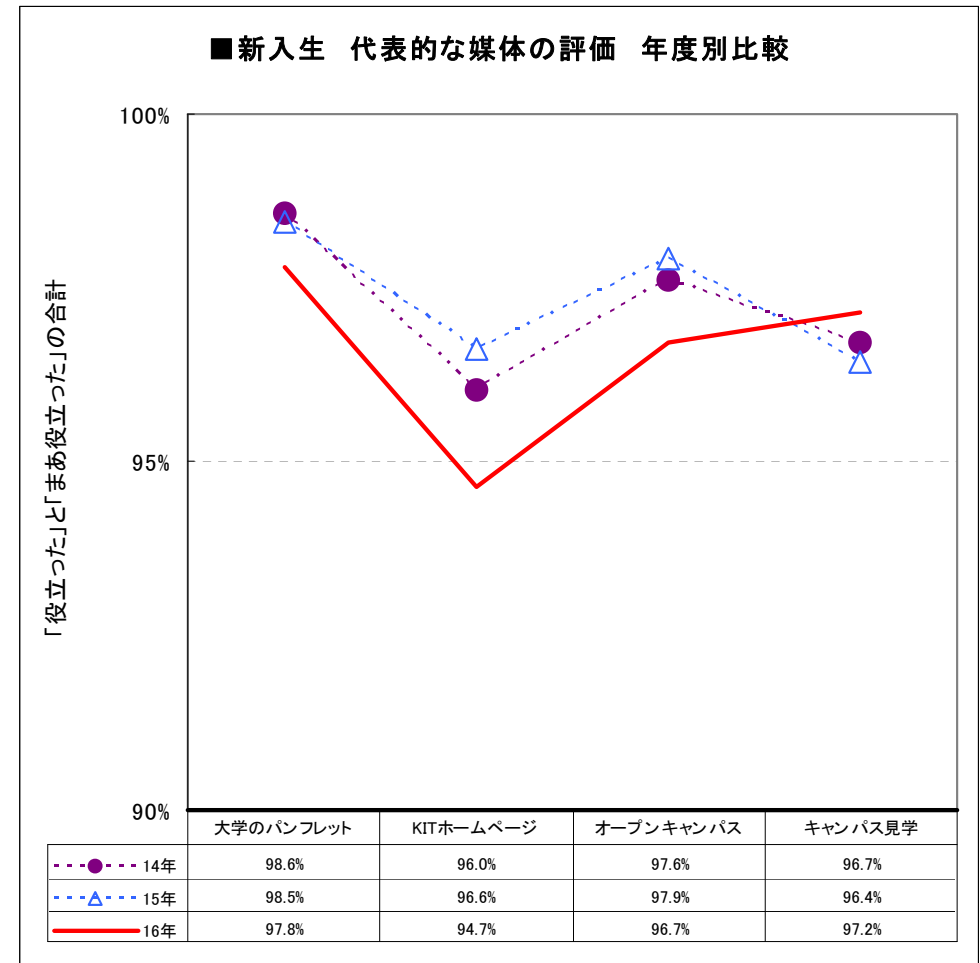
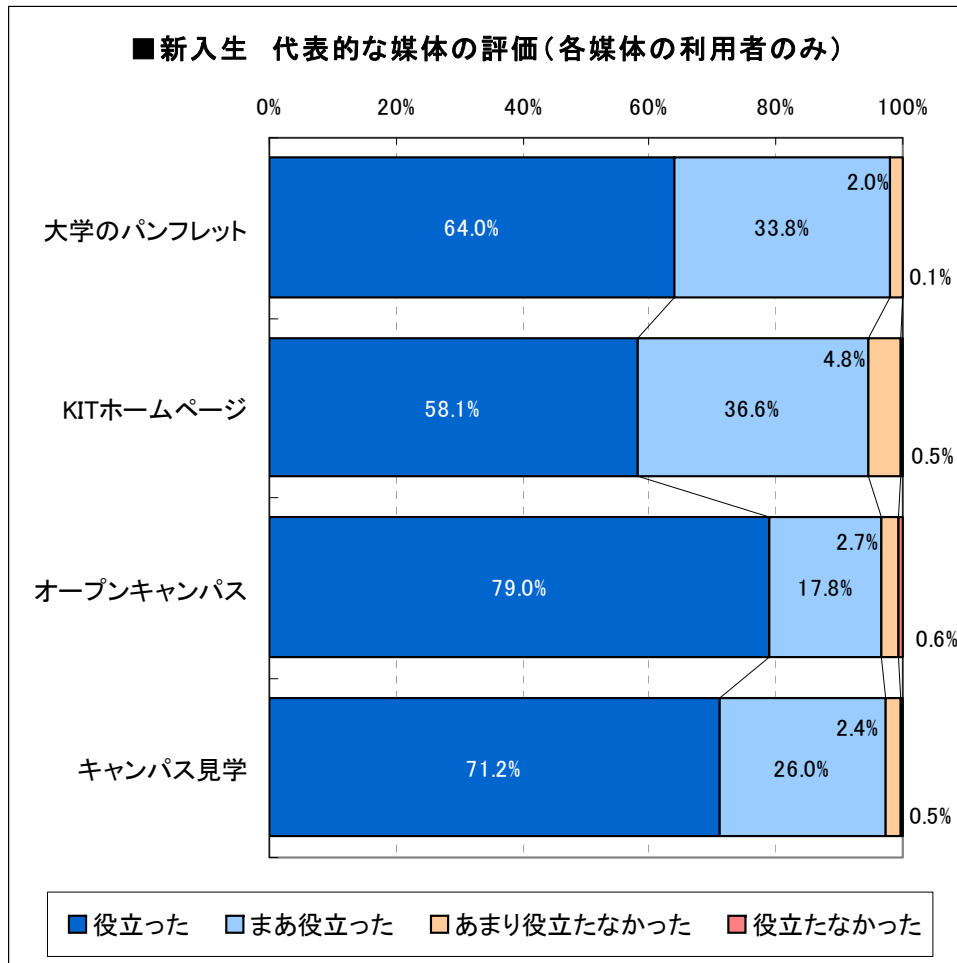
## ■ 代表的な媒体の利用状況

- KITを知るための4つの広報媒体に関して各々の利用経験を聞いたところ、「大学のパンフレット」は87.3%、「KITホームページ」は89.2%が使っていると答えており、この2つの媒体が中心になっている様子がうかがえた。そして、「オープンキャンパス」が43.5%、「キャンパス見学」が27.7%であった。
- 以前と比較すると、14年から15年にかけてはほとんど変化が見られなかったが、今回(16年)は、いずれもわずかな変化であるものの、「大学のパンフレット」の利用率が低下、「KITホームページ」が上昇し、両者の利用率が入れ替わる結果となった。そして、「オープンキャンパス」は上昇、「キャンパス見学」は低下していた。



## ■ 代表的な媒体の評価

- 前項で見た各媒体の利用者に対して、各々の評価を聞いたところ、肯定的な意見は全ての媒体で9割を超えており、非常に高い評価をしていた。
- 「役立った」だけで比較すると、最も高かったのは「オープンキャンパス」の79.0%であった。次いで、「キャンパス見学」が71.2%であり、実際に見たり体験することが、非常に効果があることが分かる。そして、「大学のパンフレット」が64.0%、「KITホームページ」が58.1%が続いていた。
- 以前と比較すると、「キャンパス見学」の評価はわずかに上がったが、他の3つの媒体の評価は低下していた。ただし、いずれもほぼ95%以上が役に立ったという評価であり、決して低いものではなかった。

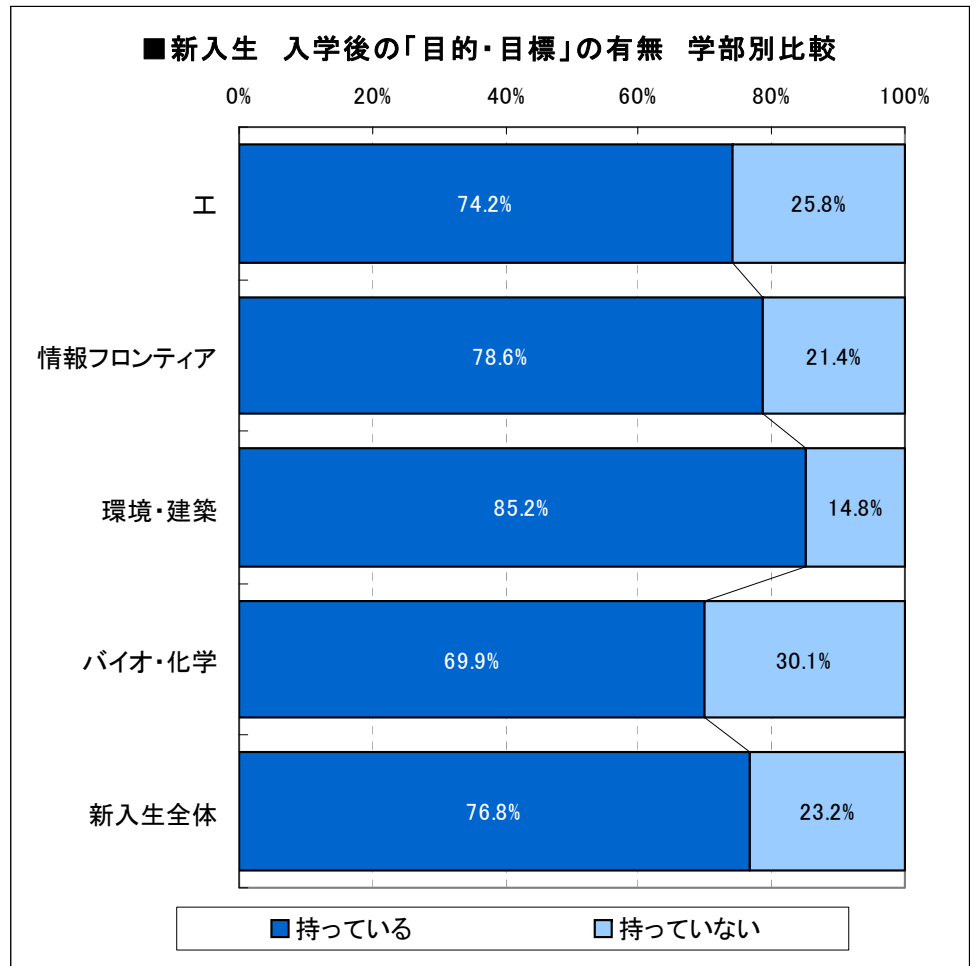
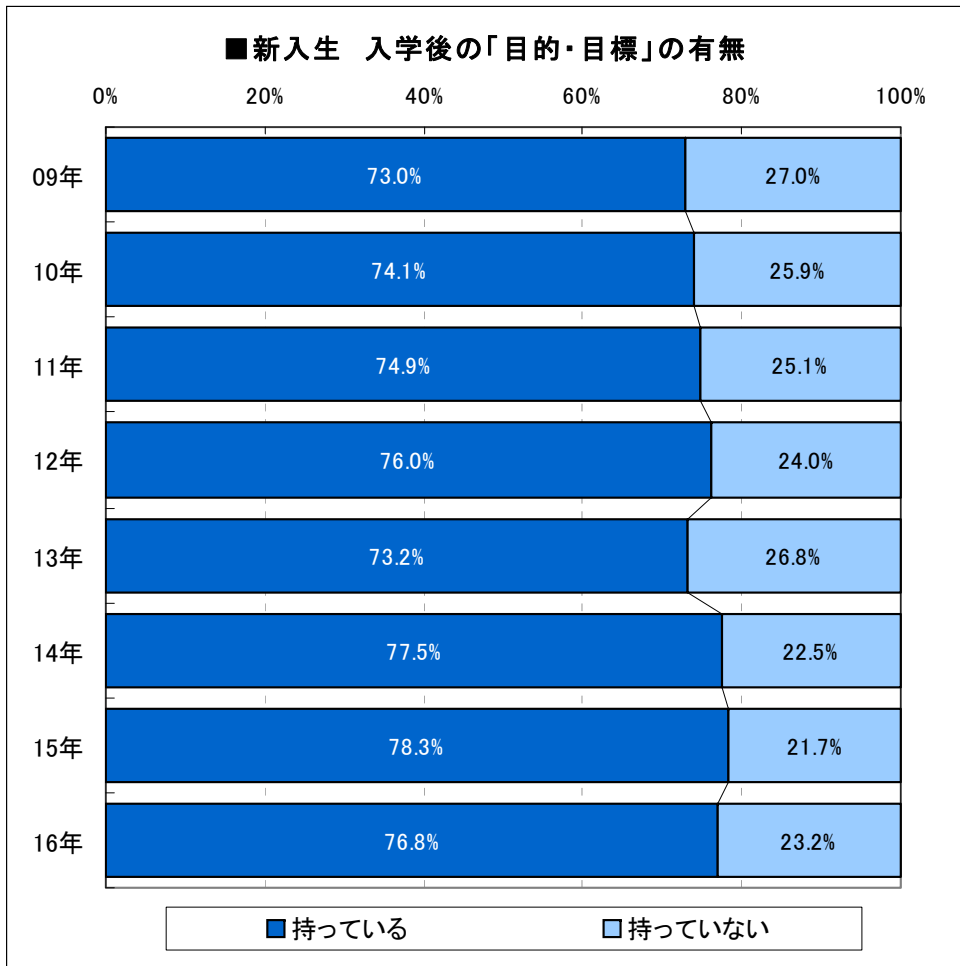




# <12-4>入学後の目的・目標、期待に関して

## ■入学後の目的・目標の有無

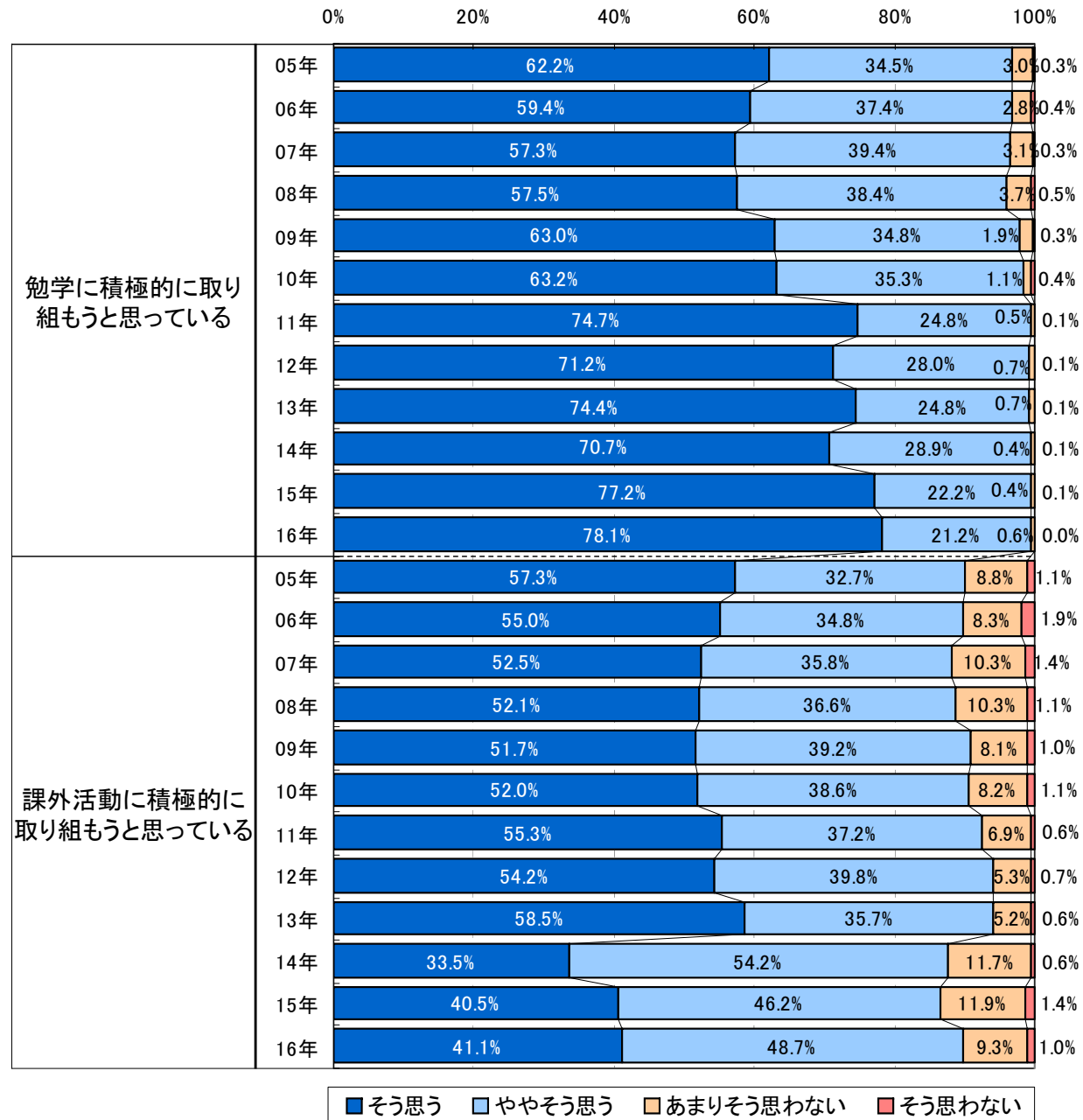
- 「大学に入ってからこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」という問いには、「持っている」が76.8%であった。経年変化を見ると、例外はあるが09年から前回までは右肩上がりが続いていたが、今回は前回よりわずかに低下した。
- 「目的・目標あり」の割合を学部別に比較すると、「環境・建築」が85.2%で最も多く、次いで「情報フロンティア」が78.6%、「工」が74.2%、「バイオ・化学」が69.9%であり、「環境・建築」と「バイオ・化学」との差は15.3ポイントであった。



## ■KITへの期待、心構え

- 13年までの「勉強に積極的に取り組もうと思っている」という質問文は、14年からは「勉学に積極的に取り組もうと思っている」と聞いており、同様に「勉強以外に積極的に取り組めるものを探そうと思っている」という質問文は、14年から「課外活動に積極的に取り組もうと思っている」と、少しニュアンスを変えて聞いている。
- 「勉学に積極的に取り組もうと思っている」に関しては、「そう思う」が78.1%、「ややそう思う」が21.2%であり、ほぼ全員が勉学に積極的に取り組もうと考えていた。そして、「そう思う」の割合はこれまでで最も多くなっており、わずかではあるが更に積極性が上がっていると言える。
- 「課外活動に積極的に取り組もうと思っている」に関しては、「そう思う」が41.1%、「ややそう思う」が48.7%であり、合わせると89.8%が課外活動に積極的に取り組もうと考えていた。14年に質問文が変わったための影響が出ていると思われるが、「そう思う」の割合は14年から大きく低下している。今回は「そう思う」も「ややそう思う」も前回より増加しており、14年以降では最も積極性が高いという結果となっていた。

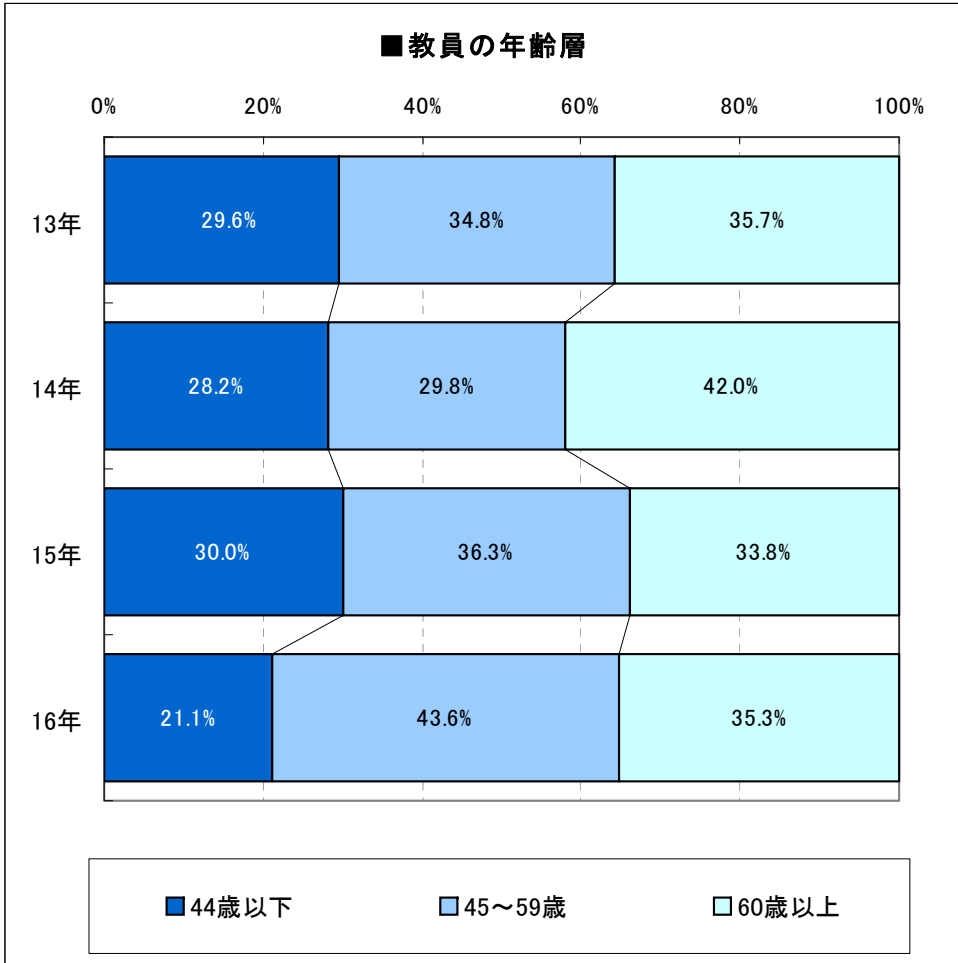
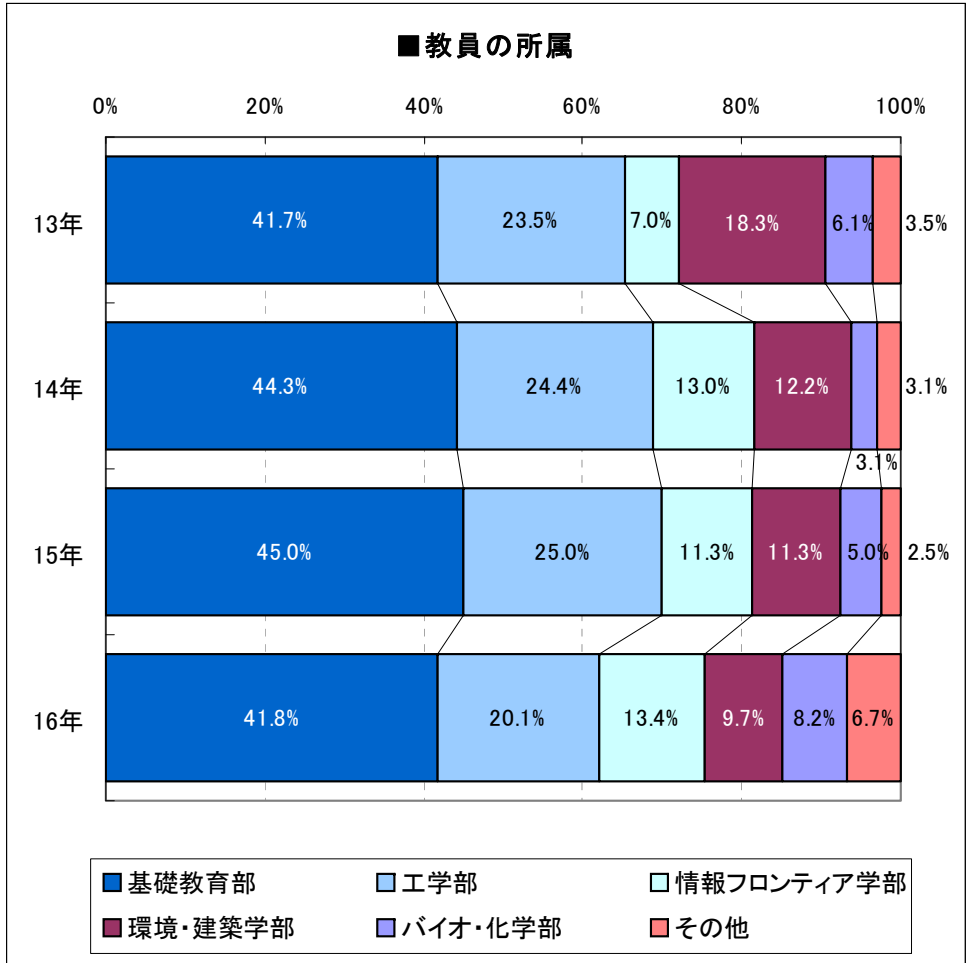
### ■新入生 KITへの期待、心構え



# <13-1>教職員の基本属性

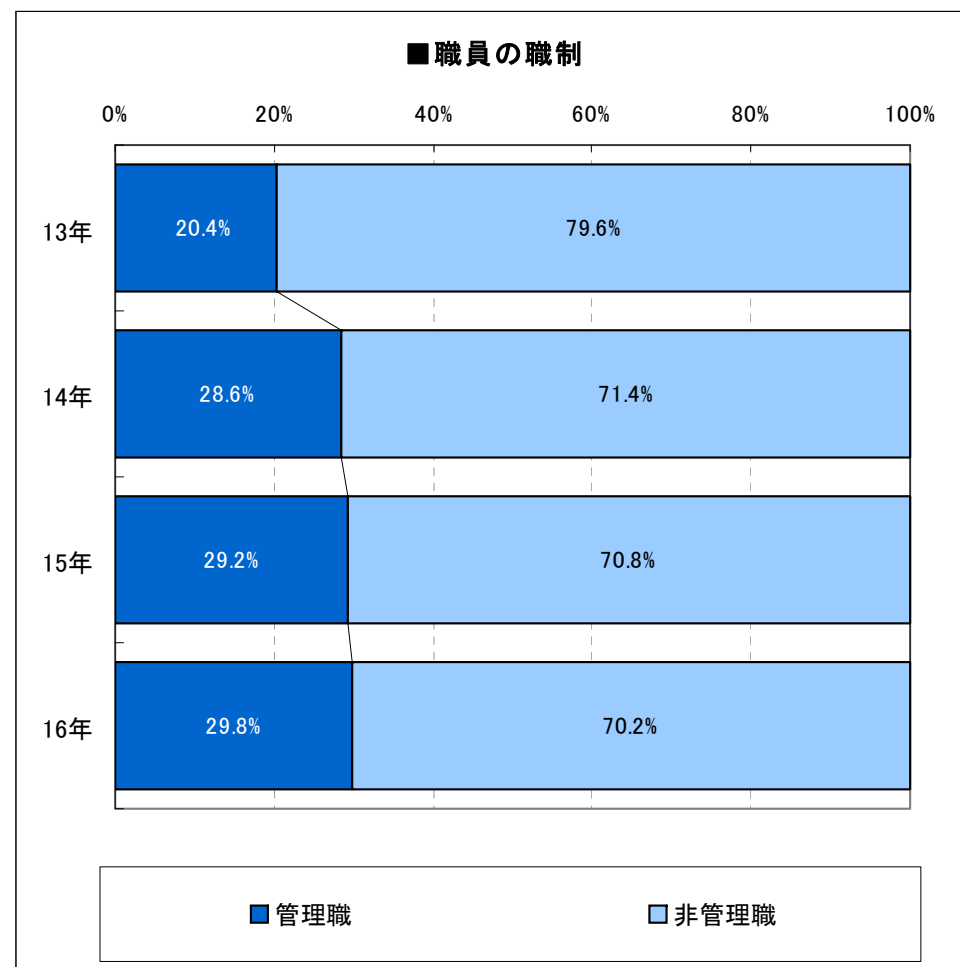
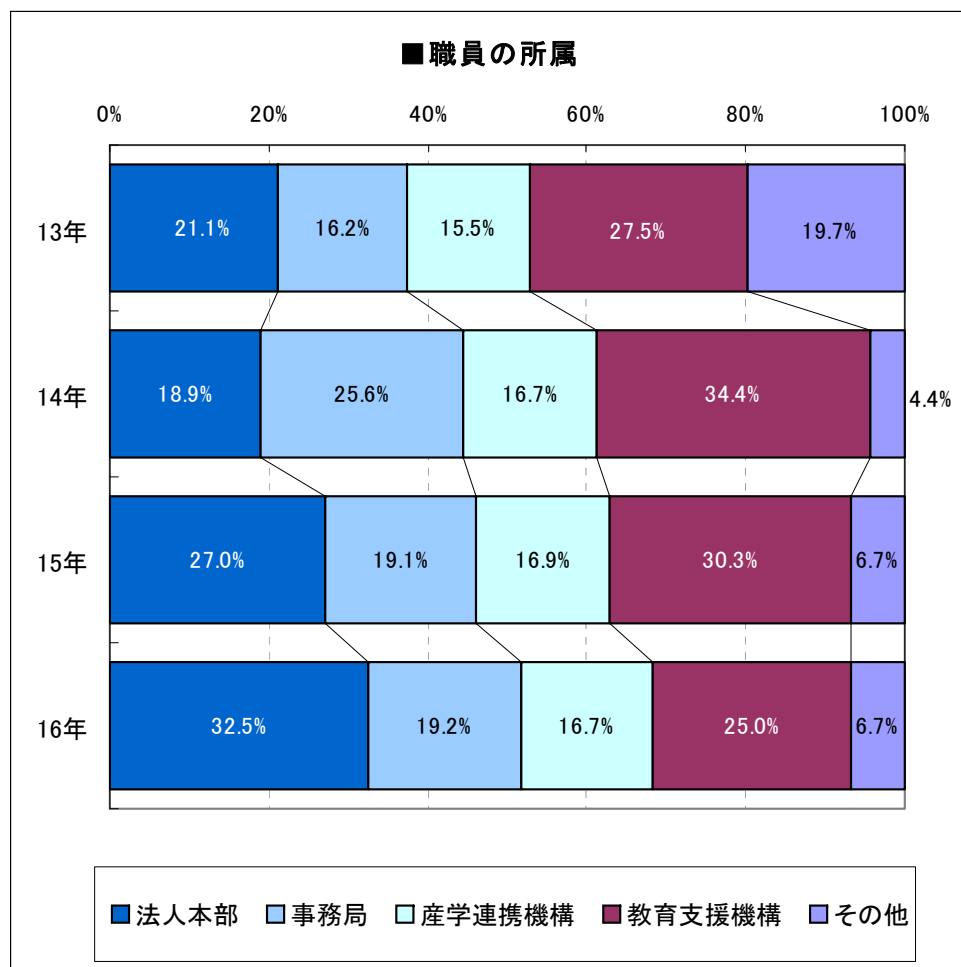
## ■教員の基本属性

- 「教員の所属」では「基礎教育部」が41.8%、「工学部」が20.1%、「情報フロンティア学部」が13.4%、「環境・建築学部」が9.7%、「バイオ・化学部」が8.2%と続いており、前回までは「基礎教育学部」と「工学部」の増加傾向が続いていたが、今回は両者共に前を下回り、「情報フロンティア学部」と「バイオ・化学部」は前を上回った。また、「環境・建築学部」は13年より減少傾向が止まらず、今回は13年から見ると8.6ポイント低い割合であった。
- 「教員の年齢層」では、「44歳以下」が21.1%、「45歳～59歳」が43.6%、「60歳以上」が35.3%であり、前回と比較すると「44歳以下」が大きく減少し、「45～59歳」が大きく増加していた。



## ■ 職員の基本属性

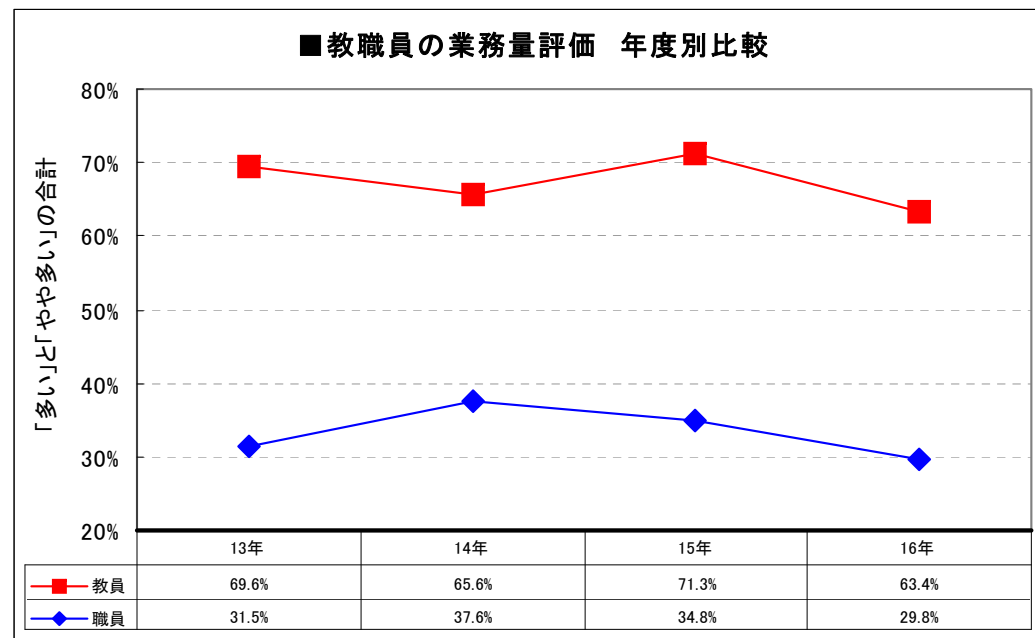
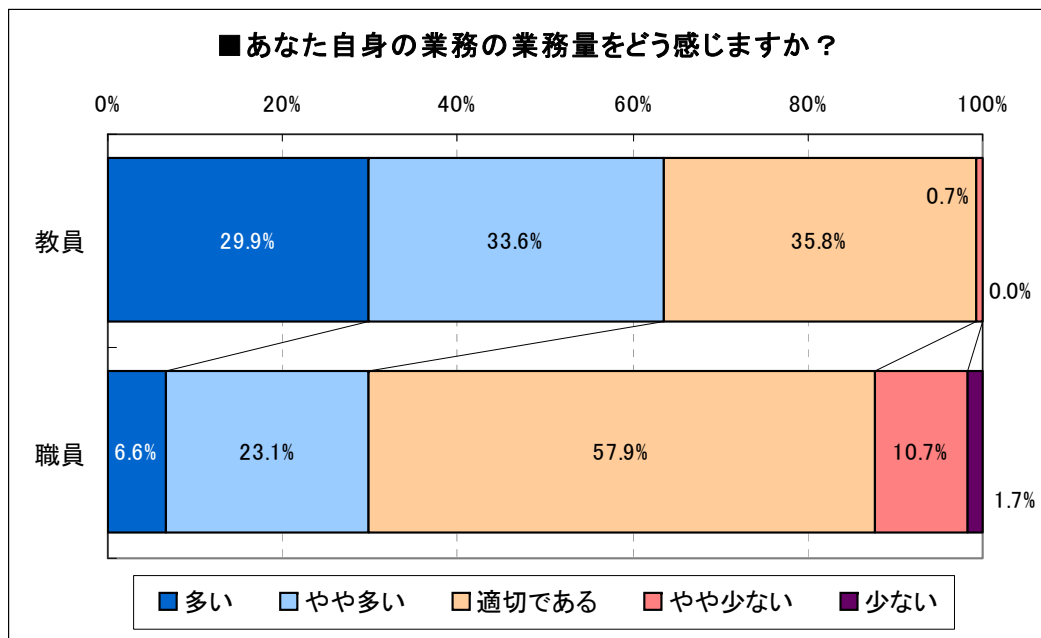
- 「職員の所属」に関しては「法人本部」が32.5%と最も多く、次いで、「教育支援機構」が25.0%、「事務局」が19.2%、「産学連携機構」が16.7%と続いていた。以前と比較すると14年から「法人本部」の増加と「教育支援機構」の減少が続いており、今回、最も多い部署が入れ替わる結果となっていた。
- 職員の「職制」では「管理職」が29.8%、「非管理職」が70.2%であり、前回からの変化はほとんど見られなかった。



# <13-2>業務の状況に関して

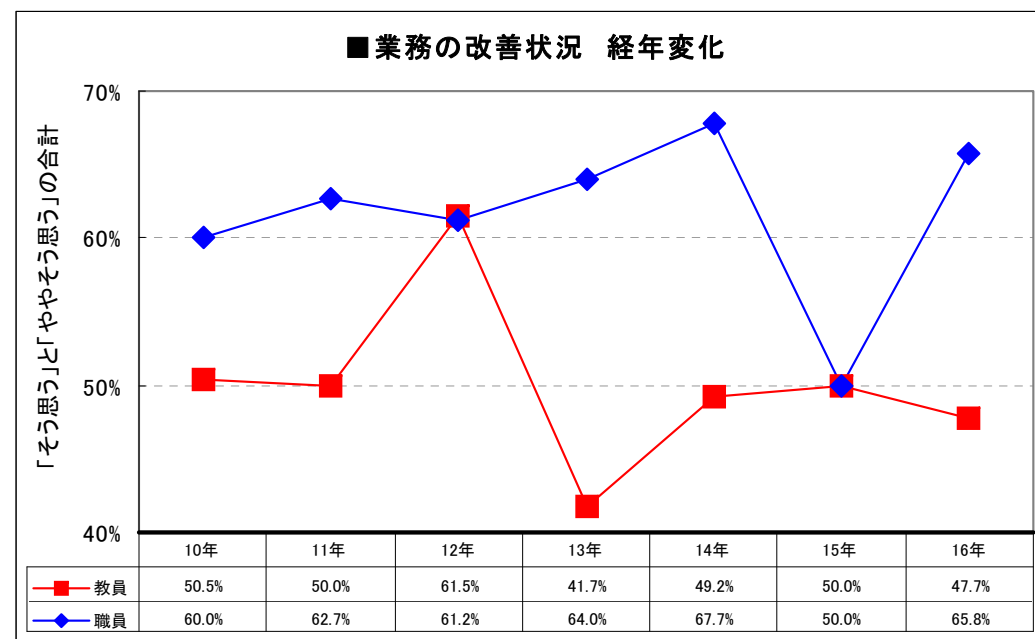
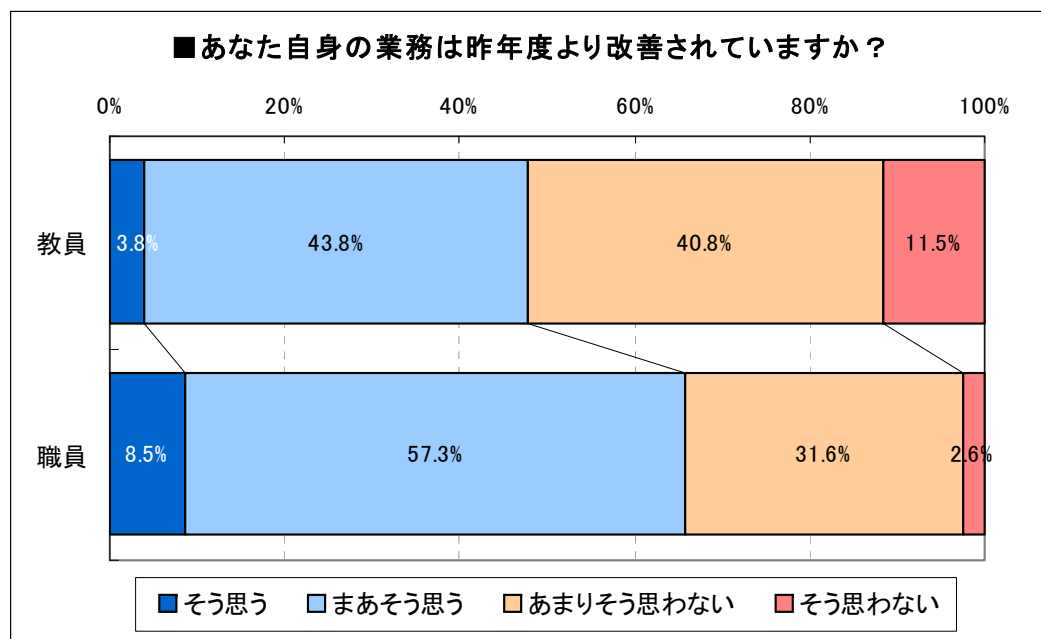
## ■自分自身の業務量

- 「あなた自身の業務量をどう感じますか？」という質問に対して、「教員」では「多い」が29.9%、「やや多い」が33.6%であり、合わせると63.5%が業務量が多いと感じていた。一方、少ないと感じていたのは「やや少ない」の0.7%だけであり、「適切である」は35.8%であった。
- 「職員」では「多い」が6.6%、「やや多い」が23.1%であり、合わせると29.7%であった。一方、業務が少ないと感じる意見は合計で12.4%で、「適切である」は57.9%と半数を超えていた。
- 「教員」と「職員」とを比較すると、業務が多いという意見は「教員」の方が33.8ポイント多く、適切という意見は「職員」の方が22.1ポイント多かった。そして、業務が少ないという意見は「教員」ではほとんどゼロだったが、「職員」では約1割を占めていた。
- 経年変化は、横軸を年度として業務が多いという意見の割合の変化を見ているが、今回は「教員」「職員」共に業務が多いという意見が減少し、過去最低となっていた。



## ■自分自身の業務改善状況

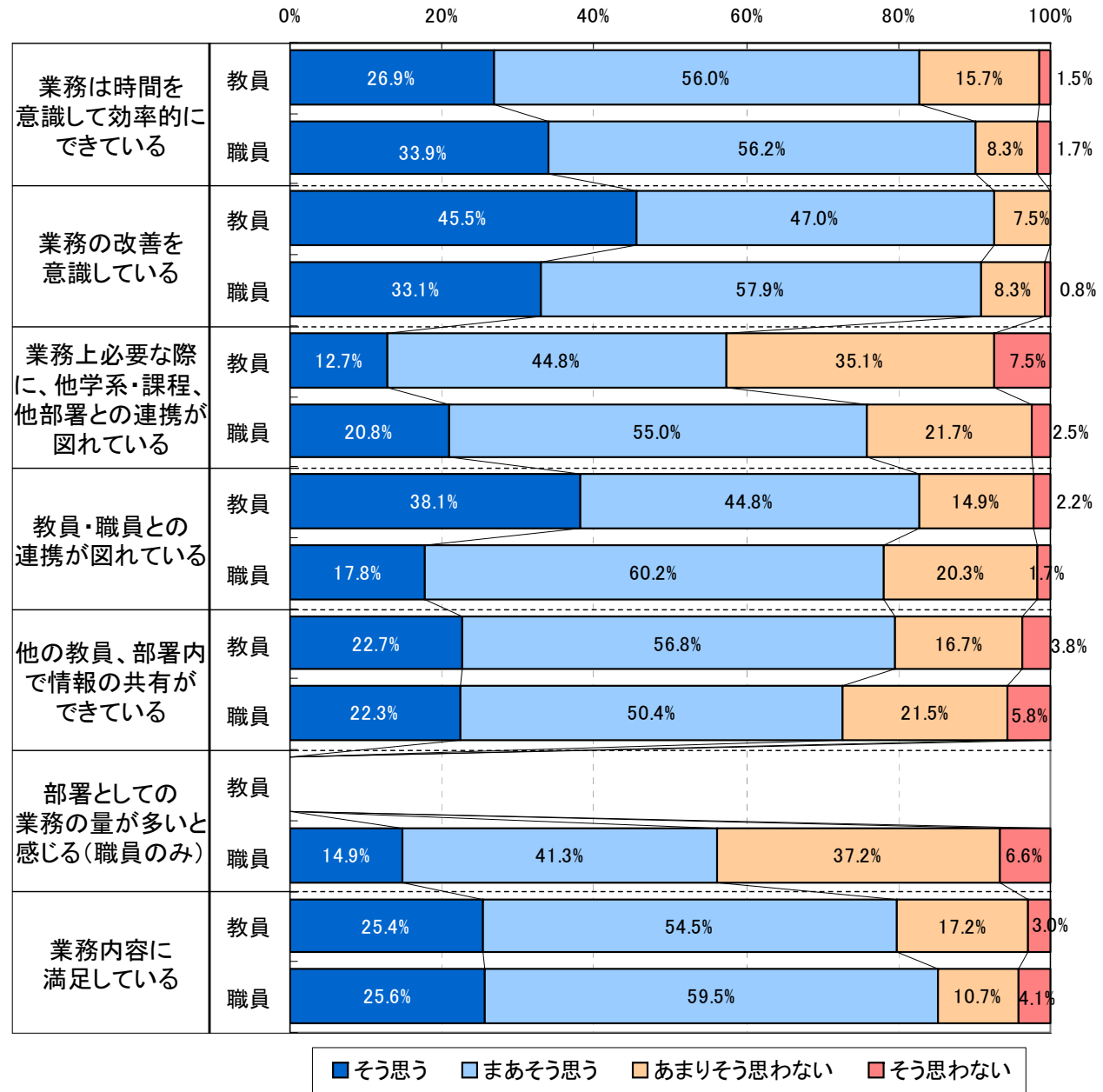
- 「あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？」と聞いたところ、「教員」では「そう思う」が3.8%、「まあそう思う」が43.8%であり、合わせると47.6%が肯定的な意見であった。そして、「職員」では肯定的な意見が65.8%であり、「職員」の方が業務が改善されていると感じているようであった。
- 肯定的な意見の合計で経年変化を見ると、「教員」では前回(15年)よりわずかに減少しているが14年からほとんど変化は見られず、「職員」では14年から15年にかけては大きく低下したものの、今回(16年)は前回は大きく上回って、14年に近いレベルとなっていた。



## ■自分自身の業務状況

- 最初に業務全体の評価である「業務内容に満足している」を見たところ、「教員」では79.9%、「職員」では85.1%が肯定的な意見であり、「職員」の満足度の方が少し高かった。
- 肯定的な意見が最も多かったのは「業務の改善を意識している」であり、「教員」で92.5%、「職員」で91.0%であった。次いで、「業務は時間を意識して効率的にできている」では、「教員」で82.9%、「職員」で90.1%であった。
- 一方、肯定的な意見が少なかったのは、「業務上必要な際に、他学系・課程、他部署との連携が図れている」であり、肯定的な意見は「教員」で57.5%、「職員」で75.8%となっており、他部署との連携に関して課題を感じているようであった。そして、「職員」だけに聞いた質問であるが、「部署としての業務の量が多いと感じる」が56.2%であり、最も肯定的な意見が少なかった。
- 次に「教員」と「職員」との差を見ると、「業務上必要な際に、他学系・課程、他部署との連携が図れている」が最も離れており、両者の差は18.3ポイントで、特に「教員」が他部署との連携に課題を感じているようであった。そして、それ以外の質問ではそれほど大きな差は見られなかった。

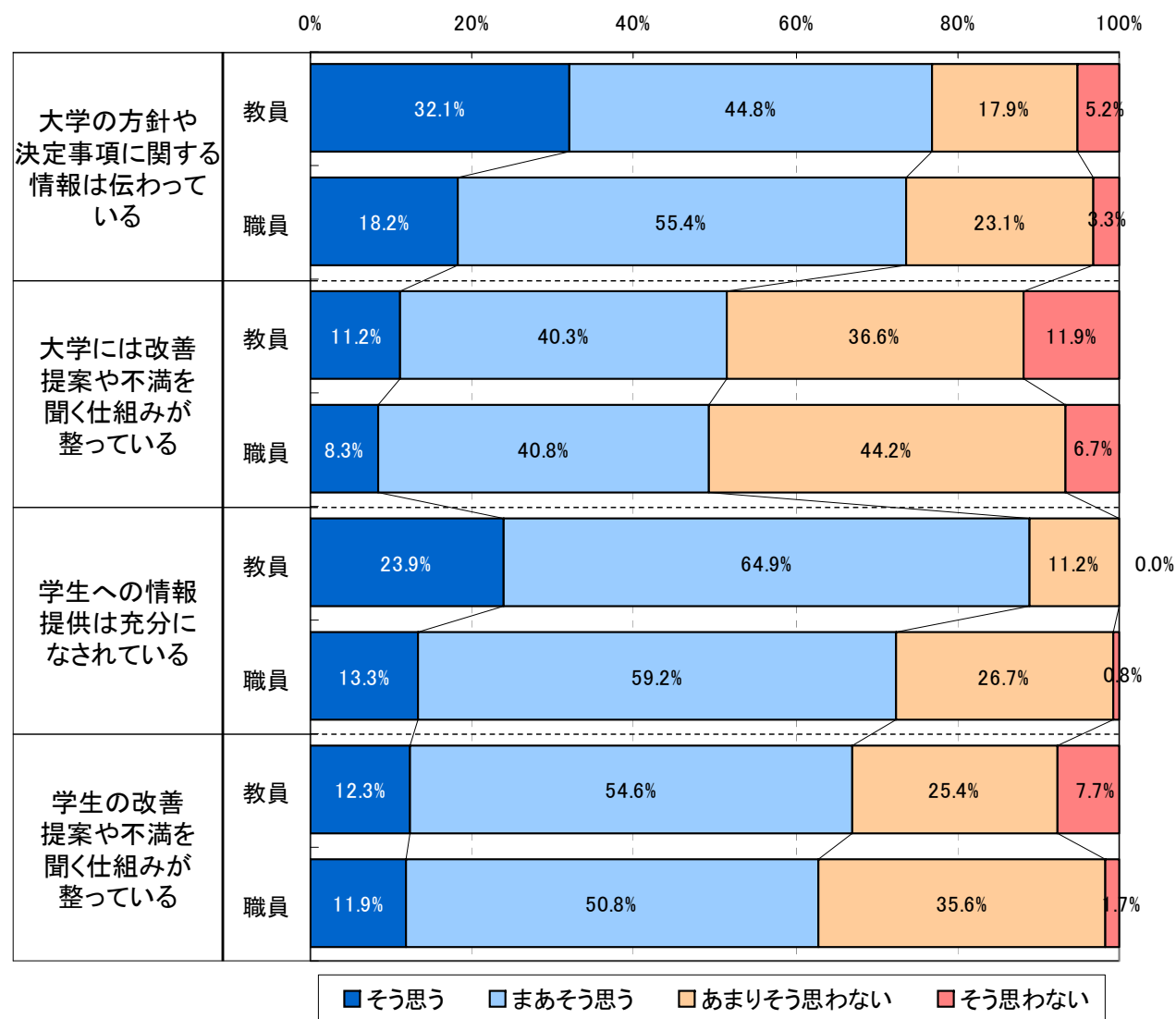
### ■自分自身の業務状況



## ■大学の改善への取り組み状況

- 「教員」で肯定的な意見の合計が最も多かったのは「学生への情報提供は充分になされている」であり、88.8%が肯定的な意見であった。次いで、「大学の方針や決定事項に関する情報は伝わっている」が76.9%、「学生の改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」が66.9%、「大学には改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」が51.5%であり、全てで半数以上が肯定的な意見であった。
- 「職員」では「大学の方針や決定事項に関する情報は伝わっている」が73.6%で肯定的な意見が最も多く、次いで、「学生への情報提供は充分になされている」が72.5%、「学生の改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」が62.7%、「大学には改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」が49.1%であった。
- 「教員」と「職員」を比較すると、全ての項目で「教員」の方が肯定的な意見が多く、特に差が大きかったのは「学生への情報提供は充分になされている」であり、16.3ポイントの差となっていた。また、「改善提案や不満を聞く仕組み」に対する不満は両者共に大きいようであった。

### ■大学の改善への取り組み状況



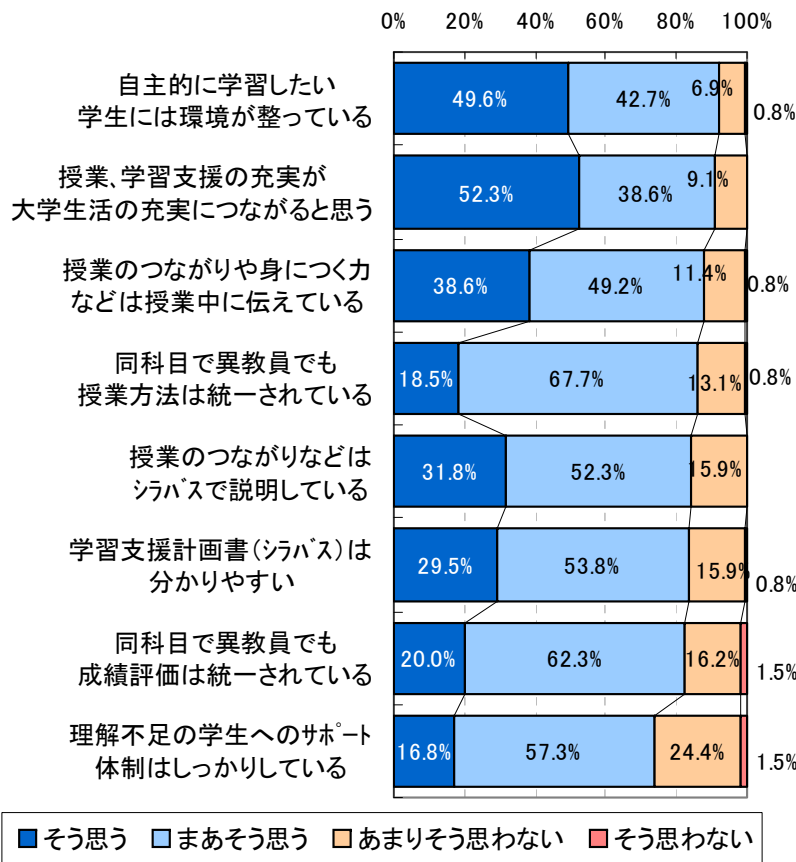


# <13-3>教員の授業および学習支援の自己評価

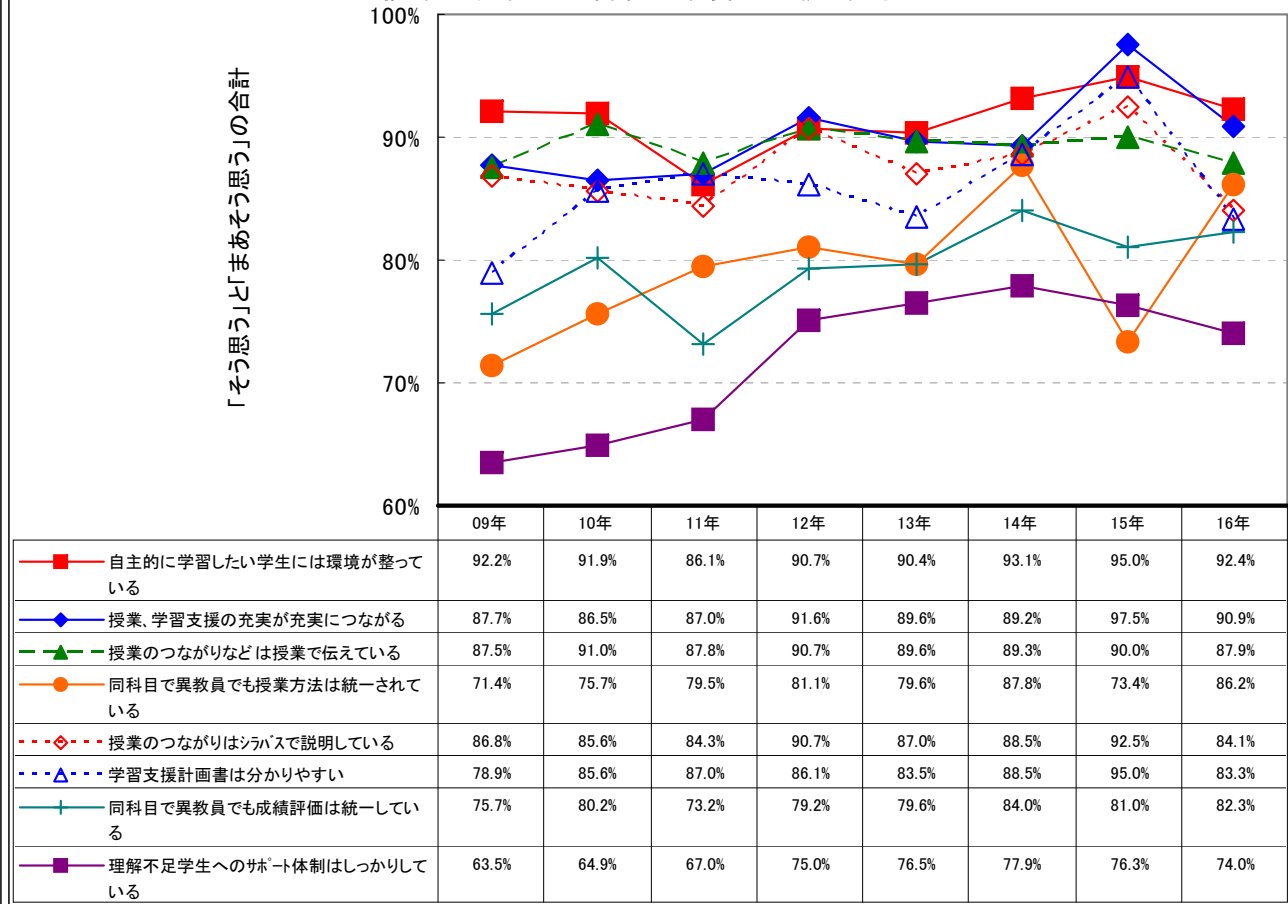
## ■教員の授業および学習支援の自己評価

- 教員の授業および学習支援の自己評価は肯定的な意見の合計によって並び替えているが、最も肯定的な意見が多かったのは「自主的に学習したい学生には環境が整っている」であり、92.3%が肯定的な意見であった。次いで、「授業、学習支援の充実が大学生活の充実につながると思う」が90.9%、「授業のつながりや身につく力などは授業中に伝えている」が87.8%、「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」が86.2%と続いていた。ただし、「そう思う」だけを見ると「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」が18.5%と少なく、課題を感じている教員がいると思われる。また、一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「理解不足の学生へのサポート体制はしっかりしている」の74.1%であった。
- 年度別比較を見ると、「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」は大きく低下した前回は大きく上回り、14年と同じレベルとなっていた。そして、「同科目で異教員でも成績評価は統一している」もわずかではあるが、前回は上回っていた。そして、この2項目以外は全て前回は下回っており、特に「学習支援計画書は分かりやすい」「授業のつながりはシラバスで説明している」の低下が大きく、授業の初期段階でのサポートが低下しているようであった。

### ■教員の授業および学習支援の自己評価



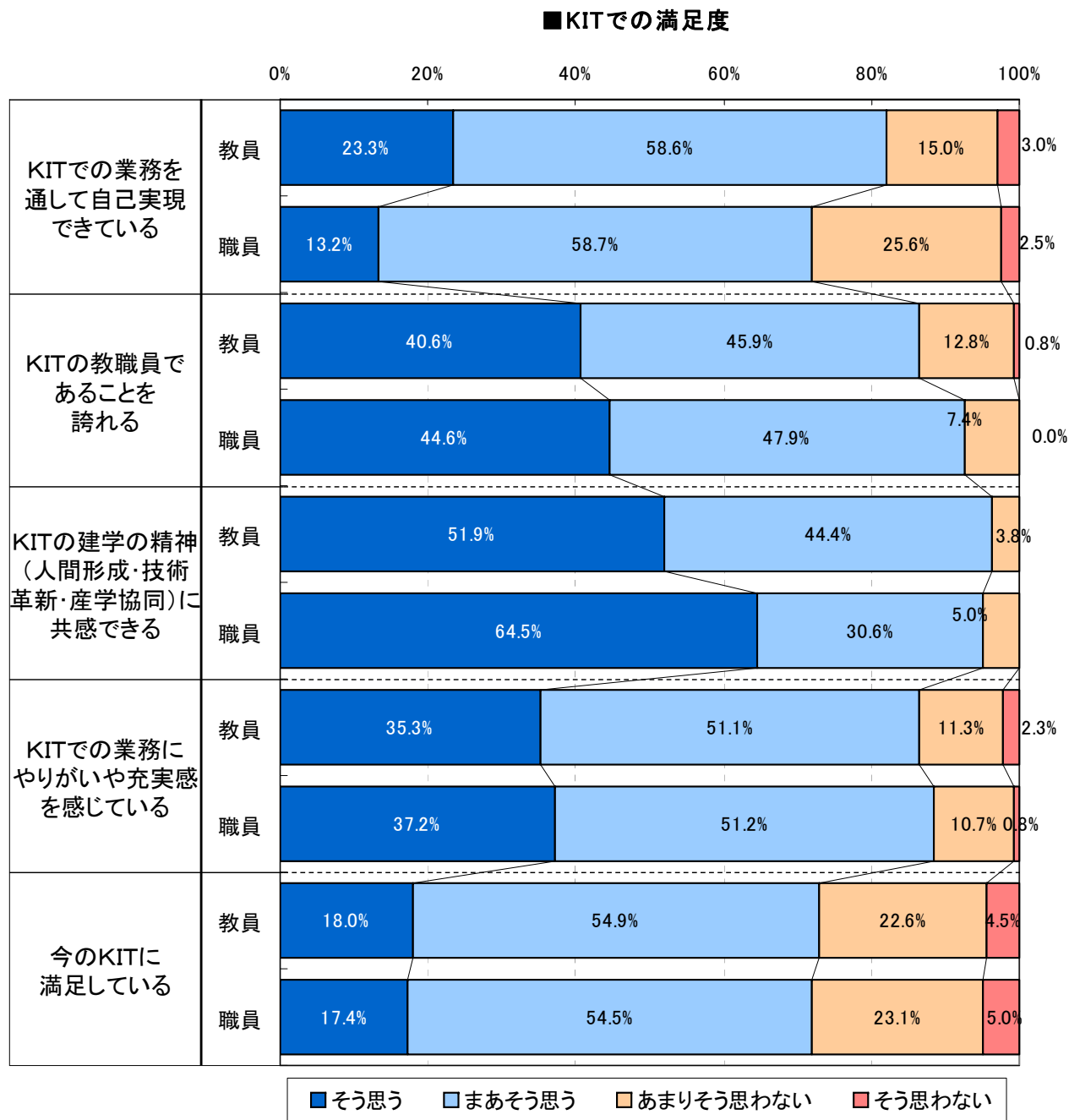
### ■授業の仕組みの評価 年度別比較 (在学生)



# <13-4> KITでの満足度

## ■KITでの満足度

- 最初に「今のKITに満足している」を見たところ、「教員」では「そう思う」が18.0%、「まあそう思う」が54.9%であり、合わせると72.9%が満足していた。そして、「職員」では「そう思う」が17.4%、「まあそう思う」が54.5%であり、合わせて71.9%が満足しており、「教員」「職員」共に7割を超え、よく似た傾向となっていた。
- 「教員」「職員」共に肯定的な意見が多かったのは「KITの建学の精神に共感できる」であり、「教員」では96.3%、「職員」では95.1%が肯定的な意見であった。ただし、「そう思う」だけを見ると「職員」が64.5%で強く共感している職員が多く、「教員」を12.6ポイント上回っていた。
- 一方、肯定的な意見が少なかったのは「KITでの業務を通して自己実現できている」であり、肯定的な意見は「教員」で81.9%、「職員」で71.9%であった。そして、両者の差は10ポイントと最も大きく、「職員」は自己実現が見えていない割合が高かった。
- 「教員」と「職員」では「KITの教職員であることを誇れる」の差が大きく、「教員」より「職員」の方が強く誇りを感じている様子が見えてきた。



---

継続的な改善活動のために!

在学生・卒業生・教職員

## 2016 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

- |           |              |
|-----------|--------------|
| ■発行日      | 平成28年10月20日  |
| ■発行者      | 学校法人 金沢工業大学  |
| ■調査票設計・分析 | 有限会社 アイ・ポイント |
| ■編集       | 金沢工業大学企画部CS室 |
- 

無断複製厳禁